



Sun™ Management Center 3.5 バージョン 3 Sun Fire™ Midrange Systems のための追補マニュアル

Sun Microsystems, Inc.
www.sun.com

Part No. 817-5584-10
2004 年 2 月, Revision A

コメントの宛先: <http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

Copyright 2004 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, CA 95054 U.S.A. All rights reserved.

米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします)は、本書に記述されている製品に採用されている技術に関する知的所有権を有しています。これら知的所有権には、<http://www.sun.com/patents>に掲載されているひとつまたは複数の米国特許、および米国ならびにその他の国におけるひとつまたは複数の特許または出願中の特許が含まれています。

本書およびそれに付随する製品は著作権法により保護されており、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。サン・マイクロシステムズ株式会社による事前の許可なく、本製品および本書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。

本製品のフォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権法により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

本製品のの一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company Limited が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。

本製品は、株式会社モリサワからライセンス供与されたリュウミン L-KL (Ryumin-Light) および中ゴシック BBB (GothicBBB-Medium) のフォント・データを含んでいます。

本製品に含まれる HG 明朝 L と HG ゴシック B は、株式会社リコーがリョービマジクス株式会社からライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。平成明朝体 W3 は、株式会社リコーが財団法人 日本規格協会 文字フォント開発・普及センターからライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。また、HG 明朝 L と HG ゴシック B の補助漢字部分は、平成明朝体 W3 の補助漢字を使用しています。なお、フォントとして無断複製することは禁止されています。

Sun, Sun Microsystems, docs.sun.com、および Sun Fire は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems 社の商標もしくは登録商標です。サン・ロゴマークおよび Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャーに基づくものです。

OPENLOOK、OpenBoot、JLE は、サン・マイクロシステムズ株式会社の登録商標です。

ATOK は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。ATOK8 は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、ATOK8 にかかる著作権その他の権利は、すべて株式会社ジャストシステムに帰属します。ATOK Server/ATOK12 は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、ATOK Server/ATOK12 にかかる著作権その他の権利は、株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。

本書で参照されている製品やサービスに関しては、該当する会社または組織に直接お問い合わせください。

OPENLOOK および Sun Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザインタフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

Use, duplication, or disclosure by the U.S. Government is subject to restrictions set forth in the Sun Microsystems, Inc. license agreements and as provided in DFARS 227.7202-1(a) and 227.7202-3(a) (1995), DFARS 252.227-7013(c)(1)(ii) (Oct. 1998), FAR 12.212(a) (1995), FAR 52.227-19, or FAR 52.227-14 (ALT III), as applicable.

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われぬものとします。

本書には、技術的な誤りまたは誤植のある可能性があります。また、本書に記載された情報には、定期的に変更が行われ、かかる変更は本書の最新版に反映されます。さらに、米国サンまたは日本サンは、本書に記載された製品またはプログラムを、予告なく改良または変更することがあります。

本製品が、外国為替および外国貿易管理法 (外為法) に定められる戦略物資等 (貨物または役務) に該当する場合、本製品を輸出または日本国外へ持ち出す際には、サン・マイクロシステムズ株式会社の事前の書面による承諾を得ることのほか、外為法および関連法規に基づく輸出手続き、また場合によっては、米国商務省または米国所轄官庁の許可を得ることが必要です。

原典: Sun Management Center 3.5 Version 3 Supplement for Sun Fire Midrange Systems
Part No: 817-3626-10
Revision A



目次

はじめに xxi

1. 概要 1

Sun Fire Midrange Systems 用のアドオンソフトウェア 1

このマニュアルで使用されている用語 3

プラットフォームとハードウェアドメインの区別 9

このマニュアルで使用する操作例について 11

2. インストールとセットアップ 13

Sun Fire Midrange Systems に固有のパッケージ 14

Sun Management Center の主な機能と対応する節 18

インストールの作業工程 20

既存の Sun Management Center 3.5 アドオンソフトウェアの更新 21

Sun Fire Midrange Systems 用の Sun Management Center 3.5 アドオンソフトウェアのアンインストール 21

Sun Fire Midrange Systems 用の Sun Management Center 3.5 アドオンソフトウェアのインストールとセットアップ 21

Sun Management Center 3.0 ソフトウェアからのアップグレード 22

Sun Management Center 3.5 の新しいアドオンソフトウェアのインストールとセットアップ 22

個別にリリースされたアドオン製品のインストール 22

SC のフェイルオーバー機能の有効化 23

- ▼ SC のフェイルオーバー機能を有効にして論理 IP アドレスを作成する 24
- システムコントローラ上の SNMP の設定 24
- ▼ プラットフォーム上の SNMP を設定する 25
- ▼ ドメイン上の SNMP を設定する 26
- インストールウィザードによる Sun Fire Midrange Systems 用アドオンソフトウェアのインストール 28
- Sun Management Center 3.5 ソフトウェアのインストールの概要 29
- セットアップウィザードによる Sun Fire Midrange Systems 用アドオンソフトウェアのセットアップ 29
- ▼ セットアップウィザードを使用してプラットフォームエージェントをセットアップする 30
- ▼ セットアップウィザードを使用してドメインエージェントをセットアップする 42
- ウィザードの高度なセットアップオプションの使用 42
- 「エージェント更新」による複数ホストの更新 43
- エージェント更新プロセスを起動する前に 43
- ▼ 更新対象のホスト上でエージェント更新用構成ファイルを作成する 44
- エージェント更新プロセスの使用 44
- エージェント更新でサポートされる構成 44
- ▼ Sun Management Center 3.5 アドオンソフトウェアが存在する構成を更新する 45
- ▼ アドオンソフトウェアが存在しない、または Sun Management Center 3.0 Platform Update 4 アドオンソフトウェアが存在する構成を更新する 48
- Sun Fire Midrange Systems のプラットフォームエージェントインスタンスの作成と設定 49
- ▼ プラットフォームエージェントのインスタンスを作成する 49
- ▼ 複数のプラットフォームエージェントのインスタンスを作成する 50
- ▼ 新しいプラットフォームエージェントのインスタンスに対する Sun Fire Midrange Systems 用プラットフォーム管理モジュールを設定する 51

- ▼ プラットフォームインスタンスを起動する 52
- ▼ プラットフォームインスタンスを停止する 52
- グループへのユーザの割り当て 52
 - ▼ 管理者およびオペレータグループにユーザを割り当てる 53
- 設定の取り消しとプラットフォームエージェントの削除 54
 - ▼ Sun Fire Midrange Systems のデフォルトのプラットフォーム管理モジュールの設定を取り消す 54
 - ▼ Sun Fire Midrange Systems 用のプラットフォーム管理インスタンスの設定を取り消す 54
 - ▼ プラットフォームエージェントを削除する 55
- ドメインの設定 55
 - ▼ ハードウェアドメインを作成する 56
 - ▼ 管理ドメインを作成する 56
- 3. プラットフォームエージェントによるプラットフォームおよびドメインの管理 57
 - Sun Fire Midrange Systems 用プラットフォーム管理モジュール 57
 - ▼ Sun Fire Midrange Systems のドメインオブジェクトだけを作成する 59
 - ▼ Sun Fire Midrange Systems のプラットフォームオブジェクトだけを作成する 59
 - ▼ Sun Fire Midrange Systems の複合オブジェクトを作成する 60
 - プラットフォーム管理モジュールのドメインテーブルへのアクセス 63
 - ドメイン X のスロットテーブル 64
 - ドメイン X の空きスロット 65
 - ドメイン X の CPU ボード 66
 - ドメイン X の 入出力ボード 67
 - ドメイン X の不明なボード 68
 - ドメイン X の構成部品 (コンポーネント) テーブル 69
 - ドメイン X の CPU モジュール 69
 - ドメイン X の DIMM モジュール 70

ドメイン X の E キャッシュ	71
ドメイン X の WCI	71
ドメイン X の WCI ポート	72
ドメイン	73
ドメインテーブルの操作	74
▼ ドメインのキースイッチ設定を変更する	76
▼ ドメインのログホストを設定する	78
▼ FRU 情報を表示する	79
▼ ホストの詳細を表示する	79
プラットフォーム管理モジュールのプラットフォームテーブルへのアクセス	80
プラットフォームシステム	82
プラットフォームのシャーシ	82
プラットフォームのスロットテーブル	83
プラットフォームの空きスロット	84
プラットフォームの CPU ボード	85
プラットフォームの入出力ボード	86
プラットフォームの L2 リピータ	87
プラットフォームのファントレー	88
プラットフォームの電源装置	89
プラットフォームのシステムコントローラ (SC)	90
プラットフォームの不明なボード	91
プラットフォームの構成部品テーブル	91
プラットフォームの CPU モジュール	92
プラットフォームの DIMM	93
プラットフォームの E キャッシュ	94
プラットフォームの WCI	94
プラットフォームの WCI ポート	95
プラットフォームのドメイン	96

プラットフォームテーブルの操作	97
▼ 使用可能なボードを割り当てる	100
▼ ボードを割り当て解除する	100
▼ ボードの電源をオンまたはオフにする	101
▼ ボードをテストする	102
▼ システムコントローラを設定する	102
▼ ログホストを設定する	104
▼ FRU 情報を表示する	105
▼ ホストの詳細を表示する	105
▼ ドメインのアクセス制御リストを編集する	106
Sun Fire Midrange Systems の物理表示と論理表示	107
▼ 物理および論理表示する	107
プラットフォーム管理のハードウェア規則	113
スロットの状態規則 (rspa1000)	114
システム周波数クロック規則 (rspa1001)	114
ドメインの状態規則 (rspa1002)	115
ドメインのキースイッチ規則 (rspa1003)	115
システムコントローラのフェイルオーバー規則 (rspa1004)	115
システムコントローラの変化規則 (rspa1005)	116
ログまたはトラップホストの変化規則 (rspa1006)	116
システムコントローラの応答なし規則 (rspa1007)	117
CPU モジュールの状態規則 (rspa1008)	117
システムコントローラのファームウェアのバージョン規則	117
システムボードのテスト状態規則 (rspa1010)	118
ドメインまたはボードの電源状態規則 (rspa1011)	118
データ収集テーブル	119
4. ドメインエージェントによるドメインの管理	123
管理ドメインの設定	123

エージェントの起動と停止	123
ノードの作成	124
構成リーダーモジュール	124
▼ 構成リーダーモジュールを使用する	124
構成リーダーモジュールの読み込み	128
▼ モジュールを読み込む	129
ドメインの構成リーダーモジュールのテーブルへのアクセス	130
▼ ドメイン構成リーダーのテーブルを再表示する	130
ドメインシステム	131
ドメインのボード	132
ドメインの CPU ユニット	133
ドメインの DIMM	134
ドメインの入出力コントローラ	134
ドメインの Sun Fire Link ASIC	135
ドメインの Sun Fire Link Paroli DCA	135
ドメインの入出力デバイス	136
ドメインのディスクデバイス	137
ドメインのテープデバイス	137
ドメインのネットワークデバイス	138
ドメインのメモリコントローラ	139
ドメインの構成リーダーの規則	139
CPU ユニットの状態規則 (rcrse207)	139
テープの状態規則 (rcrse225)	140
システムボードの状態規則 (rcrse301)	140
接続点の状態規則 (rLnkVld)	140
Sun Fire Midrange Systems の規則	141
CPU エラーメッセージ規則 - Solaris 8, 7/01 以降 (rsr1000)	141
CPU エラーメッセージ規則 - Solaris 8, 7/01 以前 (rsr1001)	141

SCSI 警告メッセージ規則 (rsr1002)	142
UNIX 警告メッセージ規則 (rsr1003)	142
Genunix 日付の警告メッセージ規則 (rsr1004)	143
Genunix クロックの警告メッセージ規則 (rsr1004)	143
ファンプレートの警告メッセージ規則 (rsr1006)	144
LUN 障害規則 (rsr1007)	144
PLOGI 障害規則 (rsr1008)	144
ECC 訂正規則 (rsr1009)	145
Q ロジックエラー規則 (rsr1010)	145
カーネル訂正規則 (rsr1011)	146
SCSI 情報イベント規則 (rsr1012)	146
SCSI ディスクオンライン規則 (rsr1013)	146
温度状態規則 (rsr1014)	147
電源状態規則 (rsr1015)	147
ドメインの物理表示と論理表示	148
5. ドメインからの動的再構成 (DR)	151
前提条件	151
DR モジュール	152
DR の属性	153
接続点	154
CPU/ メモリ	154
PCI/PCI+/cPCI/hPCI 入出力ボード	155
WPCI	156
cPCI/hPCI カード	157
SCSI	158
空きスロット	159
MaxCPU	160
動的接続点	160

CPU コンポーネント	161
メモリコンポーネント	162
入出力コンポーネント	163
SCSI コンポーネント	164

ドメインからの DR 操作 164

サポートされている <code>cfgadm</code> のオプション	165
ドメインからのドメイン情報の表示	166
ボードがドメインの ACL に登録されていることの確認	166
ボードの割り当て	166
▼ ボードを割り当てる	166
ボードの割り当て解除	167
▼ ボードを割り当て解除する	167
システムボードのアタッチ	167
▼ システムボードをアタッチする	168
システムボードのデタッチ	168
▼ システムボードをデタッチする	169
ボードの接続	169
▼ システムボードを接続する	170
ボードの切断	170
▼ SCSI ボード以外のシステムボードを切断する	170
▼ SCSI ボードを切断する	171
ボード、コンポーネント、メモリの構成	172
▼ システムボード、コンポーネント、またはメモリを構成する	172
ボード、コンポーネント、メモリの構成解除	173
▼ システムボードまたはコンポーネントを構成解除する	173
▼ メモリを構成解除する	174
ボードの電源オン	174
▼ ボードの電源をオンにする	175

ボードの電源オフ 175

▼ ボードの電源をオフにする 175

ボードのテスト 176

▼ ボードをテストする 176

状態の表示 177

▼ 状態を表示する 177

A. CLI による Sun Management Center ソフトウェアのインストールとセットアップ、アンインストール、起動、停止 179

ソフトウェアのインストール 179

▼ CLI を使用して補助ソフトウェアをインストールする 179

CLI による Sun Fire Midrange Systems 用プラットフォーム管理モジュールの設定 181

エージェントとサーバ階層の設定 182

▼ エージェントマシンで Sun Fire Midrange Systems 用プラットフォーム管理モジュールをセットアップする。 182

▼ サーバ上の Sun Fire Midrange Systems 用プラットフォーム管理モジュールのサーバ階層だけを設定する 183

Sun Fire Midrange Systems のプラットフォームエージェントインスタンスの作成と設定 184

▼ プラットフォームエージェントのインスタンスを作成する 184

▼ 新しいプラットフォームエージェントのインスタンスに対する Sun Fire Midrange Systems 用プラットフォーム管理モジュールを設定する 185

▼ 管理者およびオペレータグループにユーザを割り当てる 185

CLI によるソフトウェアのセットアップ 187

▼ Sun Management Center サーバでドメイン管理モジュールをセットアップする 187

▼ プラットフォームでプラットフォーム管理モジュールをセットアップする 187

CLI によるソフトウェアのアンインストール 189

▼ Sun Management Center ソフトウェア全体をアンインストールする 190

- ▼ Sun Fire Midrange Systems 用アドオンソフトウェアをアンインストールする 191

CLI による Sun Management Center ソフトウェアの起動 193

- ▼ デフォルトのプラットフォームエージェントを起動する 193
- ▼ プラットフォームエージェントのインスタンスを起動する 193
- ▼ すべての Sun Management Center コンポーネントを起動する 194

Sun Management Center コンポーネントの停止 194

- ▼ デフォルトのプラットフォームエージェントを停止する 195
- ▼ プラットフォームエージェントのインスタンスを停止する 195
- ▼ すべての Sun Management Center コンポーネントを停止する 195

用語集 197

索引 201

図目次

- 図 1-1 プラットフォームおよびドメイン管理の表示 2
- 図 1-2 Sun Fire Midrange Systems コントローラへのアクセスを可能にするプラットフォームエージェント 3
- 図 1-3 複数のホストで構成される管理ドメインが表示されているメインコンソールウィンドウ 5
- 図 1-4 複数のハードウェアドメインからなる Sun Fire ミッドレンジプラットフォームの詳細表示 6
- 図 1-5 プラットフォームの詳細ウィンドウ (上) とハードウェアドメインの詳細ウィンドウ (下) 10
- 図 1-6 アイコンを開く (または閉じる) 方法 12
- 図 2-1 インストールの作業工程図 20
- 図 2-2 サーバホストだけの問い合わせのパネル 31
- 図 2-3 プラットフォーム管理のプラットフォーム構成のパネル 32
- 図 2-4 プラットフォーム管理のドメインのコミュニティ構成のパネル 33
- 図 2-5 プラットフォーム管理のドメインの IP 構成のパネル 34
- 図 2-6 プラットフォーム管理のドメインのポート構成のパネル 35
- 図 2-7 プラットフォーム管理プラットフォームのデフォルトポートのパネル 38
- 図 2-8 プラットフォーム管理のセキュリティーキー生成パネル 40
- 図 2-9 「ジョブの管理」パネル 45
- 図 2-10 「新しいタスク」パネル 46
- 図 3-1 Sun Fire Midrange Systems のプラットフォームオブジェクトの詳細ウィンドウ 58
- 図 3-2 「オブジェクトの作成」ウィンドウの「ノード」タブ 62
- 図 3-3 Sun Fire Midrange Systems の場合の「複合」タブ 63

- 図 3-4 ドメイン X のテーブル 64
- 図 3-5 「モジュールブラウザ」 ウィンドウのドメインテーブル 75
- 図 3-6 キースイッチのパネル 77
- 図 3-7 「ログホストの設定」 パネル 78
- 図 3-8 「FRU 情報」 パネル 79
- 図 3-9 プラットフォームテーブル 81
- 図 3-10 「割り当て」 パネル 100
- 図 3-11 「割り当て解除」 パネル 101
- 図 3-12 「電源オフ」 パネル 101
- 図 3-13 「ボードのテスト」 パネル 102
- 図 3-14 「システムコントローラのネットワーク設定」 パネル 103
- 図 3-15 「ログホストの設定」 パネル 104
- 図 3-16 「FRU 情報」 パネル 105
- 図 3-17 「アクセス制御リスト」 パネル 106
- 図 3-18 プラットフォームの「詳細」 ウィンドウ 108
- 図 3-19 「ハードウェア」 タブ 109
- 図 3-20 「表示」 プルダウンメニュー 110
- 図 3-21 物理表示 (Sun Fire E4900 システムの背面図) 111
- 図 3-22 論理表示 112
- 図 3-23 「詳細」 ウィンドウの論理表示内の「検索」 ボタン 113
- 図 3-24 データ収集テーブル 120
- 図 4-1 ドメインの「詳細」 ウィンドウ 125
- 図 4-2 構成リーダーと規則のアイコン 126
- 図 4-3 構成リーダーモジュール 127
- 図 4-4 Sun Fire Midrange Systems の規則テーブル 128
- 図 4-5 「詳細」 ウィンドウの「モジュールマネージャー」 タブ 129
- 図 4-6 ドメインの Paroli カードの物理表示 (背面) 149
- 図 4-7 ドメインの PCI+ カードの物理表示 (背面) 150
- 図 5-1 DR の機能 153
- 図 5-2 「デタッチ」 確認ボックス 169

図 5-3	「切断」パネル	171
図 5-4	「メモリの構成解除」パネル	174
図 5-5	「ボードのテスト」パネル	176
図 5-6	ドメインの DR 操作に関する状態の表示 (異常終了の場合)	178
図 5-7	ドメインの DR 操作に関する状態の表示 (異常終了の場合)	178

表目次

表 1-1	Sun Fire Midrange Systems のアイコン	7
表 2-1	Sun Fire Midrange Systems 用の Sun Management Center パッケージ	14
表 2-2	インストール前、インストール、セットアップ、アンインストール、アップグレード、インストール後の作業手順	18
表 2-3	ユーザグループ	53
表 3-1	ドメイン X の空きスロット	65
表 3-2	ドメイン X の CPU ボード	66
表 3-3	ドメイン X の入出力ボード	67
表 3-4	ドメイン X の不明なボード	68
表 3-5	ドメイン X の CPU モジュール	69
表 3-6	ドメイン X の DIMM モジュール	70
表 3-7	ドメイン X の構成部品の E キャッシュ	71
表 3-8	ドメイン X の構成部品の WCI	71
表 3-9	ドメイン X の構成部品の WCI ポート	72
表 3-10	ドメイン X のドメイン	73
表 3-11	ドメイン表示におけるテーブル操作メニューの項目	75
表 3-12	ドメインテーブルの操作	76
表 3-13	Sun Fire Midrange Systems	82
表 3-14	プラットフォームのシャーシ	82
表 3-15	プラットフォームの空きスロット	84
表 3-16	プラットフォームのスロットの CPU ボード	85

表 3-17	プラットフォームのスロットの入出力ボード	86
表 3-18	プラットフォームのスロットの L2 リピータ	87
表 3-19	プラットフォームのスロットのファントレー	88
表 3-20	プラットフォームのスロットの電源装置	89
表 3-21	プラットフォームのスロットの SC	90
表 3-22	プラットフォームのスロットの不明なボード	91
表 3-23	プラットフォームの構成部品の CPU モジュール	92
表 3-24	プラットフォームの構成部品の DIMM モジュール	93
表 3-25	プラットフォームの構成部品の E キャッシュ	94
表 3-26	プラットフォームの構成部品の WCI	94
表 3-27	プラットフォームの構成部品の WCI ポート	95
表 3-28	プラットフォームのドメイン	96
表 3-29	プラットフォーム表示におけるテーブル操作メニューの項目	98
表 3-30	プラットフォームテーブルの操作メニューの項目	99
表 3-31	プラットフォーム管理のスロットの状態規則	114
表 3-32	プラットフォーム管理のシステム周波数のクロック規則	114
表 3-33	プラットフォーム管理のシステムドメインの状態規則	115
表 3-34	プラットフォーム管理のシステムドメインのキースイッチ規則	115
表 3-35	プラットフォーム管理のシステムコントローラのフェイルオーバー規則	115
表 3-36	プラットフォーム管理のシステムコントローラの変化規則	116
表 3-37	プラットフォーム管理のログまたはトラップホストの変化規則	116
表 3-38	プラットフォーム管理のシステムコントローラの応答なし規則	117
表 3-39	プラットフォーム管理のログまたはトラップホストの変化規則	117
表 3-40	プラットフォーム管理の SC ファームウェアのバージョン規則	117
表 3-41	プラットフォーム管理のシステムボードのテスト状態規則	118
表 3-42	プラットフォーム管理のドメインまたはボードの電源状態規則	118
表 4-1	ドメインシステム	131
表 4-2	ドメインのボード	132
表 4-3	ドメインの CPU ユニット	133
表 4-4	ドメインの DIMM	134

表 4-5	ドメインの入出力コントローラ	134
表 4-6	ドメインの Sun Fire Link ASIC (WCI)	135
表 4-7	ドメインの Sun Fire Link Paroli DCA	136
表 4-8	ドメインの入出力デバイス	136
表 4-9	ドメインのディスクデバイス	137
表 4-10	ドメインのテープデバイス	137
表 4-11	ドメインのネットワークデバイス	138
表 4-12	ドメインのメモリコントローラ	139
表 4-13	ドメイン構成リーダーの CPU ユニットの状態規則	139
表 4-14	ドメイン構成リーダーのテープの状態規則	140
表 4-15	ドメイン構成リーダーのシステムボードの状態規則	140
表 4-16	ドメイン構成リーダーの接続点の状態規則	140
表 4-17	CPU エラーメッセージ規則 - Solaris 8, 7/01	141
表 4-18	CPU エラーメッセージ規則 - Solaris 8, 7/01 以前	141
表 4-19	SCSI 警告メッセージ規則	142
表 4-20	UNIX 警告メッセージ規則	142
表 4-21	Genunix 日付の警告メッセージ規則	143
表 4-22	Genunix クロックの警告メッセージ規則	143
表 4-23	ファンブレーンの警告メッセージ規則	144
表 4-24	LUN 障害規則	144
表 4-25	PRLOGI 障害規則	144
表 4-26	システム ECC の訂正規則	145
表 4-27	Q ロジックエラー規則	145
表 4-28	カーネル訂正規則	146
表 4-29	SCSI 情報イベント規則	146
表 4-30	SCSI ディスクオンライン規則	146
表 4-31	温度状態規則	147
表 4-32	システム電源状態規則	147
表 5-1	CPU/ メモリボードの接続点属性	154
表 5-2	PCI/PCI+/cPCI/hPCI/hPCI+ 入出力ボードの接続点属性	155

表 5-3	WPCI ボードの接続点属性	156
表 5-4	cPCI/hPCI の接続点属性	157
表 5-5	SCSI の接続点属性	158
表 5-6	空きスロットの接続点属性	159
表 5-7	Sun Fire High-End Systems システムの MaxCPU ボードの接続点属性	160
表 5-8	CPU コンポーネントの動的接続点属性	161
表 5-9	メモリコンポーネントの動的接続点属性	162
表 5-10	入出力コンポーネントの動的接続点属性	163
表 5-11	SCSI コンポーネントの動的接続点属性	164
表 5-12	DR がサポートする <code>cfgadm</code> のオプション	165
表 A-1	ユーザグループ	186

はじめに

このマニュアルでは、次にあげる Sun Fire™ Midrange Systems に Sun™ Management Center ソフトウェアをインストールしてセットアップする方法と、その使用方法を説明します。

- E6900
- E4900
- 6800
- 4800
- 4810
- 3800

このマニュアルの対象読者は、Sun Fire Midrange Systems を監視、管理するために、Sun Management Center ソフトウェアをインストールして使用する Sun Fire Midrange Systems のシステム管理者です。

Sun Fire Midrange Systems 用の Sun Management Center 3.5 マニュアルには、フランス語、日本語、韓国語、簡体字中国語、繁体字中国語版があります。ただし、このマニュアルの画面例はすべて英語で表記されています。

注 – ウィンドウに当該言語のすべてのテキストが表示されない場合は、ウィンドウのサイズを変更してください。

お読みになる前に

このマニュアルは、『Sun Management Center 3.5 インストールと構成ガイド』および『Sun Management Center 3.5 ユーザガイド』の後にお読みください。『Sun Management Center 3.5 インストールと構成ガイド』では、Sun Management Center

3.5 ソフトウェアのインストールおよび設定方法、『Sun Management Center 3.5 ユーザガイド』では、Sun Management Center の使用方法をそれぞれ詳しく説明しています。

注 – Sun Management Center の製品の最新情報については、Sun Management Center Web サイト (<http://www.sun.com/sunmanagementcenter>) をご覧ください。

マニュアルの構成

第 1 章では、Sun Fire Midrange Systems 用の Sun Management Center ソフトウェアの概要を説明しています。

第 2 章では、グラフィカルユーザインタフェース (GUI) を使用して Sun Fire Midrange Systems で Sun Management Center ソフトウェアをインストール、セットアップ、複数ホスト更新、起動、停止を行う方法を説明しています。

『Sun Management Center 3.5 インストールと構成ガイド』と併せてお読みください。また、この章では、SC のフェイルオーバーの有効化などのインストール前の作業についても説明しています。さらに、管理者およびオペレータグループへのユーザの割り当てやドメインの設定などのインストール後の作業についても説明しています。

第 3 章では、プラットフォームエージェントを使用して Sun Fire Midrange Systems のプラットフォームおよびドメインを管理、監視する方法を説明しています。また、プラットフォームエージェントが使用する各属性とアラーム規則についても簡単にまとめています。

第 4 章では、ドメインエージェントを使用して Sun Fire Midrange Systems のドメインを管理する方法を説明しています。また、ドメインエージェントが使用する各属性とアラーム規則についても簡単にまとめています。

第 5 章では、動的再構成 (DR) モジュールから DR コマンドとその他の管理コマンドを使用する方法を説明しています。DR モジュールは、`cfgadm(1M)` コマンドに依存しています。

付録 A では、コマンド行インタフェース (CLI) を使用して Sun Management Center ソフトウェアをインストール、セットアップ、起動、停止する方法を説明しています。

用語集では、このマニュアル、および Sun Fire Midrange Systems 専用のモジュール用の Sun Management Center のグラフィカルユーザインタフェース (GUI) で使用されている略語と頭字語をまとめています。

索引を利用すると、このマニュアルの説明箇所を簡単に見つけることができます。
今回のリリースに含まれているオープンソースソフトウェアのライセンス条件と帰属、著作権情報については、以下のパスのファイルを参照してください。

```
/cdrom/sunmc_3_5_sparc/image/Webserver/Solaris_9/SUNWtcatr  
\install/copyright
```

Solaris 8 ソフトウェアを使用している場合は、このパスの Solaris_9 の部分を Solaris_8 に置き換えてください。

UNIX コマンド

このマニュアルには、UNIX[®] の基本的なコマンド、およびシステムの停止、システムの起動、デバイスの構成などの基本的な手順の説明は記載されていません。

基本的なコマンドや手順についての説明は、次のマニュアルを参照してください。

- 本システムに付属している他のソフトウェアマニュアル
- 次のサイトにある Solaris[™] オペレーティング環境についてのマニュアル
<http://docs.sun.com>

シェルプロンプトについて

シェル	プロンプト
UNIX の C シェル	マシン名%
UNIX の Bourne シェルと Korn シェル	\$
スーパーユーザ (シェルの種類を問わない)	#

書体と記号について

書体または記号	意味	例
AaBbCc123	コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、画面上のコンピュータ出力、コード例。	.login ファイルを編集します。 ls -a を実行します。 % You have mail.
AaBbCc123	ユーザが入力する文字を、画面上のコンピュータ出力と区別して表します。	マシン名% su Password:
AaBbCc123 またはゴシック	コマンド行の可変部分。実際の名前や値と置き換えてください。	rm <i>filename</i> と入力します。 rm ファイル名 と入力します。
『』	参照する書名を示します。	『Solaris ユーザマニュアル』
「」	シェルプロンプトについて照する章、節、または、強調する語を示します。	第 6 章「データの管理」を参照。 この操作ができるのは「スーパーユーザ」だけです。
\	枠で囲まれたコード例で、テキストがページ行幅をこえる場合に、継続を示します。	% grep `^#define \ XV_VERSION_STRING'

関連マニュアル

用途分類	タイトル	Part No.
Sun Management Center 3.5 主要ソフトウェアのインストールと構成	Sun Management Center 3.5 インストールと構成ガイド	817-3019
Sun Management Center 3.5 主要ソフトウェアの使用方法	Sun Management Center 3.5 ユーザガイド	817-3024
主要ソフトウェアの問題点と制限事項、バグ	Sun Management Center 3.5 ソフトウェアご使用にあたって	817-3049
Sun Fire Midrange Systems 用アドオンソフトウェアの問題点と制限事項、バグ	Sun Management Center 3.5 バージョン 3 Sun Fire Midrange Systems ご使用にあたって	817-5621
動的再構成 (DR)、コマンド行インタフェース	Sun Fire ミッドレンジシステム Dynamic Reconfiguration ユーザマニュアル	817-4921
プラットフォーム管理	Sun Fire Midrange Systems Platform Administration Manual, Firmware Release 5.16.0	817-2971
コマンドリファレンス	Sun Fire Midrange System Controller Command Reference Manual, Firmware Release 5.16.0	817-2972
Sun Fire Midrange Systems の変更点と制限事項、バグ	Sun Fire Midrange Systems Firmware 5.16.0 Release Notes	817-2973
ハードウェアの保守	Sun Fire E6900 および E4900 システムサービスマニュアル Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムサービスマニュアル	817-4120 806-7902
Sun Fire High-End Systems 用アドオンソフトウェアのインストールと使用方法	Sun Management Center 3.5 Version 3 Supplement for Sun Fire High-End Systems	817-4035
Sun Fire Link システムの管理	Sun Fire Link ファブリック管理者マニュアル	817-0746
Sun Fire Link システムのインストール	Sun Fire Link Software Installation Guide	817-4663

Sun のオンラインマニュアル

サン各種マニュアルは下記 URL より参照できます。

<http://www.sun.com/documentation>

他社 Web サイトについて

Sun では、本マニュアルに掲載した第三者の Web サイトのご利用に関しましては責任はなく、保証するものでもありません。また、これらのサイトあるいはリソースに関する、あるいはこれらのサイト、リソースから利用可能であるコンテンツ、広告、製品、あるいは資料に関して一切の責任を負いません。Sun は、これらのサイトあるいはリソースに関する、あるいはこれらのサイトから利用可能であるコンテンツ、製品、サービスのご利用あるいは信頼によって、あるいはそれに関連して発生するいかなる損害、損失、申し立てに対する一切の責任を負いません。

Sun のテクニカルサポート

この製品に関する技術的なご質問で、このマニュアルに記述されていない事項については、次のサイトからお問い合わせください。

<http://www.sun.com/service/contacting>

コメントをお寄せください

弊社では、マニュアルの改善に努力しており、お客様からのコメントおよびご忠告をお受けしております。コメントは下記宛に電子メールでお送りください。

<http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

電子メールの表題にはマニュアルの Part No. (817-3626-10) とタイトル (『Sun Management Center 3.5 Version 3 Supplement for Sun Fire Midrange Systems』) を記載してください。

なお、現在日本語によるコメントには対応できませんので、英語で記述してください。

第1章

概要

この章では、Sun Fire™ の Midrange Systems における Sun™ Management Center 3.5 ソフトウェアによるプラットフォームおよびドメインの管理について紹介します。

Sun Fire Midrange Systems 用のアドオンソフトウェア

Sun Management Center 3.5 ソフトウェアは、ワークステーションまたはサーバから Sun のシステムを監視することを可能にします。Sun Management Center 3.5 ソフトウェアを使用すると、ネットワークを介してさまざまな遠隔操作やアプリケーションの管理ができます。Sun Fire Midrange Systems 用アドオンソフトウェアは、Sun Fire Midrange Systems で主要 Sun Management Center 3.5 ソフトウェアが機能するようにします。今回のリリースでは、次の Sun Fire Midrange Systems のモデルがサポートされます。

- E6900
- E4900
- 6800
- 4810
- 4800
- 3800

第5章で説明する動的再構成 (DR) 機能を使用するには、DR の操作を十分に理解しておく必要があります。このマニュアルでは、Sun Management Center を使用して DR の操作を行う方法を説明しています。Sun Fire Midrange Systems における動的再構成 (DR) の全体的な内容については、『Sun Fire ミッドレンジシステム Dynamic Reconfiguration ユーザマニュアル』を参照してください。

Sun Fire Midrange Systems は、専用の Solaris™ オペレーティング環境を実行するハードウェアドメインにそれぞれ分割されます。システムの能力およびそれを構成するハードウェアリソース数によって異なりますが、1つの Sun Fire Midrange Systems は、最大4つのドメインで構成できます(最小はドメイン1つ)。ドメインが使用されるため、Sun Fire Midrange Systems 用アドオンソフトウェアには、2つの動作モードがあります(図 1-1)。

- 「ドメイン管理者」は、Sun Fire Midrange Systems のドメイン上で動作する Sun Management Center、または Sun Fire Midrange Systems のシステムコントローラ上で動作する Simple Network Management Protocol (SNMP) エージェントのプロキシ管理を行う Sun Management Center プラットフォームエージェントを使用してのみ Solaris オペレーティング環境のドメイン表示を利用できます。
- 「プラットフォーム管理者」は、Sun Management Center プラットフォームエージェントを使用し、システムコントローラ上のコンソールからプラットフォーム表示にアクセスできます。

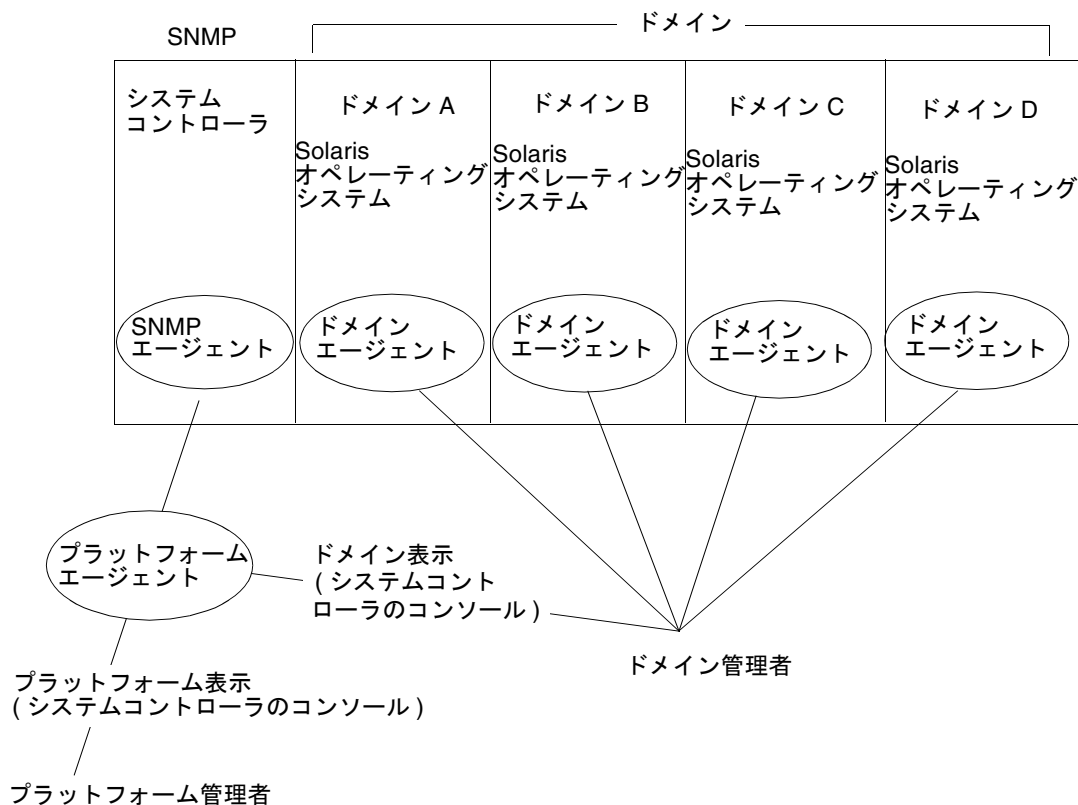


図 1-1 プラットフォームおよびドメイン管理の表示

アドオンソフトウェアをホストマシン (ワークステーションまたはサーバ) にインストールすると、そのホストマシン上で **Sun Management Center 3.5** ソフトウェアを実行することによって、**Sun Fire Midrange Systems** のシステムコントローラにアクセスできます。

ソフトウェアの初期設定では、システムコントローラにアクセスすることを可能にするプラットフォームエージェントが 1 つ作成されます。他の **Sun Fire Midrange Systems** のシステムコントローラにアクセスするには、システムコントローラごとにエージェントインタフェースをインストールします (図 1-2)。

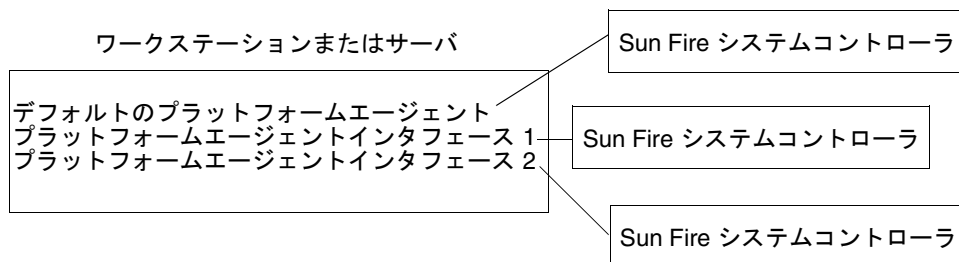


図 1-2 Sun Fire Midrange Systems コントローラへのアクセスを可能にするプラットフォームエージェント

このマニュアルで使用されている用語

注 - このマニュアルでは、管理ドメインとは、**Sun Management Center** 管理ドメインを指します。サンの他の製品やマニュアルで使用されている「ドメイン」と混同しないようにしてください。

管理ドメイン - 管理ドメインは、1 つ以上のホストシステムで構成されます。

動的再構成 (DR) - **Sun Fire Midrange Systems** のアドオンソフトウェアは、動的再構成 (DR) の操作を容易にするグラフィカルユーザインタフェースを提供します。動的再構成ソフトウェアは、**Solaris** オペレーティング環境の一部で、稼働中の環境のまま、システムボードやコンパクト PCI I/O カードを安全に取り外し、取り付けることを可能にします。さらに、**Solaris** オペレーティング環境のもとで、システムボードやコンパクト PCI I/O カードを別のドメインへ移すこともできます。

プラットフォーム - 1 つのシステム全体を表す用語です。このマニュアルで説明している **Sun Fire E6900** システムも、1 つのプラットフォームです。

ドメイン (またはハードウェアドメイン) - Sun Fire ミッドレンジプラットフォーム内のドメインは、パーティション内の論理的に独立した複数のセクションで構成されます。各ドメインは、専用のオペレーティング環境をそれぞれ実行します。この種のドメインがシステムボードとその他の装置から構成されるのに対し、管理ドメインは、複数のドメインおよびプラットフォームで構成されます。このマニュアルでは、これらを区別するために、この種のドメインを「ハードウェアドメイン」と呼びます。

図 1-3 は管理ドメインの表示例です。管理ドメインが完全なシステムとハードウェアドメインで構成されています。

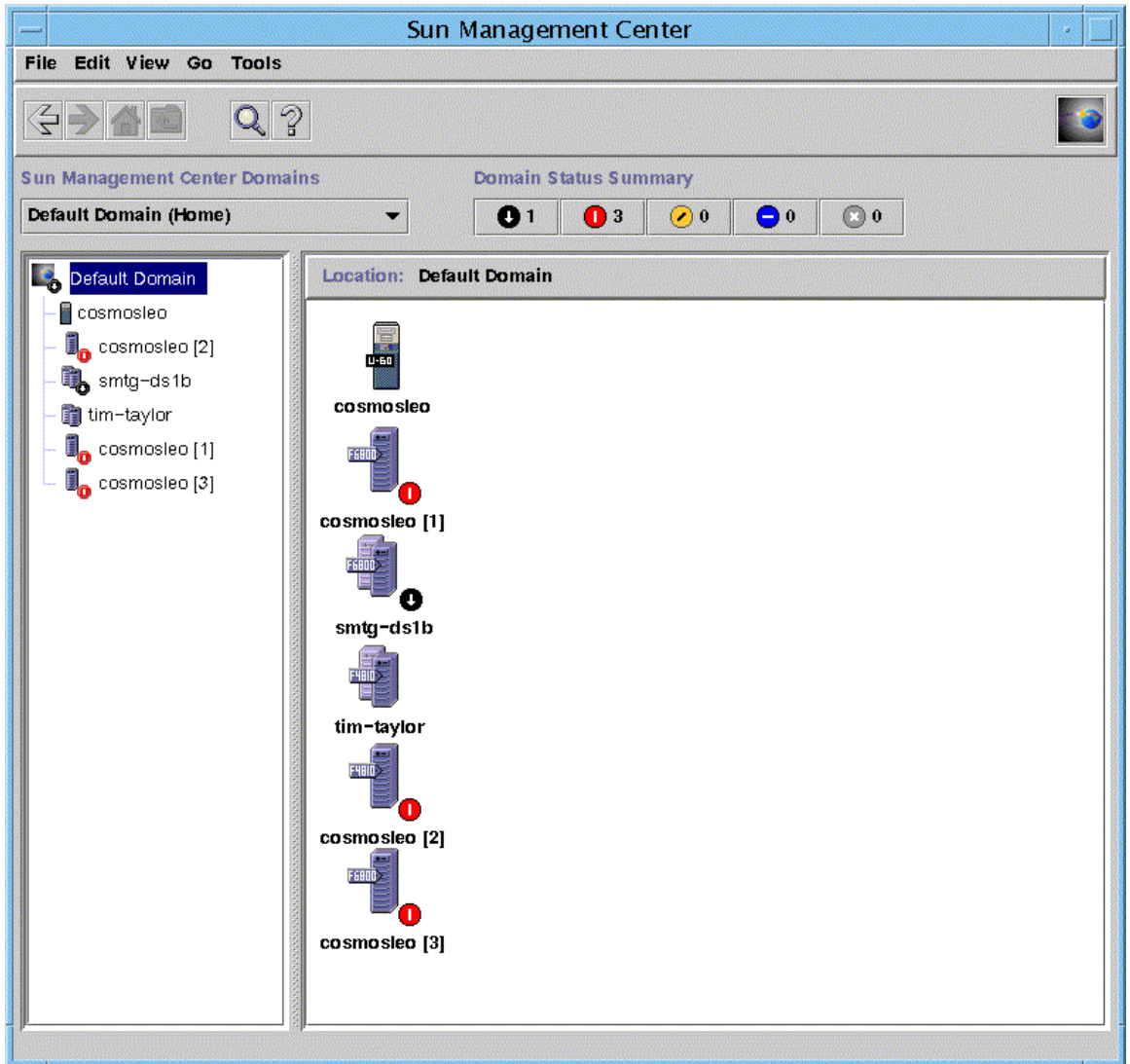


図 1-3 複数のホストで構成される管理ドメインが表示されているメインコンソールウィンドウ

これに対し、図 1-4 は、ホスト内のハードウェアドメインを表しています。

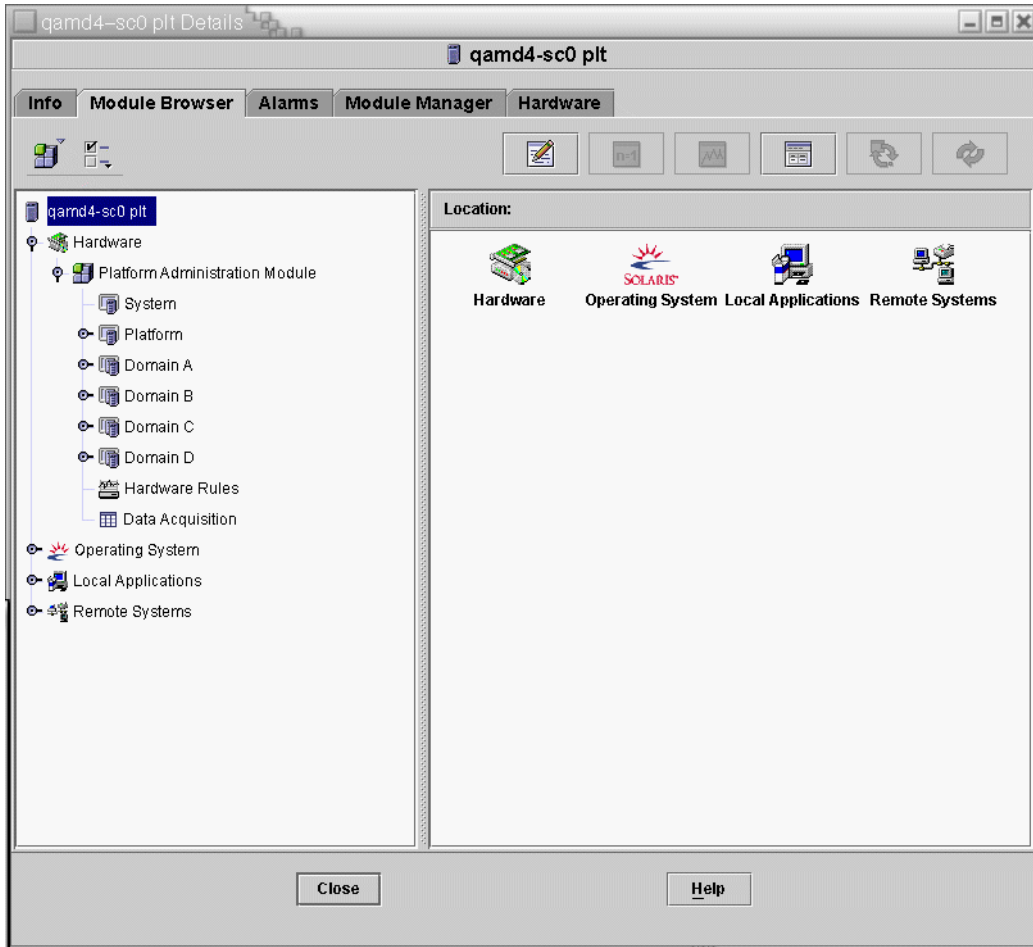


図 1-4 複数のハードウェアドメインからなる Sun Fire ミッドレンジプラットフォームの詳細表示

表 1-1 は、Sun Fire Midrange Systems を表す一般的なアイコンを示しています。その他の種類の Sun Fire システムを表すアイコンには、それぞれ対応するモデル番号が付いています。

表 1-1 Sun Fire Midrange Systems のアイコン

アイコン	説明
	Sun Fire E6900 グループのアイコン
	Sun Fire E6900 プラットフォームのアイコン
	Sun Fire E6900 ドメインのアイコン
	Sun Fire 6800 プラットフォームのアイコン
	Sun Fire 6800 ドメインのアイコン
	Sun Fire E6900/6800 プラットフォームのアイコン (Sun Management Center エージェントが動作していない場合)

表 1-1 Sun Fire Midrange Systems のアイコン (続き)

アイコン	説明
	Sun Fire E6900/6800 ドメインのアイコン (Sun Management Center エージェントが動作していない場合)
	Sun Fire E4900 グループのアイコン
	Sun Fire E4900 プラットフォームのアイコン
	Sun Fire E4900 ドメインのアイコン
	Sun Fire E4900/4800 プラットフォームのアイコン (Sun Management Center エージェントが動作していない場合)
	Sun Fire E4900/4800 ドメインのアイコン (Sun Management Center エージェントが動作していない場合)

プラットフォームとハードウェアドメインの区別

はじめに表示したとき、プラットフォームとハードウェアドメインの詳細ウィンドウは非常によく似ています。デフォルトでは、どちらのウィンドウも最初に開くタブは「モジュールブラウザ」タブです。図 1-5 は、一般的なプラットフォームとハードウェアドメインの詳細ウィンドウを比較しています。

- **プラットフォーム**：プラットフォームの詳細ウィンドウであるかどうかは、プラットフォームのアイコン (図 1-5) と 5 つのタブ (情報、モジュールブラウザ、アラーム、モジュールマネージャー、ハードウェア) があることで見分けることができます。
- **ハードウェアドメイン**：ハードウェアドメインの詳細ウィンドウであるかどうかは、ハードウェアドメインのアイコン (図 1-5) と 6 つのタブがあることで見分けることができます。6 つのタブは、プラットフォーム用の上記の 5 つのタブと「アプリケーション」タブです。

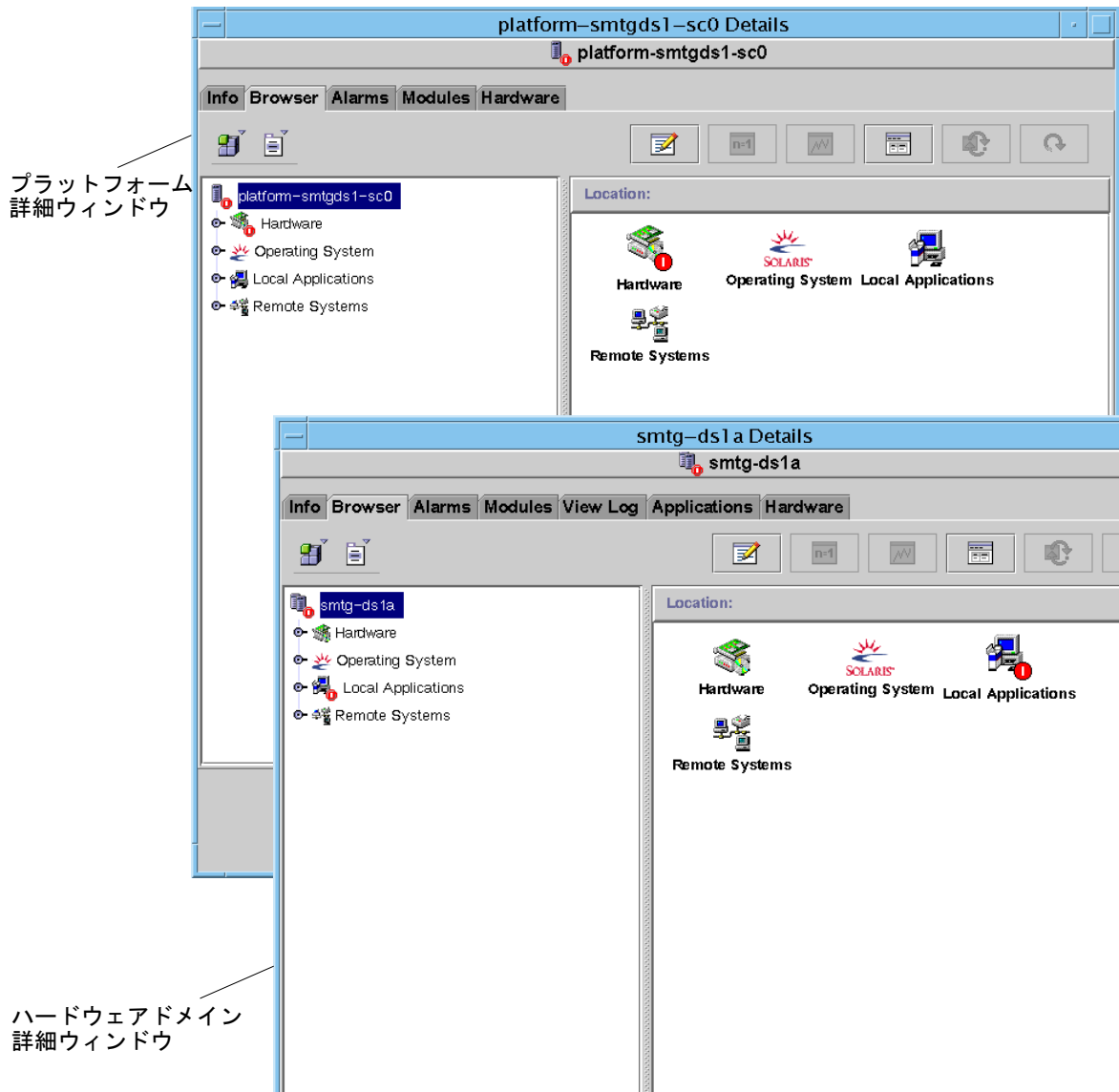


図 1-5 プラットフォームの詳細ウィンドウ (上) とハードウェアドメインの詳細ウィンドウ (下)

このマニュアルで使用する操作例について

このマニュアルで示す手順や操作の多くは、複数の方法で行うことができます。このマニュアルでは、最も簡単な方法や素早い方法を 1 つだけ紹介しています。

たとえば、メインコンソールウィンドウ (図 1-3) から Sun Fire Midrange Systems の詳細表示を開く方法は 4 つあります。

- 階層表示 (ウィンドウ内の左側の表示) 内の **Sun Fire** のミッドレンジのアイコンをクリックして、最上部のバーの「ツール」メニューをクリックし、「詳細」を選択する
- トボロジ表示 (ウィンドウ内の右側の表示) で上記と同じ操作を行う
- 階層表示で **Sun Fire** のミッドレンジのアイコンをダブルクリックする
- トボロジ表示で **Sun Fire** のミッドレンジのアイコンをダブルクリックする

同様に、アイコンを開く (または閉じる) 方法も複数あります。図 1-6 で示すように、以下の方法でアイコンを開くことができます。

- 「すべて開く」ボタンをクリックする (ウィンドウによっては、このボタンがないこともあります)
- アイコンの横の開く記号をクリックする
- 階層またはトボロジ表示内のアイコンをダブルクリックする

注 – このマニュアルの画面例には、詳細ウィンドウのタブが「ブラウザ」と「マネージャ」になっているものがあります。正しくは「モジュールブラウザ」と「モジュールマネージャ」で、これが最新です。

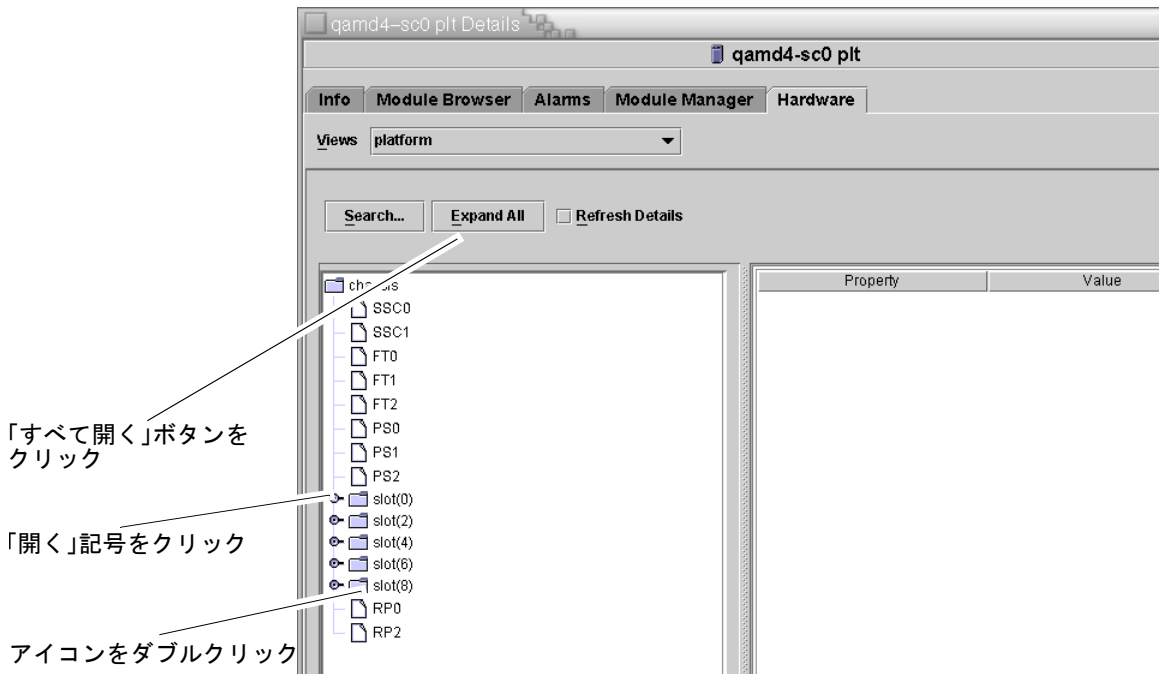


図 1-6 アイコンを開く (または閉じる) 方法

第2章

インストールとセットアップ

この章では、Sun Management Center 3.5 のウィザードを使用して、Sun Fire Midrange Systems 用アドオンソフトウェアのインストールやセットアップ、アンインストール、起動、停止を行う手順を説明します。主要 Sun Management Center ソフトウェアのインストールとセットアップ、アンインストール、起動および停止についての詳細は、『Sun Management Center 3.5 インストールと構成ガイド』を参照してください。



注意 – Sun Management Center 3.5 ソフトウェアに付属しているインストールおよびセットアップスクリプトを使用してください。パッケージを手動で追加したり、構成ファイルを手動で変更したりしないでください。

Sun Management Center 3.5 のインストールスクリプト、セットアップスクリプト、ウィザードパネルによって表示されるメッセージの内容および順番が、この章で示す例と異なることがあります。この章で示す例は、実際に表示されるメッセージのおおよその内容と順番を示すためのものです。実際のインストールスクリプトとセットアップスクリプトは、インストールする追加コンポーネントやその他の選択オプションによって異なります。

CLI を使用して機能を実行するにあたっては、179 ページの「CLI による Sun Management Center ソフトウェアのインストールとセットアップ、アンインストール、起動、停止」を参照してください。

Sun Fire Midrange Systems に固有の パッケージ

表 2-1 は、Sun Fire Midrange Systems 専用のパッケージとそのパッケージのインストール先ホスト、パッケージが属する基本階層をまとめています。

表 2-1 Sun Fire Midrange Systems 用の Sun Management Center パッケージ

パッケージ	説明	ホスト	階層
SUNWesspa	Sun Management Center - Sun Fire Midrange Systems 用プラットフォームエージェント	Sun Fire Midrange Systems のプラットフォームマシン	エージェント
SUNWesspc	Sun Fire Midrange Systems のプラットフォーム管理用の Sun Management Center コンソール	Sun Fire Midrange Systems のプラットフォームマシン	エージェント
SUNWessps	Sun Management Center - Sun Fire Midrange Systems のプラットフォームサポート	Sun Fire Midrange Systems のプラットフォームマシン	エージェント
SUNWesadf	Sun Fire の High-End Systems および Midrange Systems での動的再構成用 Sun Management Center エージェントサポート	Sun Fire Midrange Systems のプラットフォームマシン	エージェント
SUNWessda	Sun Management Center - Sun Fire の High-End Systems および Midrange Systems 用ドメインエージェント	Sun Fire Midrange Systems のドメイン	エージェント
SUNWessdc	Sun Management Center - Sun Fire Midrange Systems のドメイン管理	Sun Fire Midrange Systems のドメイン	エージェント
SUNWedacs	Sun Management Center - エージェントおよびサーバ用の Sun Fire Midrange Systems のドメイン管理モジュールのセットアップ	Sun Fire 中規模 システムのドメイン、Sun Management Center サーバマシン	エージェント、サーバ
SUNWessco	Sun Management Center の Sun Fire Midrange Systems のサポート - ドメイン管理モジュール用のサーバコンポーネント	Sun Management Center サーバマシン	サーバ
SUNWesspc	Sun Management Center の Sun Fire Midrange Systems のサポート - プラットフォーム管理モジュール用のサーバコンポーネント	Sun Management Center サーバ	サーバ
SUNWessdf	Sun Fire の High-End Systems および Midrange Systems での動的再構成用 Sun Management Center サーバサポート	Sun Management Center サーバマシン	サーバ
SUNWesssd	Sun Fire Midrange Systems のドメイン用の Sun Management Center サーバ	Sun Management Center サーバマシン	サーバ

表 2-1 Sun Fire Midrange Systems 用の Sun Management Center パッケージ (続き)

パッケージ	説明	ホスト	階層
SUNWensdr	Sun Management Center - Sun Fire の High-End Systems および Midrange Systems 用の英語 DR メッセージファイル	Sun Management Center サーバかワークステーション、またはネットワーク上の共通の場所	サーバ、コンソール
SUNWensda	Sun Management Center - Sun Fire Midrange Systems 用の英語ドメインメッセージファイル	Sun Management Center サーバかワークステーション、またはネットワーク上の共通の場所	サーバ、コンソール
SUNWenspa	Sun Management Center - Sun Fire Midrange Systems 用の英語プラットフォームメッセージファイル	Sun Management Center サーバかワークステーション、またはネットワーク上の共通の場所	サーバ、コンソール
SUNWesccd	Sun Management Center の Sun Fire サポート - 動的再構成用のコンソールコンポーネント	ワークステーション、またはネットワーク上の共通の場所	コンソール
SUNWesccp	Sun Management Center の Sun Fire サポート - プラットフォーム管理モジュール用のコンソールコンポーネント	ワークステーション、またはネットワーク上の共通の場所	コンソール
SUNWescdf	Sun Fire の High-End Systems および Midrange Systems での動的再構成用 Sun Management Center コンソールサポート	ワークステーション、またはネットワーク上の共通の場所	コンソール
SUNWcescd	簡体字中国語の Sun Fire High-End Systems および Midrange Systems システム上の動的再構成用の Sun Management Center コンソールサポート	Sun Management Center サーバマシンとコンソールマシン	サーバ、コンソール
SUNWcessc	簡体字中国語の Sun Management Center の Sun Fire Midrange Systems サポート - ドメイン管理モジュール用のサーバコンポーネント	Sun Management Center サーバマシン	サーバ
SUNWcessd	簡体字中国語の Sun Fire Midrange Systems プラットフォーム管理用の Sun Management Center コンソール	Sun Management Center サーバマシンとコンソールマシン	サーバ、コンソール
SUNWcesso	簡体字中国語の Sun Fire Midrange Systems ドメイン用の Sun Management Center サーバ	Sun Management Center サーバマシン	サーバ
SUNWcessp	簡体字中国語の Sun Management Center - Sun Fire Midrange Systems プラットフォームサポート	Sun Management Center サーバマシン	サーバ
SUNWcssd	簡体字中国語の Sun Fire High-End Systems および Midrange Systems 上の動的再構成用の Sun Management Center サーバサポート	Sun Management Center サーバマシン	サーバ

表 2-1 Sun Fire Midrange Systems 用の Sun Management Center パッケージ (続き)

パッケージ	説明	ホスト	階層
SUNWcssda	簡体字中国語の Sun Management Center - Sun Fire Midrange Systems ドメインエージェント	Sun Fire Midrange Systems のドメイン	サーバ、エージェント
SUNWcsspa	簡体字中国語の Sun Management Center - Sun Fire Midrange Systems プラットフォームエージェント	Sun Fire Midrange Systems のプラットフォーム	エージェント
SUNWfescd	フランス語の Sun Fire High-End Systems および Midrange Systems の動的再構成用の Sun Management Center コンソールサポート	Sun Management Center サーバマシンとコンソールマシン	サーバ、コンソール
SUNWfessc	フランス語の Sun Management Center の Sun Fire Midrange Systems サポート - ドメイン管理モジュール用のサーバコンポーネント	Sun Management Center サーバマシン	サーバ
SUNWfessd	フランス語の Sun Fire Midrange Systems プラットフォーム管理用の Sun Management Center コンソール	Sun Management Center サーバマシンとコンソールマシン	サーバ、コンソール
SUNWfesso	フランス語の Sun Fire Midrange Systems ドメイン用の Sun Management Center サーバ	Sun Management Center サーバマシン	サーバ
SUNWfessp	フランス語の Sun Management Center - Sun Fire Midrange Systems プラットフォームサポート	Sun Management Center サーバマシン	サーバ
SUNWfessd	フランス語の Sun Fire High-End Systems および Midrange Systems の動的再構成用の Sun Management Center サーバサポート	Sun Management Center サーバマシン	サーバ
SUNWfssda	フランス語の Sun Management Center - Sun Fire Midrange Systems ドメインエージェント	Sun Fire Midrange Systems のドメイン	サーバ、エージェント
SUNWfsspa	フランス語の Sun Management Center - Sun Fire Midrange Systems プラットフォームエージェント	Sun Fire Midrange Systems のプラットフォーム	エージェント
SUNWhescd	繁体字中国語の Sun Fire High-End Systems および Midrange Systems 上の動的再構成用の Sun Management Center コンソールサポート	Sun Management Center サーバマシンとコンソールマシン	サーバ、コンソール
SUNWhessc	繁体字中国語の Sun Management Center の Sun Fire Midrange Systems サポート - ドメイン管理モジュール用のサーバコンポーネント	Sun Management Center サーバマシン	サーバ
SUNWhessd	繁体字中国語の Sun Fire Midrange Systems プラットフォーム管理用の Sun Management Center コンソール	Sun Management Center サーバマシンとコンソールマシン	サーバ、コンソール
SUNWhesso	繁体字中国語の Sun Fire Midrange Systems ドメイン用の Sun Management Center サーバ	Sun Management Center サーバマシン	サーバ

表 2-1 Sun Fire Midrange Systems 用の Sun Management Center パッケージ (続き)

パッケージ	説明	ホスト	階層
SUNWhessp	繁体字中国語の Sun Management Center - Sun Fire Midrange Systems プラットフォームサポート	Sun Management Center サーバマシン	サーバ
SUNWhssd	繁体字中国語用の Sun Fire High-End Systems および Midrange Systems 上の動的再構成用の Sun Management Center サーバサポート	Sun Management Center サーバマシン	サーバ
SUNWhssda	繁体字中国語の Sun Management Center - Sun Fire Midrange Systems ドメインエージェント	Sun Fire Midrange Systems のドメイン	サーバ、エー ジェント
SUNWhsspa	繁体字中国語の Sun Management Center - Sun Fire Midrange Systems プラットフォームエージェント	Sun Fire Midrange Systems のプラットフォーム	エージェント
SUNWjescd	日本語の Sun Fire High-End Systems および Midrange Systems 上の動的再構成用の Sun Management Center コンソールサポート	Sun Management Center サーバマシンとコンソール マシン	サーバ、コン ソール
SUNWjessc	日本語の Sun Management Center の Sun Fire Midrange Systems サポート - ドメイン管理モジュール用のサーバコンポーネント	Sun Management Center サーバマシン	サーバ
SUNWjessd	日本語の Sun Fire Midrange Systems プラットフォーム管理用の Sun Management Center コンソール	Sun Management Center サーバマシンとコンソール マシン	サーバ、コン ソール
SUNWjesso	日本語の Sun Fire Midrange Systems ドメイン用の Sun Management Center サーバ	Sun Management Center サーバマシン	サーバ
SUNWjessp	日本語の Sun Management Center - Sun Fire Midrange Systems プラットフォームサポート	Sun Management Center サーバマシン	サーバ
SUNWjssd	日本語の Sun Fire High-End Systems および Midrange Systems 上の動的再構成用の Sun Management Center サーバサポート	Sun Management Center サーバマシン	サーバ
SUNWjssda	日本語の Sun Management Center - Sun Fire Midrange Systems ドメインエージェント	Sun Fire Midrange Systems のドメイン	サーバ、エー ジェント
SUNWjsspa	日本語の Sun Management Center - Sun Fire Midrange Systems プラットフォームエージェント	Sun Fire Midrange Systems のプラットフォーム	エージェント
SUNWkescd	韓国語の Sun Fire High-End Systems および Midrange Systems 上の動的再構成用の Sun Management Center コンソールサポート	Sun Management Center サーバマシンとコンソール マシン	サーバ、コン ソール
SUNWkessc	韓国語の Sun Management Center の Sun Fire Midrange Systems サポート - ドメイン管理モジュール用のサーバコンポーネント	Sun Management Center サーバマシン	サーバ

表 2-1 Sun Fire Midrange Systems 用の Sun Management Center パッケージ (続き)

パッケージ	説明	ホスト	階層
SUNWkessd	韓国語の Sun Fire Midrange Systems プラットフォーム管理用の Sun Management Center コンソール	Sun Management Center サーバマシンとコンソール マシン	サーバ、コン ソール
SUNWkesso	韓国語の Sun Fire Midrange Systems ドメイン用の Sun Management Center サーバ	Sun Management Center サーバマシン	サーバ
SUNWkessp	韓国語の Sun Management Center - Sun Fire Midrange Systems プラットフォームサポート	Sun Management Center サーバマシン	サーバ
SUNWkssd	韓国語の Sun Fire High-End Systems および Midrange Systems 上の動的再構成用の Sun Management Center サーバサポート	Sun Management Center サーバマシン	サーバ
SUNWkssda	韓国語の Sun Management Center - Sun Fire Midrange Systems ドメインエージェント	Sun Fire Midrange Systems のドメイン	サーバ、エー ジェント
SUNWksspa	韓国語の Sun Management Center - Sun Fire Midrange Systems プラットフォームエージェント	Sun Fire Midrange Systems のプラットフォーム	エージェント

Sun Management Center の主な機能と対応する節

Sun Management Center 3.5 ソフトウェアでは、主にウィザードや CLI を使用して、さまざまな方法でインストール、セットアップ、アンインストール、更新を行うことができます。使用する機能によっては、いくつかの手順が必要なものもあります。表 2-2 は、さまざまな作業手順と、このマニュアルにおける説明個所の参照先を示しています。

表 2-2 インストール前、インストール、セットアップ、アンインストール、アップグレード、インストール後の作業手順

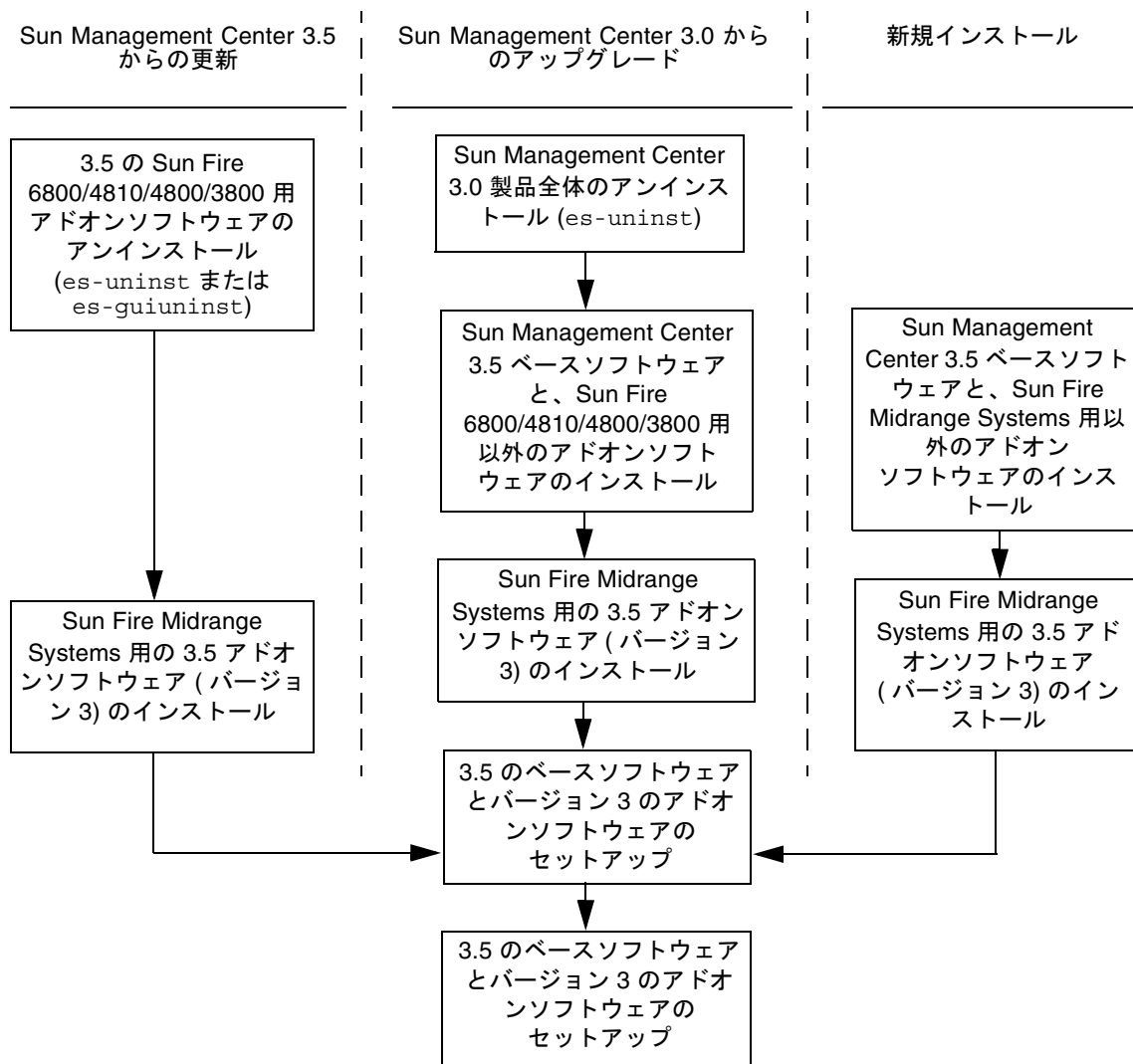
行う作業	説明している場所
SC のフェイルオーバーの有効と論理 IP アドレスの検出	23 ページの「SC のフェイルオーバー機能の有効化」
システムコントローラ上の SNMP の設定	24 ページの「システムコントローラ上の SNMP の設定」
Sun Management Center 3.5 のインストール ウィザードによるソフトウェアのインストール	『Sun Management Center 3.5 インストールと構成ガイド』 の第 6 章の「Solaris プラットフォームへの Sun Management Center 3.5 のインストール」

表 2-2 インストール前、インストール、セットアップ、アンインストール、アップグレード、インストール後の作業手順 (続き)

行う作業	説明している場所
セットアップウィザードによる Sun Fire Midrange Systems 用アドオンソフトウェアのセットアップ	29 ページの「セットアップウィザードによる Sun Fire Midrange Systems 用アドオンソフトウェアのセットアップ」 42 ページの「ウィザードの高度なセットアップオプションの使用」 『Sun Management Center 3.5 インストールと構成ガイド』の第 6 章の「Solaris プラットフォーム上のベース製品とアドオンの設定」
エージェント更新による複数ホストの更新	43 ページの「「エージェント更新」による複数ホストの更新」 『Sun Management Center 3.5 インストールと構成ガイド』の第 6 章の「エージェント更新 (インストール) イメージの作成」
プラットフォームエージェントの作成と設定	49 ページの「Sun Fire Midrange Systems のプラットフォームエージェントインスタンスの作成と設定」
起動ウィザードによるソフトウェアの起動	『Sun Management Center 3.5 インストールと構成ガイド』の第 8 章の「es-guistart によるコンポーネントの起動」
停止ウィザードによるソフトウェアの停止	『Sun Management Center 3.5 インストールと構成ガイド』の第 8 章の「es-guistop によるコンポーネントの停止」
アンインストールウィザードによるソフトウェアのアンインストール	『Sun Management Center 3.5 インストールと構成ガイド』の付録 A の「Sun Management Center 3.5 のアンインストール」
ユーザの割り当て	52 ページの「グループへのユーザの割り当て」
設定の取り消しとプラットフォームエージェントの削除	54 ページの「設定の取り消しとプラットフォームエージェントの削除」
ドメインの設定	55 ページの「ドメインの設定」
CLI による Sun Management Center 3.5 主要ソフトウェアのインストール	『Sun Management Center 3.5 インストールと構成ガイド』の付録 B
CLI による Sun Fire Midrange Systems 用アドオンパッケージのインストール	179 ページの「CLI を使用して補助ソフトウェアをインストールする」
CLI による Sun Fire Midrange Systems 用アドオンパッケージのセットアップ	187 ページの「CLI によるソフトウェアのセットアップ」
CLI によるアンインストール	189 ページの「CLI によるソフトウェアのアンインストール」
CLI によるソフトウェアの起動	193 ページの「CLI による Sun Management Center ソフトウェアの起動」
CLI によるソフトウェアの停止	194 ページの「Sun Management Center コンポーネントの停止」

インストールの作業工程

図 2-1 は、インストールの作業工程全体をまとめています。



注 - エージェント更新機能を使用して、複数のエージェントホストに 3.5 ソフトウェアをインストールすることができます。

図 2-1 インストールの作業工程図

既存の Sun Management Center 3.5 アドオンソフトウェアの更新

Sun Fire Midrange Systems 用の既存の Sun Management Center 3.5 アドオンソフトウェアを更新する場合は、以下のことを行う必要があります。

- Sun Fire Midrange Systems のサーバおよびドメインから既存のアドオンソフトウェアを削除します。
- Sun Fire Midrange Systems のサーバおよびドメインに新しいアドオンソフトウェアをインストールして、セットアップします。

Sun Fire Midrange Systems 用の Sun Management Center 3.5 アドオンソフトウェアのアンインストール

- CLI コマンドの `es-uninst` を使って、Sun Fire Midrange Systems 用の Sun Management Center 3.5 アドオンソフトウェアをアンインストールする場合は、189 ページの「CLI によるソフトウェアのアンインストール」を参照してください。
- Sun Management Center 3.5 のアンインストールウィザードの `es-guiuninst` を使って、Sun Fire Midrange Systems 用の Sun Management Center 3.5 アドオンソフトウェアをアンインストールする場合は、『Sun Management Center 3.5 インストールと構成ガイド』の付録 A の「Sun Management Center 3.5 のアンインストール」を参照してください。

Sun Fire Midrange Systems 用の Sun Management Center 3.5 アドオンソフトウェアのインストールとセットアップ

注 – インストール作業に入る前に、エージェント更新機能があることを忘れないでください。エージェント更新を利用して、複数のエージェントホストに Sun Management Center 3.5 ソフトウェアをインストールできます。エージェント更新を使って複数ホストの更新方法については、43 ページの「「エージェント更新」による複数ホストの更新」を参照してください。

CLI あるいは GUI を使ったインストールおよび設定については、それぞれ以下の節または付録で説明しています。

- ウィザードによるインストールと設定 - 21 ページの「Sun Fire Midrange Systems 用の Sun Management Center 3.5 アドオンソフトウェアのインストールとセットアップ」
- CLI によるインストールと設定 - 付録 A

Sun Management Center 3.0 ソフトウェアからのアップグレード

Sun Management Center 3.0 ソフトウェアからのアップグレードの詳細は、『Sun Management Center 3.5 インストールと構成ガイド』の第 5 章を参照してください。

Sun Management Center 3.5 の新しいアドオンソフトウェアのインストールとセットアップ

この節では、Sun Fire Midrange Systems に Sun Management Center 3.5 ソフトウェアを新規インストールし、セットアップする手順の概略を説明します。

- 22 ページの「個別にリリースされたアドオン製品のインストール」
- 23 ページの「SC のフェイルオーバー機能の有効化」
- 24 ページの「システムコントローラ上の SNMP の設定」

個別にリリースされたアドオン製品のインストール

今回のリリースの新規インストールの場合は次の手順を実行します。

1. ホストマシン上でスーパーユーザとしてログインします。
2. *path*/sbin ディレクトリに移動します。*path* は、Sun Management Center 3.5 CD または CD のディスクコピーがある場所です。

3. `es-inst` または `es-guiinst` を使って、Sun Management Center 3.5 のベースソフトウェアをインストールします。
4. 手順 3 でベースソフトウェアをインストールしたパスに移動します (`installed_directory/SUNWsymon/sbin`)。
5. バージョン 3 の Sun Fire Midrange Systems 用アドオンソフトウェアがあるパスを指定して、`es-inst` または `es-guiinst` を再実行します。disk1 のイメージ (`addon_path/disk1/image`) を使用してください。
インストール可能なアドオン製品の一覧が表示されます。
6. Sun Fire Midrange Systems に適用するアドオン製品を選択して、「次へ」をクリックします。

注 – Sun Management Center 3.5 主要ソフトウェアと Sun Fire

6800/4810/4800/3800 システム用アドオンソフトウェアをすでにインストールしている場合は、Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システム用のアドオンソフトウェアをアンインストールしてから、上記の手順 5 の説明にしたがって、バージョン 3 の Sun Fire Midrange Systems 用アドオンソフトウェアをインストールしてください。

SC のフェイルオーバー機能の有効化

SC のフェイルオーバー機能を使用する場合は、Sun Fire Midrange Systems 用アドオンソフトウェアのインストールとセットアップの前に、以下のことを行う必要があります。

- SC のフェイルオーバー機能を有効にする
- 物理 IP アドレスで一方の SC だけを参照するのではなく、両方の SC を参照する論理 IP アドレスを作成する

注 – アドオンソフトウェアのセットアップ中に SC の物理 IP アドレスを使用すると、アドオンソフトウェアは、フェイルオーバーが発生したときに、そのときのメイン SC と通信できなくなります。メイン SC がどちらの SC であっても、アドオンソフトウェアがメイン SC と通信できるようにするには、両方の SC を参照する論理 IP アドレスを作成する必要があります。

Sun Fire Midrange Systems 用アドオンソフトウェアのセットアップでは、作成した論理 IP アドレスを使用する必要があります。

▼ SC のフェイルオーバー機能を有効にして論理 IP アドレスを作成する

1. 両方の SC と同じサブネットアドレスから始まる未使用の IP アドレスを選択します。

たとえば、一方の SC の物理 IP アドレスが 129.146.235.14 で、もう一方の SC の物理 IP アドレスが 129.146.235.41 の場合、論理 IP アドレスは 129.146.235.xxx になります。xxx は、そのサブネット内の未使用 IP アドレスです。手順 2 の例では、論理 IP アドレスとして 129.146.235.251 が使用されています。

2. SC から以下のコマンドを使用して、SC 用の論理 IP アドレスを設定します。

```
schostname:SC> setupplatform -p sc
```

以下のメッセージが表示されます。

```
SC
--
SC POST diag Level [off]:
Enable SC Failover? [no]:
Logical Hostname or IP Address [ ]:
```

3. yes と入力して、SC のフェイルオーバーを有効にします。
4. 手順 1 で選択した論理 IP アドレスを入力します (この例では 129.146.235.251)。
5. この論理 IP アドレスを使用して、es-setup または es-guisetup の実行中にプラットフォームエージェントを設定します。

システムコントローラ上の SNMP の設定

Sun Fire Midrange Systems 用アドオンソフトウェアのインストールと、セットアップの前に、プラットフォームおよびドメイン上で SNMP を設定する必要があります。この節では、これらの手順を説明します。この 2 つの手順は両方とも必要です。

- プラットフォーム上の SNMP の設定
- ドメイン上の SNMP の設定

▼ プラットフォーム上の SNMP を設定する

注 – 複数のプラットフォーム管理エージェントが、同じ Sun Fire Midrange Systems コントローラを管理するような設定は行わないでください。システムの動作が遅くなったり、場合によってはハングアップしたりします。

1. コード例 2-1 で示すように、スーパーユーザで `telnet(1)` コマンドを使用して、システムコントローラにアクセスします。

コード例 2-1 `telnet` でシステムコントローラにアクセスして、プラットフォームのシェルに入る

```
# telnet schostname
System Controller schostname:SC>

Type 0 for Platform Shell

Type 1 for domain A
Type 2 for domain B
Type 3 for domain C
Type 4 for domain D

Input: 0
schostname:SC>
```

この場合、`schostname` は、システムコントローラのホスト名です。

2. コード例 2-1 に示すように、システムコントローラのメインメニューで、0 (または P か p) を入力して、プラットフォームのシェルに入ります。
プラットフォームのシェルプロンプトの `schostname:SC` が表示されます。
3. コード例 2-2 に示すように、`setupplatform -p snmp` と入力して、質問に答えていきます。

コード例 2-2 プラットフォーム上の SNMP エージェントの設定

```
schostname:SC> setupplatform -p snmp
SNMP
----
Platform Description [description]: 説明を入力
Platform Contact [contactname]: 連絡先名を入力
Platform Location [location]: プラットフォームの場所を入力
Enable SNMP Agent? [no]: yes を入力
```

コード例 2-2 プラットフォーム上の SNMP エージェントの設定 (続き)

```
Trap Hosts [hostname]: Sun Management Center サーバの名前 か IP アドレス  
を入力  
Public Community String [string]: 文字列 1 を入力  
Private Community String [string]: 文字列 2 を入力
```



注意 – Trap Hosts には、プラットフォームの管理元となる Sun Management Center サーバのホスト名か IP アドレスを入力します。たとえば Sun Management Center サーバが CompA という名前で、他にマシンのうちの tiger-sc0 というメイン SC を監視すると仮定します。このためには、コード例 2-2 に示すように、tiger-sc0 で setupplatform コマンドを実行し、トラップホストとして **CompA** を入力します。

注 – プラットフォーム管理モジュールがドメインの状態の変化を監視できるようにするには、26 ページの「ドメイン上の SNMP を設定する」の手順 4 でプラットフォームとドメイン両方のトラップホストを指定する必要があります。Sun Management Center コンソールに表示されるデータを再表示するためにも、ドメインとプラットフォーム両方のトラップホストを入力する必要があります。

4. CTRL キーを押しながら] キーを押して、telnet> プロンプトに戻ります。
5. q と入力して、telnet を終了します。

▼ ドメイン上の SNMP を設定する

1. コード例 2-3 で示すように、スーパーユーザで telnet コマンドを使用して、システムコントローラにアクセスします。

コード例 2-3 telnet でシステムコントローラにアクセスして、ドメインのシェルに入る

```
# telnet schostname  
System Controller schostname:SC>  
  
Type 0 for Platform Shell  
  
Type 1 for domain A  
Type 2 for domain B  
Type 3 for domain C  
Type 4 for domain D
```

コード例 2-3 telnet でシステムコントローラにアクセスして、ドメインのシェルに入る (続き)

```
Input: 1
schostrname:A>
```

この場合、*schostrname* は、システムコントローラのホスト名です。コード例 2-3 では、ドメイン A の例を示しています。

- ドメインに入ります。コード例 2-3 で示すように、1、2、3、4 (または a、b、c、d、A、B、C、D) のいずれかを入力して、適切なドメインのシェルに入ります。ドメインのシェルプロンプトの *schostrname:X* が表示されます。X は、選択したドメインを表します。
- ドメインがアクティブで、ドメインのキースイッチが on、diag、secure、(Solaris オペレーティング環境を実行しているか、OpenBoot PROM モードであるか、あるいは POST を実行しているか) のいずれかの場合は、次の操作を行います。
 - CTRL キーを押しながら] キーを押して、telnet> プロンプトに戻ります。
 - telnet> プロンプトで、send break と入力します。コード例 2-3 は、ドメイン A との接続例を示しています。
- コード例 2-4 に示すように、setupdomain -p snmp と入力して、質問に答えていきます。

コード例 2-4 ドメイン上の SNMP エージェントの設定

```
schostrname:A> setupdomain -p snmp
SNMP
----
Domain Description [description]: 説明を入力
Domain Contact [contactname]: 連絡先名を入力
Trap Hosts [hostname]: Sun Management Center サーバの名前か IP アドレスを
入力
Public Community String [string1]: 文字列 1 を入力
Private Community String [string2]: 文字列 2 を入力
```

Trap Hosts には、プラットフォームの管理元となる Sun Management Center サーバのホスト名か IP アドレスを入力します。

注 – プラットフォーム管理モジュールがドメインの状態の変化を監視できるようにするには、25 ページの「プラットフォーム上の SNMP を設定する」の手順 3 のプラットフォームのトラップホストとドメインのトラップホストの両方をここで指定する必要があります。Sun Management Center コンソールに表示されるデータを再表示するためにも、ドメインとプラットフォーム両方のトラップホストを入力する必要があります。

Public Community String および Private Community String には、ドメインおよびプラットフォームごとに異なる文字列を入力します。

5. `disconnect` と入力して、ドメインのシェルとの接続を終了します。
6. 追加するドメインがある場合は、そのドメインごとに手順 2 ~ 手順 5 を繰り返します。
7. CTRL キーを押しながら] キーを押して、`telnet>` プロンプトに戻ります。
8. `q` と入力して、`telnet` を終了します。

インストールウィザードによる Sun Fire Midrange Systems 用アドオンソフトウェアのインストール

この節では、インストールウィザードを使用した、Sun Management Center 3.5 ベースソフトウェアと Sun Fire Midrange Systems 用アドオンソフトウェアのインストールの概略を説明します。すべてのソフトウェアのインストール方法の詳細は、『Sun Management Center 3.5 インストールと構成ガイド』の第 6 章「Sun Management Center 3.5 のインストールと設定」を参照してください。

- コンソール、サーバ、エージェント、およびヘルプ階層は、別々にインストールすることも、組み合わせてインストールすることもできます。
- Sun Fire Midrange Systems のプラットフォームエージェントは、Sun Management Center 3.5 ソフトウェアが動作している任意のマシンにインストールできます。
- Sun Fire Midrange Systems のドメインエージェントは、Sun Fire Midrange Systems のドメインにのみインストールできます。

Sun Management Center 3.5 ソフトウェアのインストールの概要

1. 『Sun Management Center 3.5 インストールと構成ガイド』の第 6 章「Sun Management Center 3.5 のインストールと設定」で説明しているように、スーパーユーザで `es-guinst` スクリプトを実行します。
2. ベースソフトウェアをインストールすると、選択してインストールすることが可能なアドオン製品の一覧からなる「アドオン製品の選択」画面が表示されます。Sun Fire Midrange Systems に適用するアドオンソフトウェアを選択して、「次へ」をクリックします。
3. すべてのソフトウェアをインストールすると、Sun Management Center の設定ウィザードが自動的に起動します。

セットアップウィザードによる Sun Fire Midrange Systems 用アドオンソフトウェアのセットアップ

この節では、Sun Management Center のセットアップウィザードを使用して Sun Fire Midrange Systems でプラットフォームエージェントやドメインエージェントをセットアップする方法を説明します。ソフトウェア全体の設定作業の詳細は、『Sun Management Center 3.5 インストールと構成ガイド』の第 6 章「Sun Management Center 3.5 のインストールと設定」を参照してください。

注 – パネルの下部にある「戻る」ボタンが有効な場合 (ボタンがグレー表示されていない場合)、ボタンをクリックして直前の操作に戻ることができます。「戻る」ボタンがグレー表示されている場合、ボタンは無効で、直前の操作に戻ることはできません。

注 – Sun Management Center 3.5 ベースソフトウェアのセットアップ中に `setup-responses-file` を使用して、現在のマシンの設定の複製を他のマシン上に作成する場合は、必ず「セットアップ応答データの保存」をクリックします。これで、自分の行ったすべての応答が、`/var/opt/SUNWsymon/install/setup-responses-file` に保存されます。詳細は、『Sun Management Center 3.5 インストールと構成ガイド』の「Solaris プラットフォーム上のベース製品とアドオンの設定」を参照してください。

▼ セットアップウィザードを使用してプラットフォームエージェントをセットアップする

Sun Fire Midrange Systems のプラットフォームエージェントのセットアップは、プラットフォームエージェントをインストールしたマシン上で行います。

1. プラットフォームエージェントがインストールされているマシン上で `es-guisetup` と入力して、Sun Management Center のセットアップウィザードを起動します。

Sun Management Center のベースソフトウェアのセットアップが完了すると、ウィザードによって次のメッセージが表示されます。

```
Select Add-on Products
```

```
The following add-on products are newly installed on this system  
and will be set up.
```

```
- Sun Fire Platform Administration
```

2. 「次へ」をクリックして、次に進みます。

以下のいずれかの操作をします。

- サーバマシンでプラットフォームエージェントをセットアップしない場合は、手順 4 に進みます。
- サーバマシンでプラットフォームエージェントをセットアップする場合は、「Sun Fire Midrange Systems プラットフォームエージェントの設定」パネルに次のメッセージが表示されます。

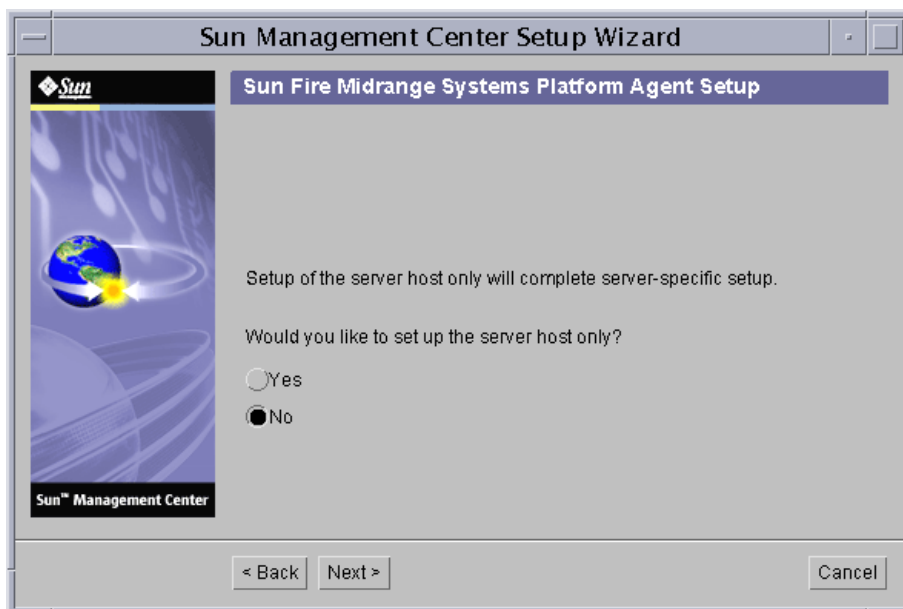


図 2-2 サーバホストだけの問い合わせのパネル

3. 以下のいずれかの操作をします。

- すべてのホストをセットアップする場合は、「いいえ」ラジオボタンをクリックして、手順 4 に進みます。
- サーバホストだけをセットアップする場合は、「はい」ラジオボタンをクリックします。
「Sun Fire Midrange Systems プラットフォームエージェントの設定」パネルに次のメッセージが表示されます。手順 22 に進みます。

```
Setting up server host...

Status:
Setting up server host...
...
Setup of server host complete.
```

4. 「次へ」をクリックして、次に進みます。

「Sun Fire Midrange Systems プラットフォームエージェントの設定」パネルに次のメッセージが表示されます。

To set up the Sun Fire 6800-3800 platform administration module, you need to provide SC IP address, community strings, port numbers for domain agent etc.

Would you like to set up the Sun Fire Midrange Systems platform administration module?

Yes

No

5. 以下のいずれかの操作をします。

- プラットフォーム管理モジュールを設定しない場合は、「いいえ」ラジオボタンをクリックして、手順 23 に進みます。
- プラットフォーム管理モジュールを設定する場合は、「はい」ラジオボタンをクリックします。

「Sun Fire Midrange Systems プラットフォームエージェントの設定」パネルに次のメッセージが表示されます。

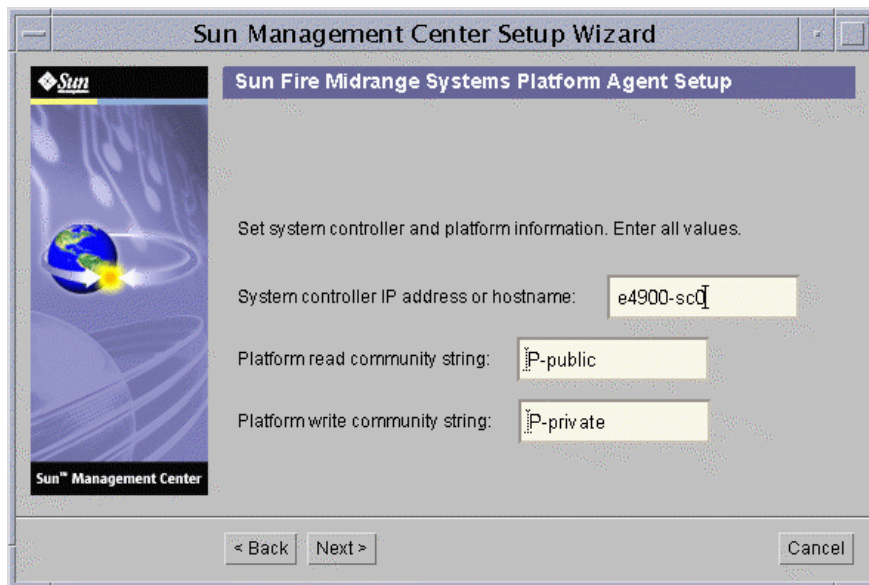


図 2-3 プラットフォーム管理のプラットフォーム構成のパネル

6. 各プロンプトに対して値を入力します (必須):

- a. システムコントローラのホスト名または IP アドレスを入力します (例 : 10.8.28.209)。



注意 – SC のフェイルオーバー機能を使用する場合は、このフィールドの論理 IP アドレスを入力する必要があります。論理 IP アドレスは、両方の SC が使用できます。物理 IP アドレスは、1 つの SC だけが使用できます。このフィールドに論理 IP アドレスを入力しないで SC のフェイルオーバーが発生すると、SC から応答がないことを示す赤いアラームが生成されます。SC のフェイルオーバーを有効にして論理 IP アドレスを設定する方法については、24 ページの「SC のフェイルオーバー機能を有効にして論理 IP アドレスを作成する」を参照してください。

- b. プラットフォームの読み取りコミュニティ文字列を入力します (例 : P-public)。

- c. プラットフォームの書き込みコミュニティ文字列を入力します (例 : P-private)。

7. 「次へ」をクリックして、次に進みます。

「Sun Fire Midrange Systems プラットフォームエージェントの設定」パネルに次のメッセージが表示されます。

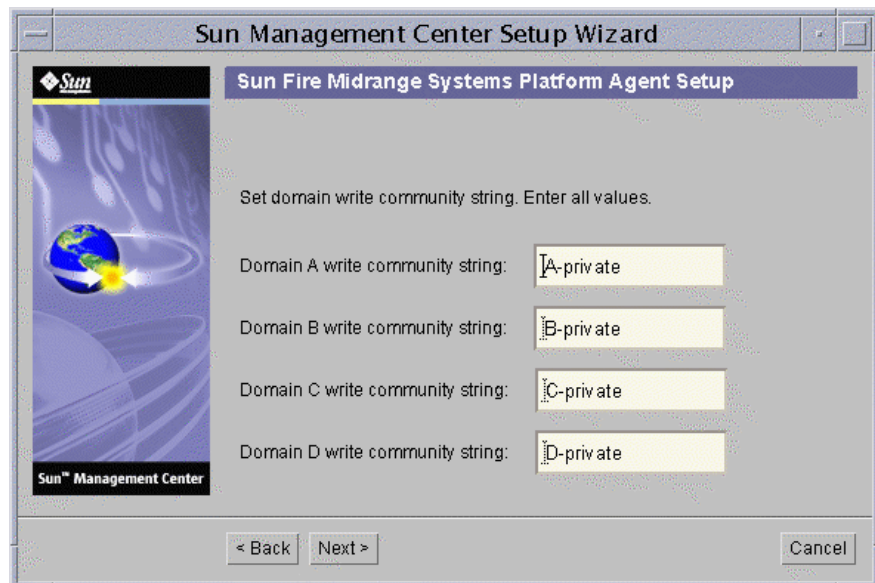


図 2-4 プラットフォーム管理のドメインのコミュニティ構成のパネル

注 – ドメインごとに1つずつ値を入力する必要があります。

- a. ドメイン A の書き込みコミュニティ文字列を入力します (例 : A-private)。
 - b. ドメイン B の書き込みコミュニティ文字列を入力します (例 : B-private)。
 - c. ドメイン C の書き込みコミュニティ文字列を入力します (例 : C-private)。
 - d. ドメイン D の書き込みコミュニティ文字列を入力します (例 : D-private)。
8. 「次へ」をクリックして、次に進みます。

「Sun Fire Midrange Systems プラットフォームエージェントの設定」パネルに次のメッセージが表示されます。

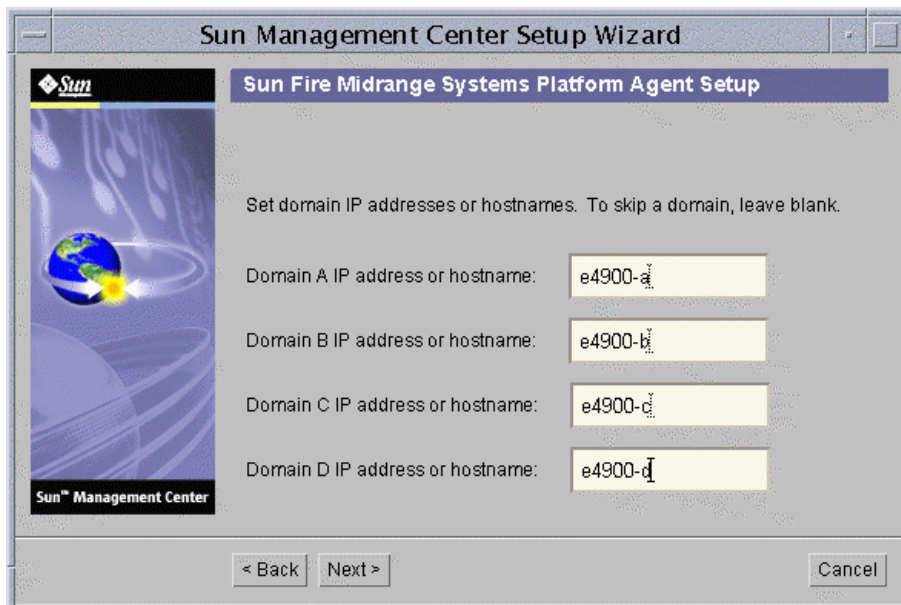


図 2-5 プラットフォーム管理のドメインの IP 構成のパネル

- a. ドメイン A の IP アドレスかホスト名を入力するか、空白のままにします。
- b. ドメイン B の IP アドレスかホスト名を入力するか、空白のままにします。
- c. ドメイン C の IP アドレスかホスト名を入力するか、空白のままにします。
- d. ドメイン D の IP アドレスかホスト名を入力するか、空白のままにします。

9. 「次へ」をクリックして、次に進みます。

「Sun Fire Midrange Systems プラットフォームエージェントの設定」パネルに次のメッセージが表示されます。

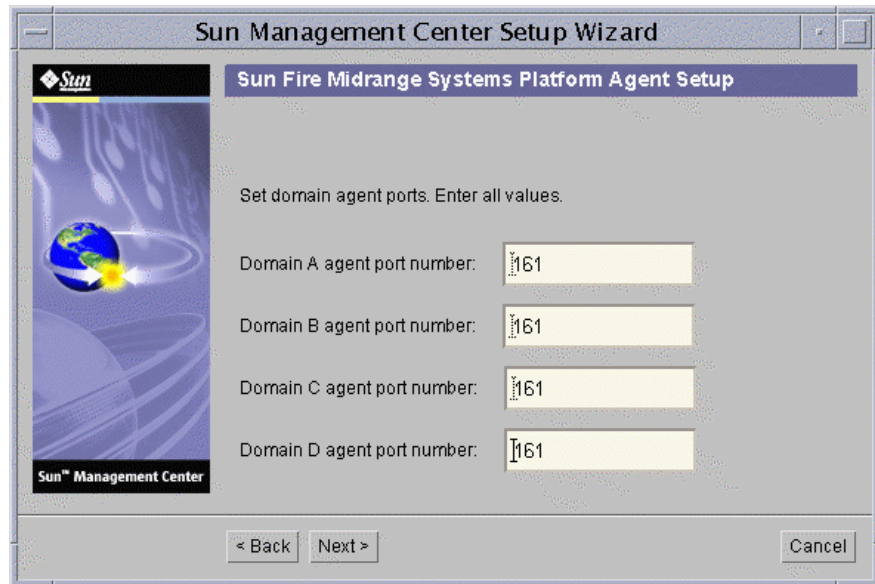


図 2-6 プラットフォーム管理のドメインのポート構成のパネル

注 – ドメインごとに1つずつ値を入力する必要があります。

- a. ドメイン A の Sun Management Center エージェントのポート番号を入力します。
- b. ドメイン B の Sun Management Center エージェントのポート番号を入力します。
- c. ドメイン C の Sun Management Center エージェントのポート番号を入力します。
- d. ドメイン D の Sun Management Center エージェントのポート番号を入力します。

10. 「次へ」をクリックして、次に進みます。

「Sun Fire Midrange Systems プラットフォームエージェントの設定」パネルに次のメッセージが表示されます。

```
Updating configuration files with platform and domain information...

Status:

Updating configuration files...
Update of configuration files complete.
```

11. 「次へ」をクリックして、次に進みます。

「Sun Fire Midrange Systems プラットフォームエージェントの設定」パネルに次のメッセージが表示されます。

```
Setting up server host and chassis model information.

Status:

Setting up server host...
....
Setup of server host complete.
Getting chassis model from system controller...
Retrieval of chassis model from system controller complete.
```

- シャーシモデルの取得時にエラーがなかった場合は、手順 12 に進みます。
- システムコントローラからのシャーシモデルの取得時にエラーがあった場合は、エラーメッセージが表示されます。

```
Error getting chassis model from system controller.
```

i. 「了解」をクリックします。

「Sun Fire Midrange Systems プラットフォームエージェントの設定」パネルに次のメッセージが表示されます。

```
Either could not find the chassis model from the SC or the SC
returned an unknown chassis model. These are the supported model
types: 3800, 4800, 4810, E4900, 6800, and E6900. The chassis model
needs to be one of these models.
```

```
Chassis model:
```

- ii. シャーシモデルとして、3800、4800、4810、6800、E4900、E6900 のうちの適切なモデルを入力します。

12. 「次へ」をクリックして、次に進みます。

「Sun Fire Midrange Systems プラットフォームエージェントの設定」パネルに次のメッセージが表示されます。

```
Checking configuration files...
```

```
Status:
```

```
Set the platform server: <hostname> or <IPaddress>
```

```
platform.snmpPort: 166
```

```
Default platform agent port: 166
```

```
Checking of configuration files complete.
```

13. 「次へ」をクリックして、次に進みます。

以下のいずれかが起こります。

- デフォルトのポート番号を以前に設定した場合、デフォルトポートのパネルは表示されません。手順 15 に進みます。
- デフォルトのポート番号が設定されていない場合は、「Sun Fire Midrange Systems プラットフォームエージェントの設定」パネルに次のメッセージが表示されます。



図 2-7 プラットフォーム管理プラットフォームのデフォルトポートのパネル

14. 以下のいずれかの操作をします。

- デフォルトの Sun Management Center プラットフォームエージェントポートを使用する場合は、「はい」ラジオボタンをクリックします。
- デフォルトの Sun Management Center プラットフォームエージェントポートを使用しない場合は、「いいえ」ラジオボタンをクリックします。

15. 「次へ」をクリックして、次に進みます。

「Sun Fire Midrange Systems プラットフォームエージェントの設定」パネルに次のメッセージが表示されます。

```
Set the platform agent port.
```

```
Platform agent port number: 166
```

以下のいずれかが起こります。

- 「はい」をクリックしてデフォルトのポートを使用した場合は、プラットフォームのエージェントポート番号にデフォルトのエージェントポート番号が表示されます。
- 「いいえ」をクリックしてデフォルトのポートを使用しなかった場合は、自分で入力できるよう、プラットフォームのエージェントポート番号の部分が空白になります。
 - 使用するエージェントポート番号を入力します。

16. 「次へ」をクリックして、次に進みます。

以下のいずれかの状態になります。

- 警告メッセージが返されなかった場合は、手順 22 に進みます。
- デフォルトのポートが使用されている場合は、「Sun Fire Midrange Systems プラットフォームエージェントの設定」パネルに次の警告メッセージが表示されます。

```
Warning, platform agent port 166 is currently in use. Pick a
different port, or ensure that this port is available when you next
start Sun Management Center.
Would you still like to use this port?
      Yes   No
```

17. 以下のいずれかの操作をします。

- デフォルトのポートを使用しない場合は、「いいえ」をクリックして手順 15 に進みます。
- デフォルトのポートをそのまま使用する場合は、「はい」をクリックします。

18. 「次へ」をクリックして、次に進みます。

以下のいずれかが起こります。

- ポートの衝突がなかった場合は、「Sun Fire Midrange Systems プラットフォームエージェントの設定」パネルに次のメッセージが表示されます。

```
Confirmation of the platform agent port.

Platform agent port: 166
```

- ポートの衝突があった場合は、「Sun Fire Midrange Systems プラットフォームエージェントの設定」パネルに次のメッセージが表示されます。

```
Confirmation of the platform agent port.

Platform agent port: 166

Remember to resolve the port conflict prior to starting Sun
Management Center.
```

19. 「次へ」をクリックして、次に進みます。

以下のいずれかが起こります。

- プラットフォームのエージェントポート番号を変更しなかった場合、セキュリティーキーに関するメッセージは表示されません。手順 22 に進んでください。

- プラットフォームのエージェントポート番号を変更した場合は、「Sun Fire Sun Fire Midrange Systems プラットフォームエージェントの設定」パネルに次のメッセージが表示されます。

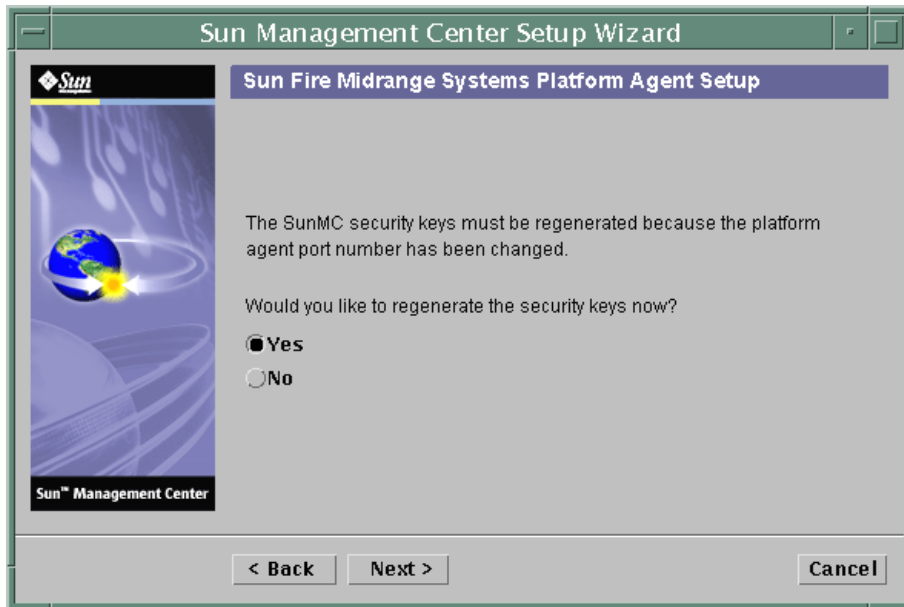


図 2-8 プラットフォーム管理のセキュリティーキー生成パネル

20. 以下のいずれかの操作をします。

- セキュリティーキーをすぐに再生成する場合は、「はい」ラジオボタンをクリックして、手順 21 に進みます。
- セキュリティーキーをすぐに再生成しない場合は、「いいえ」ラジオボタンをクリックして、手順 22 に進みます。

21. 「次へ」をクリックして、次に進みます。

「Sun Fire Midrange Systems プラットフォームエージェントの設定」パネルに次のメッセージが表示されます。

This part of setup generates security keys used for communications between processes. A seed must be provided to initialize the keys. Make sure you use the same seed for all the machines you install. You may like to keep record of this seed for future use.

Seed:

Seed: (Re-enter seed to confirm.)

注 – シードのパスワードは必ず安全な場所に保管してください。Sun Management Center のインストール内容に変更を加えた場合に必要になります。

- a. 初めてインストールした場合は、一意のシードのパスワードを入力します。初めてのインストールでない場合は、以前のバージョンの Sun Management Center で使用したのと同じシードを入力します。
 - b. 確認のためにシードを再度入力します。
22. 「次へ」をクリックして、次に進みます。

「Sun Fire Midrange Systems プラットフォームエージェントの設定」パネルに次のメッセージが表示されます。

```
Updating configuration files with module and discover table
information...

Status:

Added module....
Added module....
Updated Discovery Table....
Update of configuration files complete.
```

23. 「次へ」をクリックして、次に進みます。

「Sun Fire Midrange Systems プラットフォームエージェントの設定」パネルに次のメッセージが表示されます。

```
Sun Fire Midrange Systems Platform Admin setup is complete.
```

24. 「次へ」をクリックして、次に進みます。

「Sun Fire Midrange Systems プラットフォームエージェントの設定」パネルに次のメッセージが表示されます。

```
The following products have been set up:

- Sun Fire Platform Administration

Click Next to invoke the Start Wizard now to the various Sun
Management Center components.
```

▼ セットアップウィザードを使用してドメインエージェントをセットアップする

Sun Fire Midrange Systems のドメインエージェントのセットアップは、ドメインエージェントをインストールしたマシン上で行います。

1. ドメインエージェントがインストールされているマシン上で `es-guisetup` と入力して、Sun Management Center のセットアップウィザードを起動します。

Sun Management Center のベースソフトウェアのセットアップが完了すると、ウィザードによって次のメッセージが表示されます。

```
Click Next to set up the following products:  
Sun Fire Domain Administration
```

2. 「次へ」をクリックして、ドメインエージェントの設定を開始します。

「Sun Fire Midrange Systems ドメインエージェントの設定」パネルに次のメッセージが表示されます。

```
Updating configuration files...  
  
Status:  
  
Updating configuration files...  
Update of configuration files complete.
```

3. 「次へ」をクリックして、次に進みます。

「Sun Fire Midrange Systems ドメインエージェントの設定」パネルに次のメッセージが表示されます。

```
Sun Fire Midrange Systems Domain Agent setup is complete.
```

ウィザードの高度なセットアップオプションの使用

Sun Management Center がインストールされると、Sun Management Center のセットアップウィザードによって、高度なオプションが設定できるようになります。

注 - 現時点では、「セットアップ構成の削除」を使用せず、「すべてを再構成」を使用してください。

- すべてを再構成 - すべてのセットアップ情報を削除して、ただちにセットアップウィザードを実行します。
- アドオンの構成 - アドオン製品のセットアップだけを行います。
- **Sun Management Center** データベースの再作成 (サーバのみ) - データベースを再作成します。すべてのデータのクリアか、データ保存および再作成したデータベース内での使用のいずれかを選択できます。
- セットアップ構成の削除 - インストールした **Sun Management Center** をインストール後のセットアップ前の状態に戻します。すべてのセットアップ情報およびデータベース情報が削除されます。セットアップウィザードを再実行する前に他の作業を行いたい場合を選択します。

これらのオプションの詳細は、『Sun Management Center 3.5 インストールと構成ガイド』を参照してください。

「エージェント更新」による複数ホストの更新

この節では、エージェント更新を使用して一度に複数のホストを更新する方法を説明します。このエージェント更新プロセスそのものは、**Sun Management Center** サーバマシンで実行する必要があります。また、更新対象のすべてのホスト上で **Sun Management Center 3.5** エージェントを必ず動作させておく必要もあります。

エージェント更新プロセスを起動する前に

エージェント更新を使用して **Sun Fire Midrange Systems** のプラットフォーム管理モジュールを完全にインストールして設定するには、**Sun Management Center** サーバマシンでエージェント更新プロセスを実行する前に、更新対象のホスト上のモジュール用のエージェント更新用構成ファイルを作成しておく必要があります。

注 – Sun Management Center 3.5 ベースソフトウェアのセットアップ中に `setup-responses-file` を使用して、現在のマシンの設定の複製を他のマシン上に作成する場合は、必ず「セットアップ応答データの保存」をクリックします。これで、自分の行ったすべての応答が、`/var/opt/SUNWsymon/install/setup-responses-file` に保存されます。詳細は、『Sun Management Center 3.5 インストールと構成ガイド』の「Solaris プラットフォーム上のベース製品とアドオンの設定」を参照してください。

▼ 更新対象のホスト上でエージェント更新用構成ファイルを作成する

1. 更新対象のホストに Sun Fire Midrange Systems 用のプラットフォーム管理モジュールがインストールされていることを確認します。
2. `es-setup` スクリプトまたは `es-guisetup` スクリプトを使用して、更新対象のホスト上で Sun Fire Midrange Systems 用のプラットフォーム管理モジュールがセットアップされていることを確認します。

この確認作業を行うと、最初に提供されたホスト別の情報を利用した、エージェント更新による以降のプラットフォーム管理のセットアップ処理が自動的に機能します。

エージェント更新プロセスの使用

エージェント更新では、目的のマシンに配布する追加コンポーネントからなるイメージファイルを作成し、「ジョブの管理」タスクリストに新しいジョブを追加します。

エージェント更新でサポートされる構成

エージェント更新を使用して以下の構成を更新できます。

- 45 ページの「Sun Management Center 3.5 アドオンソフトウェアが存在する構成を更新する」
- 48 ページの「アドオンソフトウェアが存在しない、または Sun Management Center 3.0 Platform Update 4 アドオンソフトウェアが存在する構成を更新する」

▼ Sun Management Center 3.5 アドオンソフトウェアが存在する構成を更新する

この手順は、Sun Management Center 3.5 アドオンソフトウェアが存在する構成の更新にのみ使用できます。

1. es-gui-imagetool または es-imagetool (基本 Sun Management Center スクリプト) を使用して、目的のエージェントマシンに配布する、適切な Sun Fire Midrange Systems 用追加コンポーネントからなるイメージファイルを作成します。GUI または CLI 形式のイメージツールの使用方法に関する詳細は、『Sun Management Center 3.5 インストールと構成ガイド』の第 7 章「Sun Management Center のインストール後の作業」の参照してください。
2. Sun Management Center メインコンソールウィンドウの「ツール」メニューから「ジョブの管理...」オプションを選択します。

「ジョブの管理」パネル (図 2-9) が表示されます。このパネルからイメージファイルを配布できます。

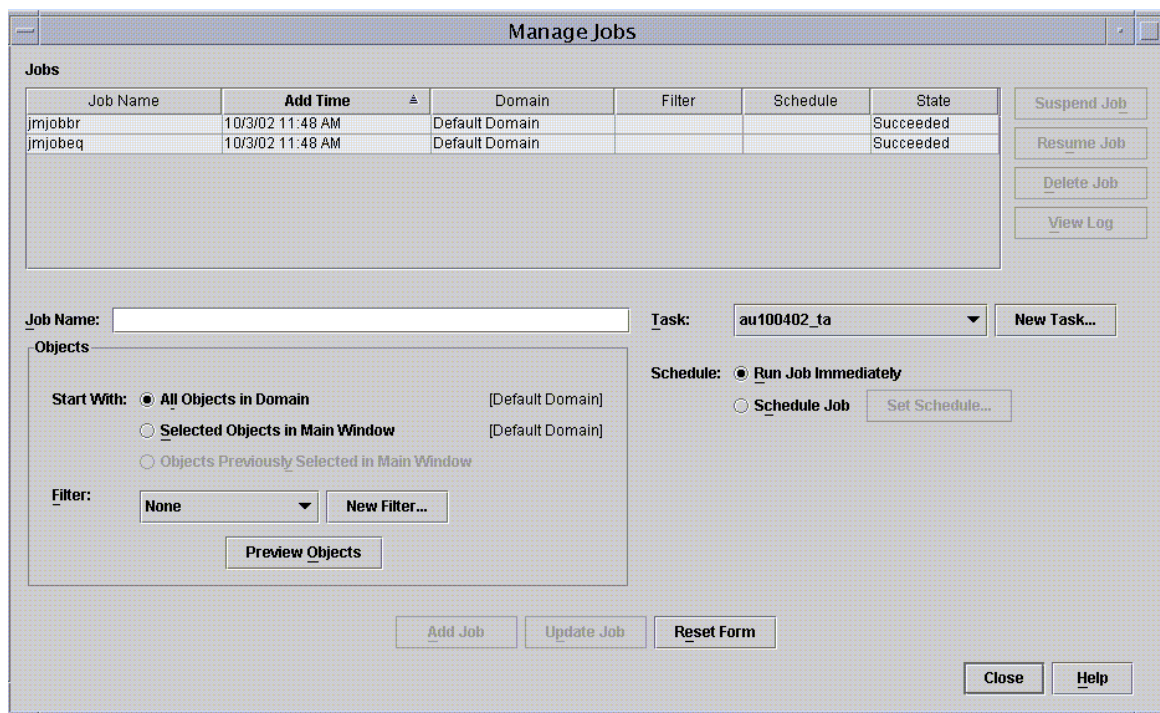


図 2-9 「ジョブの管理」パネル

3. 「ジョブの管理」パネルで「新しいタスク」ボタンを選択します。

「新しいタスク」パネル(図 2-10)が表示されます。このパネルで、配布するエージェント更新イメージファイルを指定できます。

Task Name	Task Type
sutest1	Agent Update
sutest2	Agent Update
sutest3	Agent Update
sutest4	Agent Update

Task Name:

Task Type: **Agent Update** ▼ Load, enable, disable, unload, or modify security for modules

Image File: **sep4su1** ▼

Image Contents: Sun Fire Link

Description (optional)

図 2-10 「新しいタスク」パネル

4. 「新しいタスク」パネル(図 2-10)で、以下のことを行います。

- a. 「タスクタイプ」で「エージェント更新」を選択します。
- b. 手順 1 で作成したイメージファイルを選択します。
- c. タスク名を入力します。
- d. 「タスクの追加」ボタンをクリックします。
- e. 「閉じる」ボタンをクリックします。

5. 「ジョブの管理」パネル (図 2-9) で、以下のことを行います。

- a. ジョブ名を入力します。
- b. 手順 4 で作成したタスクを選択します。
- c. 以下のいずれかを行って、タスクの実行予定を作成します。
 - タスクをただちに実行する場合は、「直ちにジョブを実行」のラジオボタンをクリックします。
 - タスクの実行予定を作成する場合は、「ジョブのスケジュール」のラジオボタンをクリックして、実行日時を設定します。

注 – イメージファイルの配布先のオブジェクト (エージェントマシン) を選択する前に、すべてのエージェントマシンを含むグループオブジェクトを作成できます。これにより、1 つずつエージェントマシンを選択する必要はなくなります。オブジェクトグループの作成についての詳細は、『Sun Management Center 3.5 ユーザガイド』の第 3 章「グループを作成する」を参照してください。

- d. 以下のいずれかを行って、イメージファイルの配布先のオブジェクト (エージェントマシン) を選択します。
 - 「ドメイン内のすべてのオブジェクト」のボタンをクリックして、オブジェクトをさらに選別するためのフィルタを指定します。
 - 「メインウィンドウ内の選択オブジェクト」のボタンをクリックして、オブジェクトを 1 つずつ選択します。
- e. 選択したオブジェクト (エージェントマシン) を確認し、選択内容に誤りがあれば、やり直します。
- f. 「ジョブの追加」ボタンをクリックします。

ジョブが開始され、選択されたオブジェクト (エージェントマシン) にイメージファイルが配布されます。ジョブの実行中は、「ジョブの管理」パネルの「ジョブ」リストにそのことが表示されます。ジョブのステータスとして、ジョブの実行中と完了が示されます。

注 – 複数ホストの更新中にあるホストで問題が発生すると、他の大部分のホストが正常に更新されたとしても、ステータスとして「Failed (失敗)」が返されます。その場合は、「ジョブの管理」パネルの「ジョブ」リストの右側の「ログ表示」をクリックして、成功および失敗した更新の一覧を参照してください。エージェント更新が成功した場合、Sun Management Center エージェントは自動的に再起動します。配布先のホストのそれぞれについて、Sun Management Center コンソールのホストの詳細ウィンドウで、適切なモジュールが存在し、動作しているかを確認することができます。

▼ アドオンソフトウェアが存在しない、または Sun Management Center 3.0 Platform Update 4 アドオンソフトウェアが存在する構成を更新する

この手順は、以下のいずれかの構成の場合に行います。

- アドオンソフトウェアが存在しない構成から Sun Management Center 3.5 アドオンソフトウェアへの更新
- Sun Management Center 3.0 Platform Update 4 アドオンソフトウェアが存在する構成から Sun Management Center 3.5 アドオンソフトウェアへの更新

1. Sun Management Center サーバマシン上でスーパーユーザとしてログインします。

2. イメージツールのいずれかを使用してエージェント更新イメージを作成します。

- `es-gui-imagetool` を使用してエージェント更新イメージを作成するには、『Sun Management Center 3.5 インストールと構成ガイド』の「GUI イメージツールを使用する」の手順に従います。
- `es-imagetool` を使用してエージェント更新イメージを作成するには、『Sun Management Center 3.5 インストールと構成ガイド』の「コマンド行イメージツールを使用する」の手順に従います。

3. 各更新対象マシンのルートディレクトリに

`/opt/SUNWsymon/base/bin/agent-update.bin` ファイルをダウンロードします。

`/opt` 以外のディレクトリに Sun Management Center をインストールしている場合は、`/installdir/SUNWsymon/base/bin/agent-update.bin` をダウンロードします。`installdir` はユーザ指定のインストールディレクトリです。

4. 更新対象のマシン上でスーパーユーザとしてログインします。

5. ダウンロードした `agent-update.bin` が存在するディレクトリに移動します。

6. `./agent-update.bin -s server -r http-port -p image-name` と入力します。

- `server` は手順 1 でログインしたサーバです。
- `http-port` は Sun Management Center Web サーバポートです。
- `image-name` は手順 2 で作成したエージェント専用イメージの名前です。

7. セキュリティーシードおよび SNMPv1 コミュニティ文字列を指定します。

エージェント更新プロセスは、セキュリティーシードおよび SNMPv1 コミュニティ文字列を入力するよう求めます。

- セキュリティーシードは、Sun Management Center サーバおよびエージェントの設定で指定したのと同じシードである必要があります。
- SNMPv1 コミュニティ文字列は、Sun Management Center サーバおよびエージェントの設定で指定したのと同じ文字列である必要があります。

上記以外の情報を入力する必要はありません。更新プロセスがマシンに更新イメージを適用します。

更新プロセスが完了したら、サーバホスト上のログファイル `/var/opt/SUNWsymon/log/agent-update.log` を表示して更新状態を確認します。

注 - プラットフォームエージェントを設定するには、`./es-setup -F` を再実行する必要があります。

Sun Fire Midrange Systems のプラットフォームエージェントインスタンスの作成と設定

デフォルトのプラットフォーム管理モジュールは、1つの Sun Fire Midrange Systems を監視できます。複数の Sun Fire Midrange Systems を監視するには、追加のシステムごとにプラットフォームエージェントのインスタンスを1つ作成する必要があります。

▼ プラットフォームエージェントのインスタンスを作成する

1. `su` コマンドでスーパーユーザになります。
2. Sun Management Center ソフトウェアがインストールされているディレクトリに移動します。

たとえば、`/opt/SUNWsymon` に Sun Management Center ソフトウェアがインストールされている場合は、`/opt/SUNWsymon/sbin` ディレクトリに移動します。

3. es-platform スクリプトを実行します。

```
# ./es-platform -a instanceName
```

instanceName は、新しいプラットフォームエージェントのインスタンスの名前です。

このスクリプトにより、新しいプラットフォームのポート番号とセキュリティーシードの入力が求められます。Sun Management Center のサーバ設定でデフォルト以外のシードを使用した場合は、このエージェントに対して、そのシードを指定してください。

4. このインスタンスを設定するには、51 ページの「新しいプラットフォームエージェントのインスタンスに対する Sun Fire Midrange Systems 用プラットフォーム管理モジュールを設定する」の手順 3 に進みます。

▼ 複数のプラットフォームエージェントのインスタンスを作成する

1. su コマンドでスーパーユーザになります。
2. Sun Management Center ソフトウェアがインストールされているディレクトリに移動します。

たとえば、/opt/SUNWsymon に Sun Management Center ソフトウェアがインストールされている場合は、/opt/SUNWsymon/sbin ディレクトリに移動します。

3. es-platform スクリプトを実行します。

```
# ./es-platform -a instanceName
```

instanceName は、新しいプラットフォームエージェントのインスタンスの名前です。

新しいプラットフォームエージェントのポート番号の入力が求められます。

- a. これまでに使用されていない新しいポート番号を入力します。

注 – このインスタンスを設定するときや、Sun Management Center コンソールでこのプラットフォームインスタンスオブジェクトを作成するときは、必ずこのポート番号を使用してください。

セキュリティーシードの入力が求められます。

- b. Sun Management Center のサーバ設定でデフォルト以外のシードを使用した場合は、このエージェントに対して、そのシードを指定してください。
4. Sun Management Center エージェントプロセスを停止します。

```
# ./es-stop -A
```

5. このインスタンスを設定するには、51 ページの「新しいプラットフォームエージェントのインスタンスに対する Sun Fire Midrange Systems 用プラットフォーム管理モジュールを設定する」の手順 3 に進みます。

▼ 新しいプラットフォームエージェントのインスタンスに対する Sun Fire Midrange Systems 用プラットフォーム管理モジュールを設定する

1. su コマンドでスーパーユーザになります。
2. Sun Management Center ソフトウェアがインストールされているディレクトリに移動します。

たとえば、`/opt/SUNWsymon` に Sun Management Center ソフトウェアがインストールされている場合は、`/opt/SUNWsymon/addons/SunFirePltAdmin/sbin` ディレクトリに移動します。

注 – 手順 3 を行う前に、必ず Sun Management Center エージェント階層を停止しておいてください。エージェント階層を停止するには、コマンド `/opt/SUNWsymon/sbin/es-stop -a` を実行します。

3. 以下を入力します。

```
# ./es-setup.sh -I instanceName
```

instanceName は、新しいプラットフォームエージェントのインスタンスの名前です。

`es-setup.sh` スクリプトから以下の情報の入力が必要です。

- Sun Fire Midrange Systems コントローラの IP アドレス
- システムコントローラとすべてのドメインに対する書き込みコミュニティ文字列。スクリプトがシステムコントローラからドメインのアドレスを取得できない場合は、すべてのドメインの IP アドレスの入力が求められます。

- すべてのドメインの Sun Management Center エージェントのポート番号

上記の設定で提供した情報を変更するには、このスクリプトを再実行します。

4. プラットフォームインスタンスを起動するには、52 ページの「プラットフォームインスタンスを起動する」に進みます。

▼ プラットフォームインスタンスを起動する

プラットフォームインスタンスを設定すると、そのインスタンスを起動できます。

- プラットフォームインスタンスを起動するには、以下を入力します。

```
# ./es-start -y instanceName
```

▼ プラットフォームインスタンスを停止する

- プラットフォームインスタンスを停止する必要がある場合は、以下を入力します。

```
# ./es-stop -y instanceName
```

設定の取り消し方法およびプラットフォームエージェントの削除方法については、54 ページの「設定の取り消しとプラットフォームエージェントの削除」を参照してください。

グループへのユーザの割り当て

この節では、管理者やオペレータグループにユーザを割り当てることによって、担当する操作を行うために必要なアクセス権をユーザに付与する方法を説明します。

▼ 管理者およびオペレータグループにユーザを割り当てる

ユーザ名が `esusers` ファイルに登録されていない場合、そのユーザは Sun Fire Midrange Systems にログオンし、ドメイン管理エージェントに対して読み取り専用でアクセスできます。プラットフォームエージェントの下でプラットフォームまたはドメイン情報の読み取りと書き込みを行うには、サーバ上の `group` にもユーザ名が登録されている必要があります。

この設定手順では、Sun Fire 6800 Midrange Systems のサーバマシン上に最大 10 個のグループを作成できます。それらのグループは次のとおりです。

表 2-3 ユーザグループ

グループ名	ユーザカテゴリ	アクセスのタイプ
<code>spltdm</code>	管理者	プラットフォーム
<code>sdaadm</code>	管理者	ドメイン A
<code>sdbadm</code>	管理者	ドメイン B
<code>sdcadm</code>	管理者	ドメイン C
<code>sddadm</code>	管理者	ドメイン D
<code>spltop</code>	オペレータ	プラットフォーム
<code>sdaop</code>	オペレータ	ドメイン A
<code>sdbop</code>	オペレータ	ドメイン B
<code>sdcop</code>	オペレータ	ドメイン C
<code>sddop</code>	オペレータ	ドメイン D

1. `su` コマンドでスーパーユーザになります。
2. `/etc/group` ファイル内の適切なグループに各ユーザを追加します。
 - a. Sun Fire Midrange Systems のプラットフォームの管理者がプラットフォームエージェントのプラットフォーム表示を使用してプラットフォームを管理できるようにするには、その管理者を `spltdm` に追加します。
 - b. Sun Fire Midrange Systems のドメインの管理者を適切なドメイン管理者グループに追加します。

たとえば、`sdaadm` にドメイン管理者を追加すると、プラットフォームを使用してドメインを管理できるようになります。
3. `/var/opt/SUNWsymon/cfg/esusers` ファイルに各ユーザを追加します。

設定の取り消しとプラットフォームエージェントの削除

Sun Fire Midrange Systems を監視する必要がなくなった場合は、対応するプラットフォームエージェントまたはインスタンスの設定を取り消し、削除することで、システムリソースを節約できます。

▼ Sun Fire Midrange Systems のデフォルトのプラットフォーム管理モジュールの設定を取り消す

1. su コマンドでスーパーユーザになります。
2. パス /addons/SunFirePltAdmin/sbin ディレクトリに移動します。パスは、Sun Management Center ソフトウェアがインストールされているディレクトリです。
たとえば、/opt/SUNWsymon に Sun Management Center ソフトウェアがインストールされている場合は、/opt/SUNWsymon/addons/SunFirePltAdmin/sbin ディレクトリに移動します。
3. 以下のように入力して、デフォルトのプラットフォームエージェントの設定を取り消します。

```
# ./es-setup.sh -u
```

▼ Sun Fire Midrange Systems 用のプラットフォーム管理インスタンスの設定を取り消す

1. su コマンドでスーパーユーザになります。
2. パス /addons/SunFirePltAdmin/sbin ディレクトリに移動します。パスは、Sun Management Center ソフトウェアがインストールされているディレクトリです。
たとえば、/opt/SUNWsymon に Sun Management Center ソフトウェアがインストールされている場合は、/opt/SUNWsymon/addons/SunFirePltAdmin/sbin ディレクトリに移動します。

3. 以下のように入力して、特定のプラットフォームエージェントのインスタンス設定を取り消します。

```
# ./es-setup.sh -u -I instanceName
```

注 - 設定を取り消すと、対応する Sun Management Center エージェントが停止します。

4. エージェントを再起動します。

▼ プラットフォームエージェントを削除する

1. su コマンドでスーパーユーザになります。
2. パス/sbin ディレクトリに移動します。パスは、Sun Management Center ソフトウェアがインストールされているディレクトリです。
たとえば、/opt/SUNWsymon に Sun Management Center ソフトウェアがインストールされている場合は、/opt/SUNWsymon/sbin ディレクトリに移動します。
3. 以下のように入力して、プラットフォームエージェントのインスタンスを削除します。

```
# ./es-platform -d instanceName
```

ドメインの設定

ここでは、2 種類のドメインについて説明します。

- Sun Management Center 管理ドメイン - 1 つ以上のホストシステムの集まり。たとえば、管理ドメインは、施設内にあるすべてのサーバとワークステーションで構成できます。
- ハードウェアドメイン - Sun Fire Midrange Systems プラットフォーム内のコンポーネントの一部。たとえば、複数の CPU ボードと複数の入出力ボードからなるプラットフォームは、複数のドメインに分割できます。このとき、各ドメインは、1 つ以上の CPU ボードと 1 つ以上のネットワーク接続で構成されます。各ハードウェアドメインは、専用の Solaris オペレーティング環境を実行します。

▼ ハードウェアドメインを作成する

出荷時、Sun Fire Midrange Systems は、ハードウェアドメインが 1 つ (ドメイン A) の構成になっています。システム管理者は、追加のハードウェアドメインを作成できます。Sun Fire E6900、6800 システムでは、最大 4 つのハードウェアドメインを構成できます。Sun Fire E4900、および 4810/4800/3800 システムは最大 2 つのハードウェアドメインを構成できます。

- Sun Fire Midrange Systems でのハードウェアドメインの追加作成については、『Sun Fire Midrange Systems Platform Administration Manual』を参照してください。

▼ 管理ドメインを作成する

- 管理ドメインを作成してメンバーを登録する方法については、『Sun Management Center 3.5 ユーザガイド』を参照してください。

第3章

プラットフォームエージェントによるプラットフォームおよびドメインの管理

この章では、Sun Fire Midrange Systems のプラットフォーム管理手順と機能を説明します。

この章で取り上げる項目は次のとおりです。

- 57 ページの「Sun Fire Midrange Systems 用プラットフォーム管理モジュール」
- 63 ページの「プラットフォーム管理モジュールのドメインテーブルへのアクセス」
- 74 ページの「ドメインテーブルの操作」
- 80 ページの「プラットフォーム管理モジュールのプラットフォームテーブルへのアクセス」
- 97 ページの「プラットフォームテーブルの操作」
- 107 ページの「Sun Fire Midrange Systems の物理表示と論理表示」
- 113 ページの「プラットフォーム管理のハードウェア規則」
- 119 ページの「データ収集テーブル」

Sun Fire Midrange Systems 用プラットフォーム管理モジュール

Sun Fire Midrange Systems の場合、プラットフォーム管理手順では、Sun Fire Midrange Systems 用のプラットフォーム管理モジュールを使用します。このモジュールは、オブジェクト詳細ウィンドウの「モジュールブラウザ」タブ内の「ハードウェア」カテゴリに読み込まれます。

これらに対応する表示のデータは、適切なアクセス権を持つユーザだけが見ることができます。たとえば、プラットフォームとドメイン A へのアクセス権をもつユーザは、プラットフォームとドメイン A のデータを表示することはできますが、ドメイン B、C、D のデータを表示することはできません。図 3-1 は、プラットフォーム管理者が見ることができるテーブルと、ドメイン管理者が見ることができるテーブルを示しています。

プラットフォーム管理者は、「プラットフォーム」内のすべてのテーブルを見ることができる

ドメイン管理者は、許可されているドメイン内のすべてのテーブルを見ることができるが、アクセス権なしに「プラットフォーム」内と他のドメイン内のテーブルを見ることができない

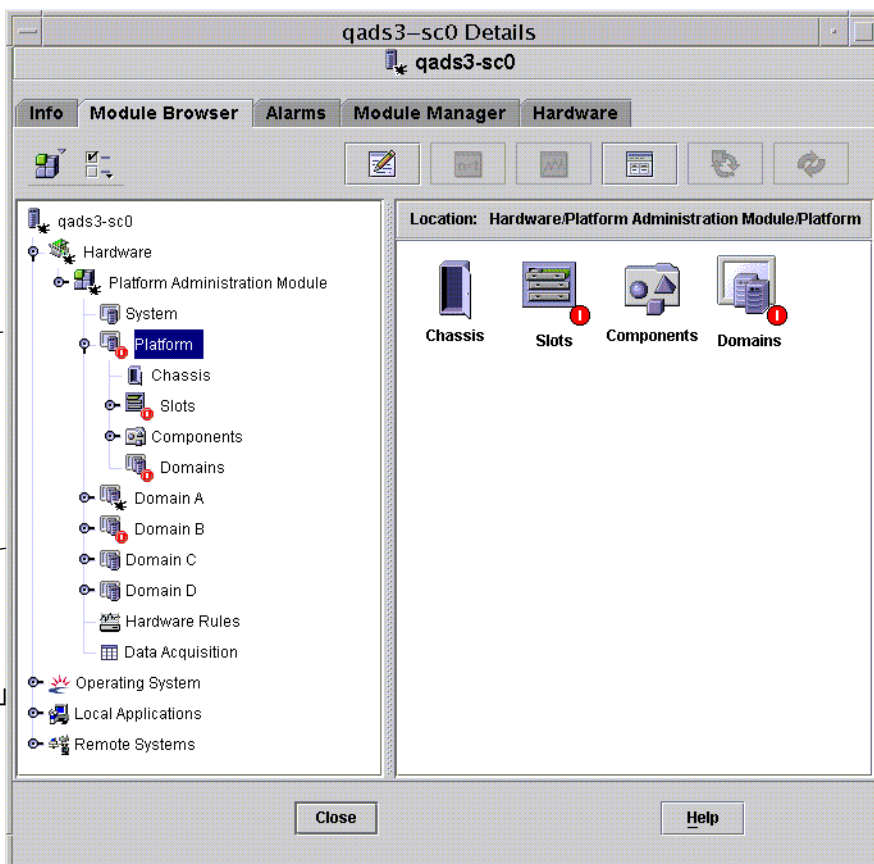


図 3-1 Sun Fire Midrange Systems のプラットフォームオブジェクトの詳細ウィンドウ

注 - この後の例の図では、Sun Fire Midrange Systems のオブジェクトが 1 つだけ示されています。実際には、その他の種類のオブジェクトが存在することがあります。

▼ Sun Fire Midrange Systems のドメインオブジェクトだけを作成する

1. メインコンソールウィンドウから、「編集」>「オブジェクトの作成」>「ノード」>「Sun Management Center エージェント - ホスト」を選択します。

「トポロジオブジェクトの作成」ウィンドウが表示されます。デフォルトでは、「ノード」タブと「Sun Management Center エージェント - ホスト」が最初に表示されます (図 3-2)。
2. 以下の操作をします。
 - a. オブジェクトのラベル名を入力します。
 - b. 必要に応じてオブジェクトの説明を入力します。
 - c. ドメインエージェントが動作しているホスト名 (ここでは Sun Fire Midrange Systems マシンのホスト名) を入力します。
 - d. ベースエージェントポート番号 (デフォルトは 161) を入力します。
3. 最後に、次のいずれかの操作をします。
 - これまでの設定を適用してウィンドウを閉じる場合は、「了解」をクリックします。
 - ウィンドウを閉じないで変更を適用する場合は、「適用」をクリックします。
 - このパネルのヘルプページをヘルプブラウザに表示する場合は、「ヘルプ」をクリックします。
 - これまでの設定を適用しない場合は、「取消し」をクリックします。

エラーが発生した場合は、状態メッセージフィールドにエラーメッセージが表示されます。

注 - 「ヘルプ」ボタンをクリックすると、Sun Management Center ソフトウェア内のオブジェクトの作成に関するヘルプページが表示されます。

▼ Sun Fire Midrange Systems のプラットフォームオブジェクトだけを作成する

1. メインコンソールウィンドウから、「編集」>「オブジェクトの作成」>「ノード」>「Sun Management Center エージェント - プラットフォーム」を選択します。

「トポロジオブジェクトの作成」ウィンドウが表示されます。デフォルトでは、「ノード」タブと「Sun Management Center エージェント - ホスト」が最初に表示されます (図 3-2)。

- オブジェクト名を「Sun Management Center エージェント - プラットフォーム」に変更します。

2. 以下の操作をします。

- a. オブジェクトのラベル名を入力します。
- b. 必要に応じてオブジェクトの説明を入力します。
- c. プラットフォームエージェントが動作しているホスト名を入力します (任意のマシンを指定可能)。
- d. ポート番号として 166 と入力します。

3. 最後に、次のいずれかの操作をします。

- これまでの設定を適用してウィンドウを閉じる場合は、「了解」をクリックします。
- ウィンドウを閉じないで変更を適用する場合は、「適用」をクリックします。
- このパネルのヘルプページをヘルプブラウザに表示する場合は、「ヘルプ」をクリックします。
- これまでの設定を適用しない場合は、「取消し」をクリックします。

エラーが発生した場合は、状態メッセージフィールドにエラーメッセージが表示されます。

注 - 「ヘルプ」ボタンをクリックすると、Sun Management Center ソフトウェア内のオブジェクトの作成に関するヘルプページが表示されます。

▼ Sun Fire Midrange Systems の複合オブジェクトを作成する

通常、複合オブジェクトは、ドメインエージェント 1 つとプラットフォームエージェント 1 つで構成されます。ここでは、このような複合オブジェクトを作成する方法を説明します。

システムコントローラ以外のドメインでプラットフォームエージェントが動作している場合、Sun Management Center 3.5 ソフトウェアで複合オブジェクトを作成することはできません。これは、SC ファームウェアが Sun Management Center のためのドメイン名の検出をサポートしていないためです。また、SC が複数の IP/ ドメインインタフェースで構成可能であり、SC ファームウェアには Sun Management Center が監視しているドメインを知る手段がないためです。



注意 – プラットフォームエージェントとドメインエージェントが別のドメインで作作している場合は、ドメインエージェントが動作していても、複合オブジェクトはドメインエージェントなしで作成されます。「編集」>「オブジェクトの作成」>「ノード」>「エージェント - ホスト」を選択して、ドメインエージェントオブジェクトを別途作成できます。

1. メインコンソールウィンドウのメニューバーから、「編集」>「オブジェクトの作成」>「複合」>「Sun Fire *nnnn*」を選択します。*nnnn* は Sun Fire Midrange Systems のマシン番号です。

「複合」タブを表示した状態で「オブジェクトの作成」ウィンドウが表示されます(図 3-3 を参照)。

2. 以下の操作をします。
 - a. 複合オブジェクトのラベル名を入力します。
 - b. 必要に応じて複合オブジェクトの説明を入力します。
 - c. プラットフォームエージェントが動作しているホスト名を入力します (任意のマシンを指定可能)。
 - d. ベースエージェントポート番号を入力します。
3. 最後に、次のいずれかの操作をします。
 - これまでの設定を適用してウィンドウを閉じる場合は、「了解」をクリックします。
 - ウィンドウを閉じないで変更を適用する場合は、「適用」をクリックします。
 - このパネルのヘルプページをヘルプブラウザに表示する場合は、「ヘルプ」をクリックします。
 - これまでの設定を適用しない場合は、「取消し」をクリックします。

エラーが発生した場合は、状態メッセージフィールドにエラーメッセージが表示されます。

注 – 「ヘルプ」ボタンをクリックすると、Sun Management Center ソフトウェア内のオブジェクトの作成に関するヘルプページが表示されます。

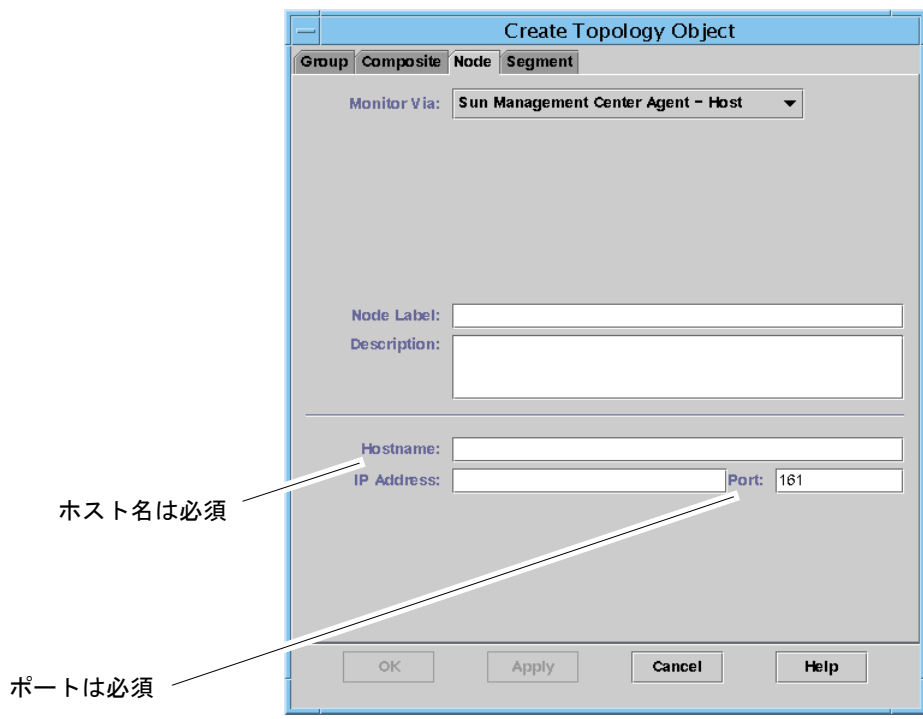


図 3-2 「オブジェクトの作成」ウィンドウの「ノード」タブ

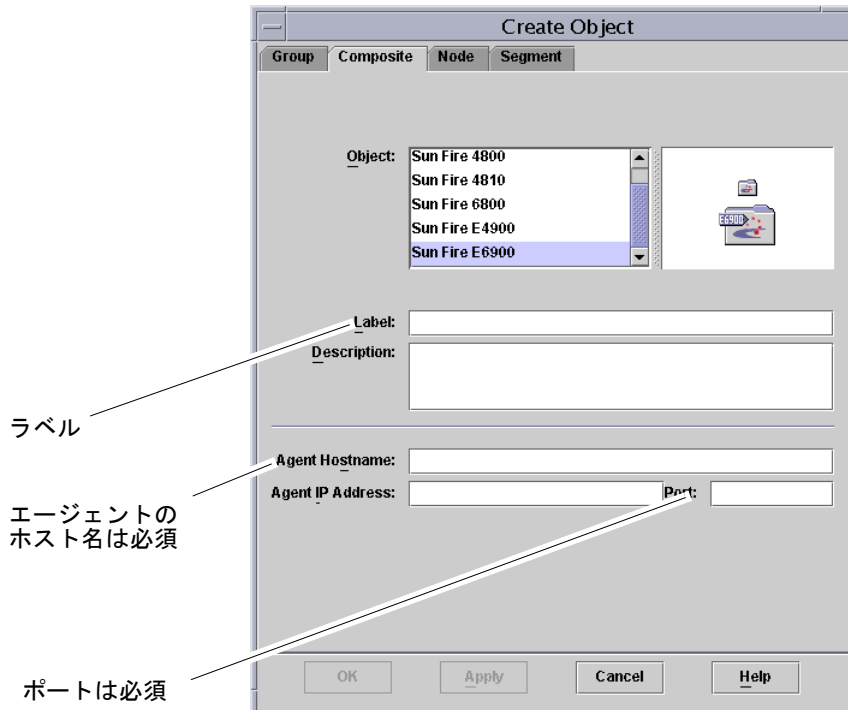


図 3-3 Sun Fire Midrange Systems の場合の「複合」タブ

プラットフォーム管理モジュールのドメインテーブルへのアクセス

ドメイン管理者は、対応するドメインノードのすべてのテーブルを表示できます。たとえば、ドメイン A のドメイン管理者は、ドメイン A 内のすべてのテーブルを表示できます (図 3-4)。この節では、ドメインのテーブルとその属性をまとめています。

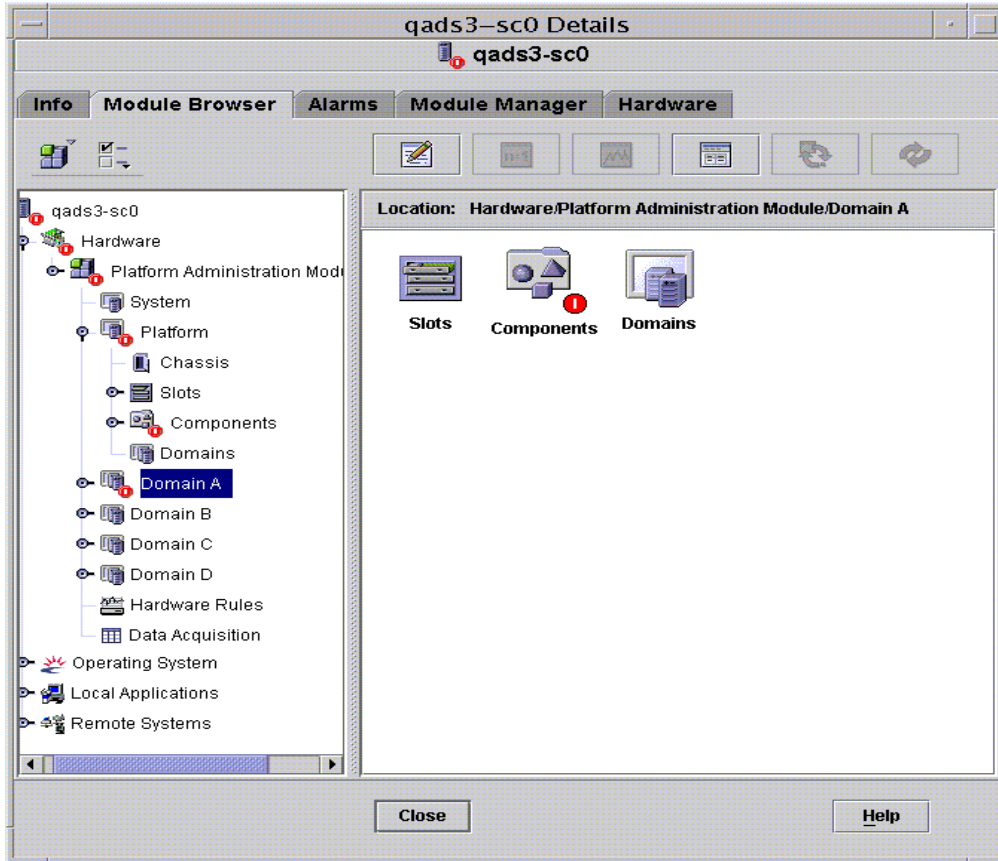


図 3-4 ドメイン X のテーブル

ドメイン X のスロットテーブル

ここでは、ドメインのスロットテーブルをまとめています。テーブルの X はドメイン名の英字 1 字 (A ~ D) です。

- 空きスロット
- CPU ボード
- 入出力ボード
- 不明なボード

ドメイン X の空きスロット

表 3-1 は、Sun Fire Midrange Systems のドメインの空きスロットの属性を簡単にまとめています。

表 3-1 ドメイン X の空きスロット

属性	規則 (ある場合)	説明
スロット名		SBx などの形式で空きスロットの名前を示す。x はスロット番号
スロットの電源状態	rspa1011	電源の状態として PoweredOff または PoweredOn を示す
スロットのボード種別		ボード種別として Empty を示す
スロットの状態		スロットの状態として Active、Assigned、Available、-- のどれかを示す。最後の -- は、ボードの状態がこのスロットに適用できないことを意味する。
スロットのテスト状態	rspa1010	スロットのテスト状態として Passed、NotTested、Unknown、Under Test、Start Test、Degraded、Failed、Unusable のどれかを示す
スロットのドメイン		DomainA などの、スロットが割り当てられているドメインを示す。割り当てられていない場合は Isolated
スロットの状態	rspa1000	スロットの状態として OK、Failed、OverTemp、UnderTemp、Unknown を示す

ドメイン X の CPU ボード

表 3-2 は、Sun Fire Midrange Systems のドメインの CPU ボードの属性を簡単にまとめています。

表 3-2 ドメイン X の CPU ボード

属性	規則 (ある場合)	説明
CPU ボード名		SBx の形式で CPU ボード名を示す。x は CPU ボードが装着されているスロット番号。
CPU ボードの電源状態	rspa1011	電源の状態として PoweredOff または PoweredOn を示す
CPU ボード種別		CPU ボードのバージョン番号として CPU (デフォルト)、CPU_V2、CPU_V3、Unknown (不明) のどれかを示す
CPU ボードのスロット状態		スロットの状態として Active、Assigned、Available、-- のどれかを示す。最後の -- は、ボードの状態がこのスロットに適用できないことを意味する。
CPU ボードのテスト状態	rspa1010	ボードのテスト状態として Passed、NotTested、Unknown、UnderTest、Start Test、Degraded、Failed、Unusable のどれかを示す
CPU ボードのドメイン		ボードが割り当てられているドメインを示す
スロットの状態	rspa1000	スロットの状態として OK、Failed、OverTemp、UnderTemp、Unknown のどれかを示す
CPU ボードの FRU インデックス		CPU ボードの現場交換可能ユニット (FRU) インデックスを示す
CPU ボードの総 CPU		このボード上の総 CPU 数 (たとえば 4) を示す
CPU ボードの総 DRAM メモリ (MB)		このボード上の DRAM (dynamic random access memory) の合計容量 (メガバイト単位。たとえば 4096) を示す
CPU ボードの総 E キャッシュメモリ (MB)		このボード上の外部キャッシュ (E キャッシュ) の合計容量 (メガバイト単位。たとえば 32) を示す

表 3-2 ドメイン X の CPU ボード (続き)

属性	規則 (ある場合)	説明
CPU ボードの総 WCI		この CPU ボード上の総 Sun Fire Link インタフェース (WCI) 数を示す
CPU ボードの温度		4 0:32:90:normal 0:33:9... などの形式で CPU ボードの温度と範囲を示す
COD ボード?		CPU ボードが COD ボードでもあるかどうかを示す (CodBoard または NonCodBoard)

ドメイン X の 入出力ボード

表 3-3 は、Sun Fire Midrange Systems のドメインの入出力ボードの属性を簡単にまとめています。

表 3-3 ドメイン X の入出力ボード

属性	規則 (ある場合)	説明
入出力ボード名		/Nn/IBx の形式でボード識別子を示す。n はノード番号、x は入出力ボードが存在するスロット番号。
入出力ボードの電源状態	rspa1011	電源の状態として PoweredOff または PoweredOn を示す
入出力ボード種別		PCI、PCI+、または CPCI などのボードの種別を示す
入出力ボードのスロット状態		スロットの状態として Active、Assigned、Available、-- のどれかを示す。最後の -- は、ボードの状態がこのスロットに適用できないことを意味する。
入出力ボードのテスト状態	rspa1010	ボードのテスト状態として Passed、NotTested、Unknown、UnderTest、Start Test、Degraded、Failed、Unusable のどれかを示す
入出力ボードのドメイン		ボードが割り当てられているドメインを示す
スロットの状態	rspa1000	スロットの状態として OK、Failed、OverTemp、UnderTemp、Unknown のどれかを示す
入出力ボードの FRU インデックス		入出力ボードの現場交換可能ユニット (FRU) インデックスを示す

表 3-3 ドメイン X の入出力ボード (続き)

属性	規則 (ある場合)	説明
入出力ボードの総 WCI		この 入出力ボード上の総 Sun Fire Link インタフェース (WCI) 数を示す
入出力ボードの総 ParoliCpciDca		この 入出力ボード上の並列光リンク (Paroli) カード、コンパクト PCI (cPCI) カード、およびドーターカード部品 (DCA) の合計数を示す
入出力ボードの温度		2 0:46:90:normal 0:35... などの形式で入出力ボードの温度と範囲を示す

ドメイン X の不明なボード

表 3-4 は、Sun Fire Midrange Systems のドメインの不明なボードの属性を簡単にまとめています。

表 3-4 ドメイン X の不明なボード

属性	規則 (ある場合)	説明
不明なボード名		SBx または IBx などの形式で不明なボード名を示す。x はボードが存在するスロット番号。
不明なボードの電源状態	rspa1011	電源の状態として PoweredOff または PoweredOn を示す
不明なボード種別		ボード種別として Unknown を示す
不明なボードのスロット状態		スロットの状態として Active、Assigned、Available、-- のどれかを示す。最後の -- は、ボードの状態がこのスロットに適用できないことを意味する。
不明なボードのテスト状態	rspa1010	ボードのテスト状態として Passed、NotTested、Unknown、UnderTest、Start Test、Degraded、Failed、Unusable のどれかを示す
不明なボードのドメイン		ボードが割り当てられているドメインを示す
スロットの状態	rspa1000	スロットの状態として OK、Failed、OverTemp、UnderTemp、Unknown のどれかを示す

ドメイン X の構成部品 (コンポーネント) テーブル

ここでは、ドメインの構成部品テーブルをまとめています。テーブルの X はドメイン名の英字 1 字 (A ~ D) です。

- CPU モジュール
- DIMM
- E キャッシュ
- WCI
- WCI ポート

ドメイン X の CPU モジュール

表 3-5 は、Sun Fire Midrange Systems のドメインの CPU モジュールの属性を簡単にまとめています。

表 3-5 ドメイン X の CPU モジュール

属性	規則 (ある場合)	説明
CPU モジュールのボードインデックス		CPU モジュールのボードインデックスを示す
CPU モジュールのインデックス		CPU モジュールのインデックスを示す
CPU モジュールの説明		CPU モジュールの説明として、UltraSPARC-III、UltraSPARC-III+、UltraSPARC-IV のどれかを示す
CPU モジュールの温度		1 0:62:93:normal などの形式で CPU モジュールの温度と範囲を示す
CPU モジュールの状態	rspa1008	CPU モジュールの状態として Online または Idle を示す。CPU が COD によって使用不可にされている場合は CodDisabled
CPU モジュールのモデル		sparcv9 の CPU モジュールのモデルを示す
CPU モジュールの速度 (MHz)		メガヘルツ (MHz) 単位で CPU モジュールの速度を示す
CPU モジュールの I キャッシュサイズ (KB)		CPU モジュールの命令キャッシュ (I キャッシュ) のサイズをキロバイト (KB) 単位で示す
CPU モジュールの D キャッシュサイズ (KB)		CPU モジュールのデータキャッシュ (D キャッシュ) のサイズをキロバイト (KB) 単位で示す

表 3-5 ドメイン X の CPU モジュール (続き)

属性	規則 (ある場合)	説明
CPU モジュールの E キャッシュサイズ (KB)		CPU モジュールの外部キャッシュ (E キャッシュ) のサイズをキロバイト (KB) 単位で示す
CPU モジュールの W キャッシュサイズ (KB)		CPU モジュールの書き込みキャッシュ (W キャッシュ) のサイズをキロバイト (KB) 単位で示す
CPU モジュールの最終変更		最終変更日時を示す
CPU モジュールのエラー		CPU モジュールの誤り訂正コード (ECC) エラー数を示す

ドメイン X の DIMM モジュール

表 3-6 は、Sun Fire Midrange Systems のドメインの DIMM (dual inline memory module) の属性を簡単にまとめています。

表 3-6 ドメイン X の DIMM モジュール

属性	規則 (ある場合)	説明
DIMM の CPU ボードインデックス		DIMM の CPU ボードインデックスを示す
DIMM の CPU モジュールインデックス		DIMM の CPU モジュールインデックスを示す
DIMM インデックス		DIMM のインデックスを示す
DIMM の FRU インデックス		DIMM の現場交換可能ユニット (FRU) インデックスを示す

ドメイン X の E キャッシュ

表 3-7 は、Sun Fire Midrange Systems のドメインの外部キャッシュ (E キャッシュ) の属性を簡単にまとめています。

表 3-7 ドメイン X の構成部品の E キャッシュ

属性	規則 (ある場合)	説明
E キャッシュの CPU ボードインデックス		E キャッシュの CPU ボードインデックスを示す
E キャッシュの CPU モジュールインデックス		E キャッシュの CPU モジュールインデックスを示す
E キャッシュのインデックス		E キャッシュのインデックスを示す
E キャッシュの FRU インデックス		E キャッシュの現場交換可能ユニット (FRU) インデックスを示す

ドメイン X の WCI

表 3-8 は、Sun Fire Midrange Systems のドメインの Sun Fire Link インタフェース (WCI) モジュールの属性を簡単にまとめています。

表 3-8 ドメイン X の構成部品の WCI

属性	規則 (ある場合)	説明
WCI モジュールのボードインデックス		WCI モジュールのボードインデックスを示す
WCI モジュールのインデックス		WCI モジュールのインデックスを示す
WCI モジュールの説明		WCI モジュールの説明を示す
WCI モジュールの状態	rspa1008	WCI モジュールの状態として Online または Idle を示す
WCI モジュールのモード		WCI モジュールのモードとして SSM、RSM (遠隔共有メモリ)、Unknown を示す
WCI モジュールの温度		WCI モジュールの温度と範囲を示す

表 3-8 ドメイン X の構成部品の WCI (続き)

属性	規則 (ある場合)	説明
WCI モジュールの総 DIMM		WCI モジュール上の DIMM の合計サイズを示す
WCI モジュールの総 MEM		WCI モジュール上の合計メモリサイズを示す
WCI モジュールの総 ParoliDCA		このモジュール上の並列光リンク (Paroli) カード、コンパクト PCI (cPCI) カード、およびドーターカード部品 (DCA) の合計数を示す
WCI モジュールの総ポート		WCI モジュールの合計ポート数を示す
WCI モジュールの最終変更		最終変更日時を示す
WCI モジュールのエラー		WCI モジュールの誤り訂正コード (ECC) エラー数を示す

ドメイン X の WCI ポート

表 3-9 は、Sun Fire Midrange Systems のドメインの Sun Fire Link インタフェース (WCI) ポートの属性を簡単にまとめています。

表 3-9 ドメイン X の構成部品の WCI ポート

属性	規則 (ある場合)	説明
WCI ポートのボードインデックス		WCI ポートのボードインデックスを示す
WCI ポートのモジュールインデックス		WCI ポートのモジュールインデックスを示す
WCI ポートのインデックス		WCI ポートのインデックスを示す
WCI ポートの FRU インデックス		WCI ポートの現場交換可能ユニット (FRU) インデックスを示す

表 3-9 ドメイン X の構成部品の WCI ポート (続き)

属性	規則 (ある場合)	説明
WCI ポートの状態		WCI ポートの状態として Unknown、Installed、Connected、Unconfigured、Error のどれかを示す
WCI ポートの ParoliDCA		この WCI ポートを使用する並列光リンク (Paroli) カードとドーターカード部品の個数 (1 または 2) を示す
WCI ポートの遠隔位置		WCI ポートの遠隔位置を示す

ドメイン

表 3-10 は、ドメインの属性を簡単にまとめています。テーブルの X は、Sun Fire Midrange Systems のドメイン名の英字 1 字 (A ~ D) です。

表 3-10 ドメイン X のドメイン

属性	規則 (ある場合)	説明
ドメイン		ドメイン A ~ D のドメインを示す
ドメインの説明		ドメインの説明を示す
ドメインのログホスト	rspa1006	ドメインのログホスト名を示す
ドメインのトラップホスト	rspa1006	ドメインの SNMP トラップホストの名前または IP アドレスを示す。形式は「ホスト[:ポート]」
ドメインの ACL の説明		SB0 SB1 SB3 SB5 IB6 I... などの形式で、ドメインのアクセス制御リスト (ACL) に登録されているスロット情報を示す
ドメインの状態	rspa1002	ドメインの状態として、RunningSolaris、PoweredOff、Standby、Running POST、Active、Active - OpenBoot PROM、Active - Booting、Active - Halted、Active - Reset、Active - Panicking、Active - Debugger、Not Responding、Paused due to an error などを示す
ドメインのノード名		Solaris オペレーティング環境ノードの名前を示す
ドメインの SSM モード		ドメインのスケラブル共有メモリ (SSM) モードとして Master、Slave、Local、Unknown のどれかを示す
ドメインの SSM マスター		スケラブル共有メモリ (SSM) のマスターノードのホスト名を示す

表 3-10 ドメイン X のドメイン (続き)

属性	規則 (ある場合)	説明
ドメインの SSM スレーブノード		スレーブのスケーラブル共有メモリ (SSM) があるホストまたはノードのホスト名を示す
ドメインのキースイッチ	rspa1003	ドメインの仮想キースイッチ位置として、Unknown (デフォルト)、Off、Standby、On、Diagnostic、Secure、OffToStandby、OffToOn、OffToDiag、OffToSecure、StandbyToOff、ActiveToOff、ActiveToStandby、RebootToOn、RebootToDiag、RebootToSecure、standbyToOn、standbyToDiag、standbyToSecure、onToOff、onToStandby、onToDiag、onToSecure、diagToOff、diagToStandby、diagToOn、diagToSecure、secureToOff、secureToStandby、secureToOn、secureToDiag、offToOff、standbyToStandby、onToOn、diagToDiag、secureToSecure のどれかを示す
ドメインの連絡先		このドメインの担当者名を示す
ACL 未登録スロット		SB2 SB4 などの形式で、ドメインのアクセス制御リスト (ACL) に登録されていないスロットを示す

ドメインテーブルの操作

データテーブル内のエントリを右クリックすると、ポップアップメニューが表示されます (図 3-5)。このメニューに表示される操作一覧の内容は、選択された行内の列値とエントリのタイプによって異なります。

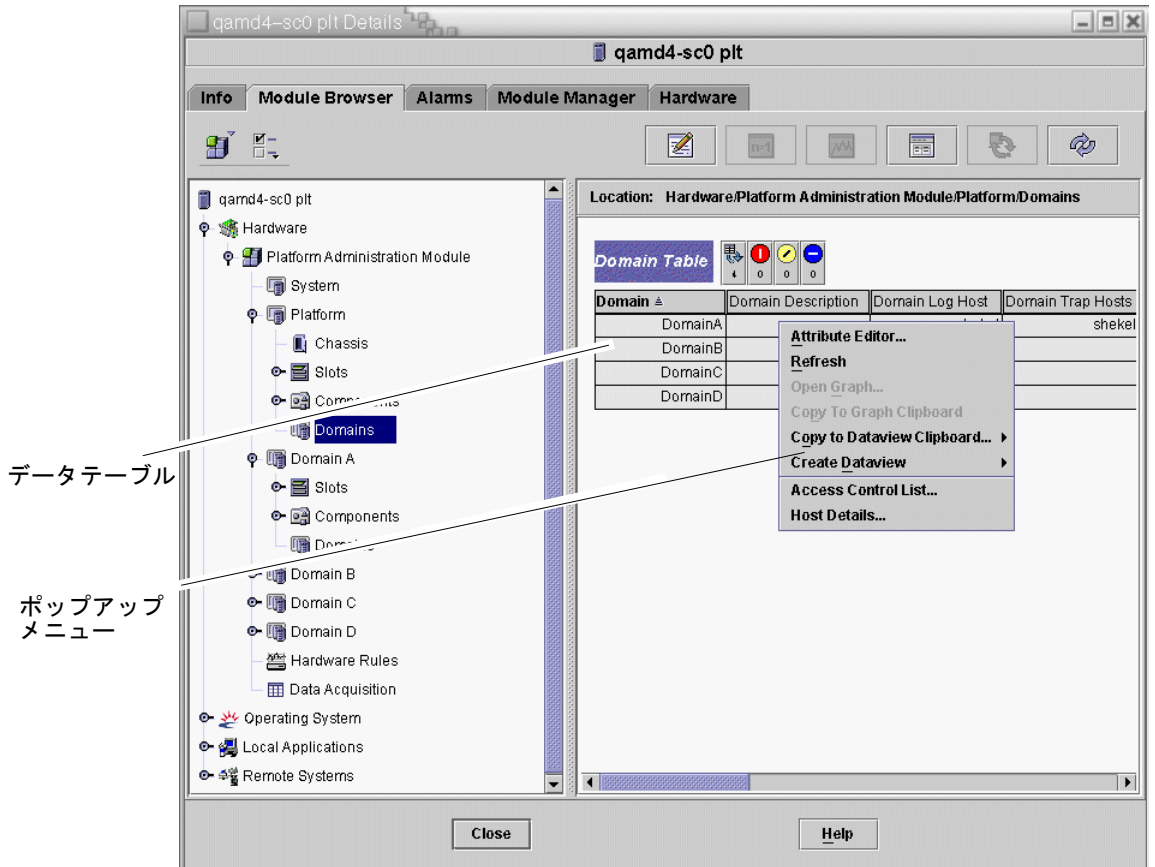


図 3-5 「モジュールブラウザ」ウィンドウのドメインテーブル

表 3-11 は、ポップアップメニューに表示される項目の種類と、それらの項目で行うことができる操作の一覧です。

表 3-11 ドメイン表示におけるテーブル操作メニューの項目

テーブル	操作
FRU インデックスエントリを持つスロットおよび構成部品テーブル	FRU 情報の表示
ドメイン	キースイッチ、ログホストの設定、ホスト詳細の表示と管理

表 3-12 は、行うことができる主な操作とその機能をまとめています。

表 3-12 ドメインテーブルの操作

操作	機能
キースイッチ...	ドメインの仮想キースイッチ位置を変更できます。図 3-6 は、「キースイッチ...」を選択したときに表示されるパネルを示しています。
ログホストの設定...	ドメインの SNMP トラップと Syslog ホストを設定できます。図 3-7 は、「ログホストの設定...」を選択したときに表示されるパネルを示しています。
FRU 情報	選択した構成部品の FRU 情報を表示できます。図 3-8 は、表示されるパネルを示しています。
テーブルのソート	条件を変更してドメインテーブルをソートできます。ドメインテーブルの列の見出しをクリックすると、その見出しを基準にテーブルがソートされます。たとえば、「状態」列をクリックすると、「状態」を基準にテーブルがソートされます。ソートの順序 (昇順と降順) は、同じ列見出しを再度クリックして、交互に切り替えることができます。現在ソートされている列見出しは太字で表示され、現在のソート順は下向きまたは上向き矢印で示されます。デフォルトでは、ドメインテーブルはドメイン ID を基準に昇順にソートされます。
ホスト詳細	対応するドメインのホスト詳細ウィンドウを表示します

以下では、これらの操作を実際に行う方法を説明します。

▼ ドメインのキースイッチ設定を変更する

「キースイッチ」メニュー項目は、すべてのドメイン (ドメイン A、B、C、D) に用意されています。

1. データテーブル内を右クリックして、ポップアップメニューを表示します。
2. 「キースイッチ...」を選択します。

階層表示内のこのコマンドへのパスは、「ハードウェア」>「プラットフォーム管理モジュール」>「ドメイン X」>「ドメイン」>データテーブルのメニュー>「キースイッチ...」です。

「キースイッチ」パネル (図 3-6) が表示されます。このパネルには、仮想キースイッチの現在の設定位置が示されます。

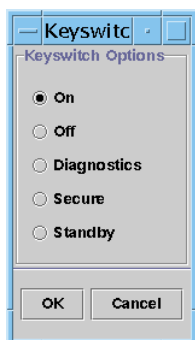


図 3-6 キースイッチのパネル

システムコントローラがネットワークに接続されている場合は、キースイッチ位置を、5 つあるモードのうちの一つに変更できます。システムコントローラがネットワークに接続されていない場合、このオプションは選択できません。

5 つのモードは次のとおりです。

■ オン

ドメインの電源がすでに入っている状態で「オン」ボタンをクリックした場合は、仮想キースイッチの位置が変更されるだけです。

■ オフ

ドメインが Solaris オペレーティング環境を実行している状態で「オフ」ボタンをクリックした場合は、確認パネルが表示されます。このモードを選択すると、選択されているドメイン内のすべてのボードの状態がオフになり、低電力モードになって、シャーシからのボードの取り外しが可能な状態になります。

■ 診断

ドメインの電源がすでに入っている状態で「診断」ボタンをクリックした場合は、仮想キースイッチの位置が変更されるだけです。

■ 保護

ドメインの電源がすでに入っている状態で「保護」ボタンをクリックした場合は、仮想キースイッチの位置が変更されるだけです。

■ スタンバイ

ドメインが Solaris オペレーティング環境を実行している状態で「スタンバイ」ボタンをクリックした場合は、確認パネルが表示されます。このモードを選択すると、選択されているドメイン内のすべてのボードの状態がスタンバイになりますが、低電力モードにはなりません。

3. 最後に、次のいずれかの操作をします。

- これまでの設定を適用してウィンドウを閉じる場合は、「了解」をクリックします。
- これまでの設定を適用しない場合は、「取消し」をクリックします。

エラーが発生した場合は、パネルの状態メッセージフィールドにエラーメッセージが表示されます。

▼ ドメインのログホストを設定する

1. データテーブル内を右クリックして、ポップアップメニューを表示します。
2. 「ログホストの設定...」を選択します。

階層表示内のこのコマンドへのパスは次のとおりです。

- 「ハードウェア」>「プラットフォーム管理モジュール」>「ドメイン X」>「ドメイン」>データテーブルのメニュー>「ログホストの設定...」を選択します。
- 「ハードウェア」>「プラットフォーム管理モジュール」>「プラットフォーム」>「シャーシ」>データテーブルのメニュー>「ログホストの設定...」を選択します。

「ログホストの設定」パネル (図 3-7) が表示されます。

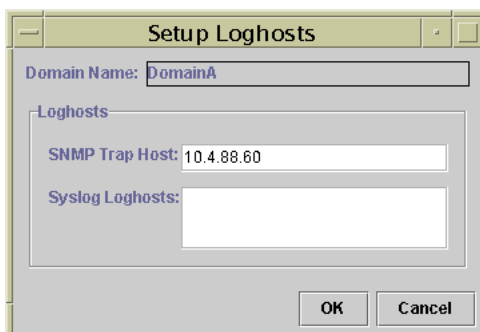


図 3-7 「ログホストの設定」パネル

3. このパネルでは、SNMP トラップホストと syslog ログホストの値を変更できます。1 行に 1 つの IP アドレスまたはノード名を入力することにより、複数のログホストを指定できます。
4. 最後に、次のいずれかの操作をします。
 - これまでの設定を適用してウィンドウを閉じる場合は、「了解」をクリックします。
 - これまでの設定を適用しない場合は、「取消し」をクリックします。

エラーが発生した場合は、状態メッセージフィールドにエラーメッセージが表示されます。

▼ FRU 情報を表示する

「FRU 情報」パネルには、特定の構成部品の FRU 情報が表示されます。

このパネル内の情報は変更できません。このパネルは読み取り専用です。

1. データテーブル内を右クリックして、ポップアップメニューを表示します。
2. 「FRU 情報...」を選択します。

階層表示内のこのコマンドへのパスは、「ハードウェア」>「プラットフォーム管理モジュール」>「プラットフォーム」(または「ドメイン X」)>「スロット」(または「コンポーネント」)>カテゴリ、データテーブルのメニュー>「FRU 情報...」です。

「FRU 情報」パネル (図 3-8) が表示されます。

3. ウィンドウを閉じる場合は、「了解」をクリックします。

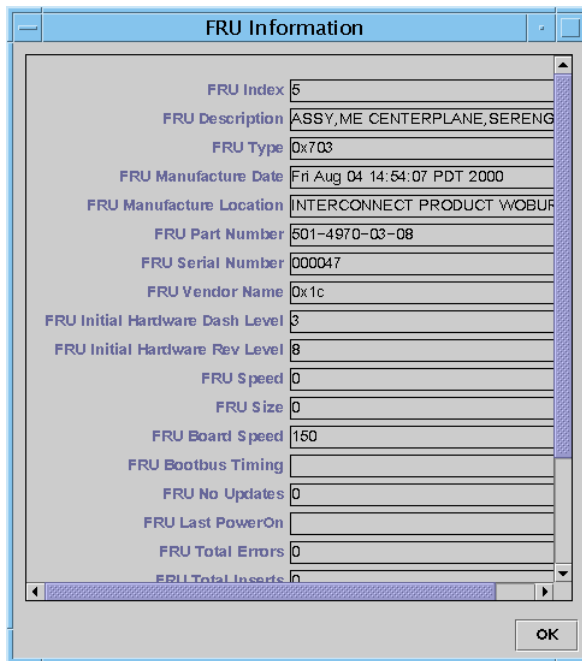


図 3-8 「FRU 情報」パネル

▼ ホストの詳細を表示する

1. データテーブル内を右クリックして、ポップアップメニューを表示します。

2. 「ホスト詳細...」を選択します。

階層表示内のこのコマンドへのパスは、「ハードウェア」>「プラットフォーム管理モジュール」>「プラットフォーム」(または「ドメイン X」)>「ドメイン」>データテーブルのメニュー>「ホスト詳細...」です。

対応するハードウェアドメインのホスト詳細ウィンドウが表示されます。

3. ウィンドウを閉じる場合は、「了解」をクリックします。

プラットフォーム管理モジュールのプラットフォームテーブルへのアクセス

プラットフォーム管理者は、「プラットフォーム管理モジュール」内のすべてのテーブルを表示できます (図 3-9)。この節では、それらのテーブルとその属性をまとめています。

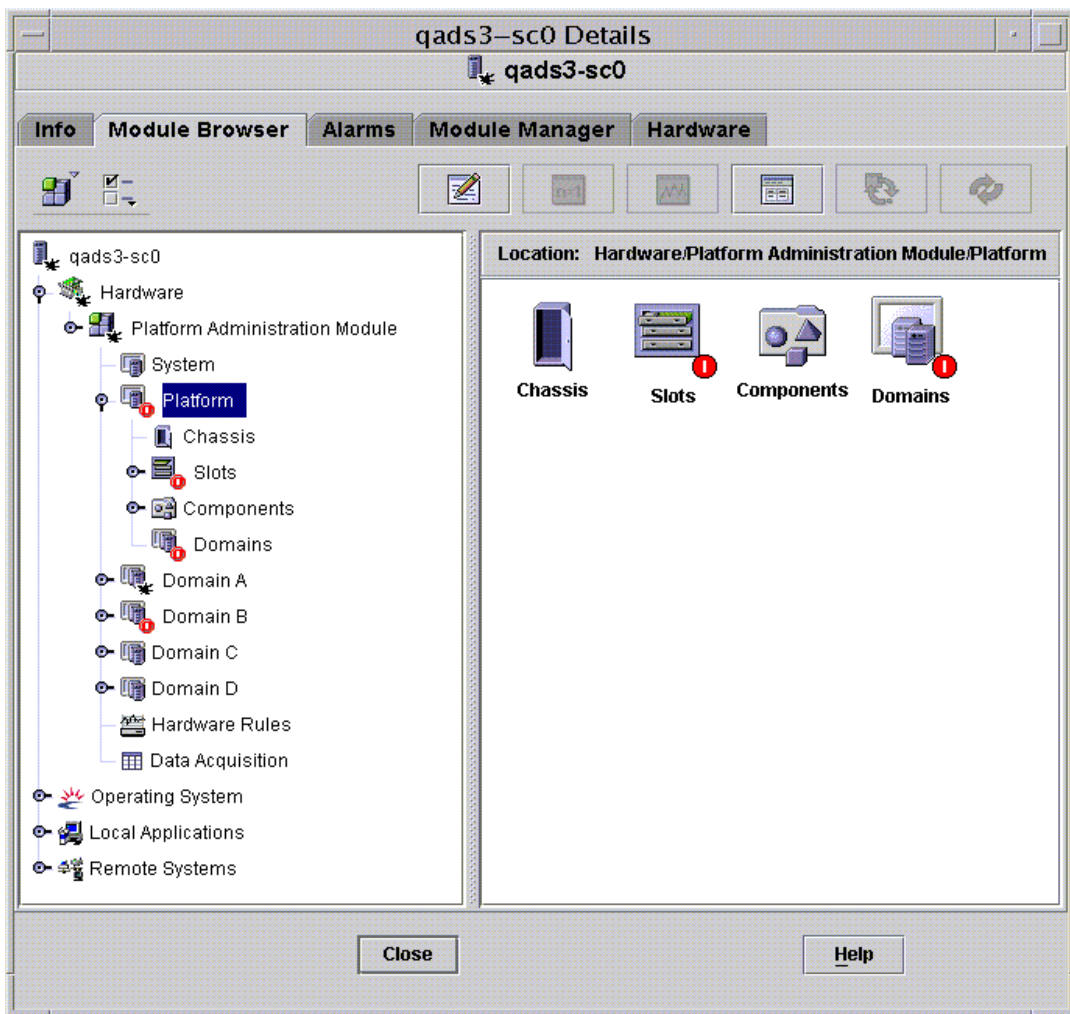


図 3-9 プラットフォームテーブル

プラットフォームシステム

表 3-13 は、Sun Fire Midrange Systems の属性を簡単にまとめています。

表 3-13 Sun Fire Midrange Systems

属性	規則 (ある場合)	説明
プラットフォーム		Sun-Fire-6800 などのプラットフォームの説明を示す

プラットフォームのシャーシ

表 3-14 は、Sun Fire Midrange Systems のシャーシの属性を簡単にまとめています。

表 3-14 プラットフォームのシャーシ

属性	規則 (ある場合)	説明
シャーシの説明		シャーシの説明を示す
シャーシの FRU インデックス		シャーシの現場交換可能ユニット (FRU) インデックスを示す
シャーシの SC 名		シャーシ上の SC ホスト名を示す
シャーシの位置		シャーシの位置を示す
シャーシの連絡先		このシャーシの担当者名を示す
シャーシのログホスト	rspa1006	シャーシの SNMP ログホストの名前または IP アドレスを示す
シャーシのトラップホスト	rspa1006	シャーシの SNMP トラップホストの名前または IP アドレスを示す。形式は「ホスト[:ポート]」
シャーシのスロット		シャーシの合計スロット数を示す
シャーシの CPU スロット		CPU ボードに使用されているシャーシのスロット数を示す
シャーシの I/O スロット		入出力ボードに使用されているシャーシのスロット数を示す
シャーシの稼働時間		シャーシが稼働している経過時間を示す
シャーシのモデル		Sun Fire 6800 などのシャーシのモデルを示す

表 3-14 プラットフォームのシャーシ (続き)

属性	規則 (ある場合)	説明
シャーシのドメイン		このシャーシのドメイン数を示す (たとえば 4)
シャーシのパーティションモード		シャーシのパーティションモードとして SinglePartition または DualPartition を示す
シャーシのドメイン A の Ethernet アドレス		ドメイン A の Ethernet アドレスを示す
シャーシのドメイン B の Ethernet アドレス		ドメイン B の Ethernet アドレスを示す
シャーシのドメイン C の Ethernet アドレス		ドメイン C の Ethernet アドレスを示す
シャーシのドメイン D の Ethernet アドレス		ドメイン D の Ethernet アドレスを示す
シャーシのマスター SC の Ethernet アドレス		メイン SC の Ethernet アドレスを示す
シャーシのスレーブ SC の Ethernet アドレス		予備 SC の Ethernet アドレスを示す
シャーシのシステムシリアル番号		シャーシのシリアル番号を示す
ノード名		Solaris オペレーティング環境ノードの名前を示す
マシン		シャーシのマシン名を示す
プラットフォーム		Sun-Fire-6800 などのプラットフォーム名を示す

プラットフォームのロットテーブル

この節では、プラットフォームのロットテーブルをまとめています。

- 空きスロット
- CPU ボード
- 入出力ボード
- L2 リピータ
- ファントレイ
- 電源装置

- SC
- 不明なボード

プラットフォームの空きスロット

表 3-15 は、Sun Fire Midrange Systems の空きスロットの属性を簡単にまとめています。

表 3-15 プラットフォームの空きスロット

属性	規則 (ある場合)	説明
スロット名		SB2、SB4 などの空きスロット名を示す
スロットの電源状態	rspa1011	電源の状態として PoweredOff または PoweredOn を示す
スロットのボード種別		ボード種別として Empty を示す
スロットの状態		スロットの状態として Active、Assigned、Available、-- のどれかを示す。最後の -- は、ボードの状態がこのスロットに適用できないことを意味する。
スロットのテスト状態	rspa1010	スロットのテスト状態として Passed、NotTested、Unknown、UnderTest、Start Test、Degraded、Failed、Unusable のどれかを示す
スロットのドメイン		DomainA などの、スロットが割り当てられているドメインを示す。割り当てられていない場合は Isolated
スロットの状態	rspa1000	スロットの状態として OK、Failed、OverTemp、UnderTemp、Unknown のどれかを示す

プラットフォームの CPU ボード

表 3-16 は、Sun Fire Midrange Systems の CPU ボードの属性を簡単にまとめています。

表 3-16 プラットフォームのスロットの CPU ボード

属性	規則 (ある場合)	説明
CPU ボード名		SBx の形式で CPU ボード名を示す。x は CPU ボードが装着されているスロット番号。
CPU ボードの電源状態	rspa1011	電源の状態として PoweredOff または PoweredOn を示す
CPU ボード種別		CPU ボードのバージョン番号として CPU (デフォルト)、CPU_V2、CPU_V3、Unknown (不明) のどれかを示す
CPU ボードのスロット状態		ボードのスロット状態として Active、Assigned、Available、-- のどれかを示す。最後の -- は、ボードの状態がこのスロットに適用できないことを意味する。
CPU ボードのテスト状態	rspa1010	ボードのテスト状態として Passed、NotTested、Unknown、UnderTest、Start Test、Degraded、Failed、Unusable のどれかを示す
CPU ボードのドメイン		DomainA、DomainkB などの、ボードが割り当てられているドメインを示す
スロットの状態	rspa1000	スロットの状態として OK、Failed、OverTemp、UnderTemp、Unknown のどれかを示す
CPU ボードの FRU インデックス		CPU ボードの現場交換可能ユニット (FRU) インデックスを示す
CPU ボードの総 CPU		この CPU ボード上の総 CPU 数 (たとえば 4) を示す
CPU ボードの総 DRAM メモリ (MB)		この CPU ボード上の DRAM (dynamic random access memory) の合計容量 (メガバイト単位。たとえば 4096) を示す
CPU ボードの総 E キャッシュメモリ (MB)		この CPU ボード上の外部キャッシュ (E キャッシュ) メモリの合計容量 (メガバイト単位。たとえば 32) を示す
CPU ボードの総 WCI		この CPU ボード上の総 Sun Fire Link インタフェース (WCI) 数を示す

表 3-16 プラットフォームのスロットの CPU ボード (続き)

属性	規則 (ある場合)	説明
CPU ボードの温度		4 0:36:90:normal 0:37:9... などの形式で CPU ボードの温度と範囲を示す
COD ボード?		CPU ボードが COD ボードでもあるかどうかを示す (CodBoard または NonCodBoard)
ノード名		Solaris オペレーティング環境ノードの名前を示す

プラットフォームの入出力ボード

表 3-17 は、Sun Fire Midrange Systems の入出力ボードの属性を簡単にまとめています。

表 3-17 プラットフォームのスロットの入出力ボード

属性	規則 (ある場合)	説明
入出力ボード名		IBx の形式で入出力ボード名を示す。x は入出力ボードが装着されているスロット番号。
入出力ボードの電源状態	rspa1011	電源の状態として PoweredOff または PoweredOn を示す
入出力ボード種別		ボードの種別として PCI、PCI+、CPCI、WPCI のどれかを示す
入出力ボードのスロット状態		ボードのスロット状態として Active、Assigned、Available、-- のどれかを示す。最後の -- は、ボードの状態がこのスロットに適用できないことを意味する。
入出力ボードのテスト状態	rspa1010	ボードのテスト状態として Passed、NotTested、Unknown、UnderTest、Start Test、Degraded、Failed、Unusable のどれかを示す
入出力ボードのドメイン		DomainA、DomainkB などの、ボードが割り当てられているドメインを示す
スロットの状態	rspa1000	スロットの状態として OK、Failed、OverTemp、UnderTemp、Unknown のどれかを示す
入出力ボードの FRU インデックス		入出力ボードの現場交換可能ユニット (FRU) インデックスを示す
入出力ボードの総 WCI		このボード上の総 Sun Fire Link インタフェース (WCI) 数を示す

表 3-17 プラットフォームのスロットの入出力ボード (続き)

属性	規則 (ある場合)	説明
入出力ボードの総 ParoliCpciDca		このボード上の並列光リンク (Paroli) カード、コンパクト PCI (cPCI) カード、およびドーターカード部品 (DCA) の合計数を示す
入出力ボードの温度		2 0:30:90:normal 0:32... などの形式で入出力ボードの温度と範囲を示す
ノード名		Solaris オペレーティング環境ノードの名前を示す

プラットフォームの L2 リピータ

表 3-18 は、Sun Fire Midrange Systems の L2 リピータの属性を簡単にまとめています。

表 3-18 プラットフォームのスロットの L2 リピータ

属性	規則 (ある場合)	説明
L2 リピータ名		RP0x の形式で L2 リピータ名を示す。x はリピータが装着されているスロット番号。
L2 リピータの電源状態	rspa1011	電源の状態として PoweredOff または PoweredOn を示す
L2 リピータのボード種別		ボード種別として L2 を示す
L2 リピータのスロット状態		-- を示す。これは、ボードの状態がこのスロットに適用できないことを意味する。
L2 リピータのテスト状態		リピータのテスト状態として Passed または NotTested を示す
L2 リピータのドメイン		DomainA などの、リピータが割り当てられているドメインを示す。割り当てられていない場合は Isolated
スロットの状態	rspa1000	スロットの状態として OK、Failed、OverTemp、UnderTemp、Unknown のどれかを示す
L2 リピータの FRU インデックス		L2 リピータの現場交換可能ユニット (FRU) インデックスを示す

表 3-18 プラットフォームのスロットの L2 リピータ (続き)

属性	規則 (ある場合)	説明
L2 リピータのドメイン		A、B などの、リピータを使用可能なドメインを示す
L2 リピータの温度		2 0:28:90:normal 0:30:90... などの形式で L2 リピータの温度と範囲を示す
ノード名		Solaris オペレーティング環境ノードの名前を示す

プラットフォームのファントレー

表 3-19 は、Sun Fire Midrange Systems のファントレーの属性を簡単にまとめています。

表 3-19 プラットフォームのスロットのファントレー

属性	規則 (ある場合)	説明
ファン名		FTx の形式でファントレー名を示す。x はファントレーが装着されているスロット番号。
ファンの電源状態	rspa1011	電源の状態として PoweredOff または PoweredOn を示す
ファンのボード種別		ボード種別として Fan を示す
ファンのスロット状態		-- を示す。これは、ボードの状態がこのスロットに適用できないことを意味する。
ファンのテスト状態		ファンのテスト状態として Passed または NotTested を示す
ファンのドメイン		DomainA などの、ファントレーが割り当てられているドメインを示す。割り当てられていない場合は Isolated
スロットの状態	rspa1000	スロットの状態として OK、Failed、OverTemp、UnderTemp、Unknown のどれかを示す
ファンの FRU インデックス		ファントレーの現場交換可能ユニット (FRU) インデックスを示す
ファンの速度		ファンの速度として Off、Low、High のどれかを示す
ノード名		Solaris オペレーティング環境ノードの名前を示す

プラットフォームの電源装置

表 3-20 は、Sun Fire Midrange Systems の電源装置の属性を簡単にまとめています。

表 3-20 プラットフォームのスロットの電源装置

属性	規則 (ある場合)	説明
電源装置名		PS x の形式で電源装置名を示す。 x は電源装置が装着されているスロット番号。
電源装置の状態	rspa1011	電源の状態として PoweredOff または PoweredOn を示す
電源装置のボード種別		ボード種別として PowerSupply を示す
電源装置のスロット状態		-- を示す。これは、ボードの状態がこのスロットに適用できないことを意味する。
電源装置のテスト状態		電源装置のテスト状態として Passed または NotTested を示す
スロットの状態	rspa1000	スロットの状態として OK、Failed、OverTemp、UnderTemp、Unknown のどれかを示す
電源装置の FRU インデックス		電源装置の現場交換可能ユニット (FRU) インデックスを示す
電源装置の読み取り値		56.59 5.84 33.48 などの電源装置の読み取り値を示す
電源装置の使用率		20、17、16、37、42 などの電源装置の使用率を示す
電源装置の L/H 入力		電源装置の入力として High または Low を示す
電源装置の一次温度		1 -1:23:78:normal などの形式で電源装置の一次温度と範囲を示す
ノード名		Solaris オペレーティング環境ノードの名前を示す

プラットフォームのシステムコントローラ (SC)

表 3-21 は、Sun Fire Midrange Systems の SC の属性を簡単にまとめています。

表 3-21 プラットフォームのスロットの SC

属性	規則 (ある場合)	説明
SC 名		SC 名として SSC0 または SSC1 を示す
SC の電源状態	rspa1011	電源の状態として PoweredOff または PoweredOn を示す
SC のボード種別		ボード種別として SC を示す
SC のスロット状態		-- の表示は、ボードの状態がこのスロットに適用できないことを意味する
SC のテスト状態	rspa1010	SC のテスト状態として Passed、Failed、OK、Under Test、NotTested、Degraded、Unknown のどれかを示す
SC のドメイン		SC が割り当てられているドメインを示す。割り当てられていない場合は Isolated
スロットの状態	rspa1000	スロットの状態として OK、Failed、OverTemp、UnderTemp、Unknown のどれかを示す。
SC のマスター / スレーブ	rspa1004	SC がメイン SC (Master) または予備 SC (Slave) のどちらであるかを示す
SC の FRU インデックス		SC の現場交換可能ユニット (FRU) インデックスを示す
SC のバージョン	rspa1009	5.14.0 などのファームウェアのバージョンを示す。5.12.5 より前の場合はアラームが生成される。
SC の時間帯		標準の短縮名で SC の時間帯を示す。たとえば太平洋標準時の場合は PST
SC の日付		SC の現在の日時を示す
SC のネットワーク構成		ネットワーク構成として Fixed、Unknown などを示す
SC のホスト名		SC のホスト名を示す
SC の IP アドレス	rspa1005	SC の IP アドレスを示す
SC のネットマスク		SC のネットマスクを示す
SC のデフォルトルーター		SC のデフォルトルーターのアドレスを示す
SC の DNS ドメイン		SC のドメイン名を示す

表 3-21 プラットフォームのスロットの SC (続き)

属性	規則 (ある場合)	説明
SC の DNS リゾルバ		SC のリゾルバのアドレスを示す
SC の接続数		SC の接続数を示す
ノード名		Solaris オペレーティング環境ノードの名前を示す

プラットフォームの不明なボード

表 3-22 は、Sun Fire Midrange Systems の不明なボードの属性を簡単にまとめています。

表 3-22 プラットフォームのスロットの不明なボード

属性	規則 (ある場合)	説明
不明なボード名		SBx または IBx などの形式で不明なボード名を示す。x はボードが存在するスロット番号。
不明なボードの電源状態	rspa1011	電源の状態として PoweredOff または PoweredOn を示す
不明なボード種別		ボード種別として Unknown を示す
不明なボードのスロット状態		ボードのスロット状態として Active、Assigned、Available、-- のどれかを示す。最後の -- は、ボードの状態がこのスロットに適用できないことを意味する。
不明なボードのテスト状態	rspa1010	SC のテスト状態として Passed、Failed、OK、Under Test、NotTested、Degraded、Unknown のどれかを示す
不明なボードのドメイン		ボードが割り当てられているドメインを示す
スロットの状態	rspa1000	スロットの状態として OK、Failed、OverTemp、UnderTemp、Unknown のどれかを示す。

プラットフォームの構成部品テーブル

この節では、プラットフォームの構成部品のテーブルをまとめています。

- CPU モジュール
- DIMM

- E キャッシュ
- WCI
- WCI ポート

プラットフォームの CPU モジュール

表 3-23 は、Sun Fire Midrange Systems の CPU モジュールの属性を簡単にまとめています。

表 3-23 プラットフォームの構成部品の CPU モジュール

属性	規則 (ある場合)	説明
CPU モジュールのボードインデックス		CPU モジュールのボードインデックスを示す
CPU モジュールのインデックス		CPU モジュールのインデックスを示す
CPU モジュールの説明		CPU モジュールの説明として、UltraSPARC-III、UltraSPARC-III+、UltraSPARC-IV のどれかを示す
CPU モジュールの温度		1 0:62:93:normal などの形式で CPU モジュールの温度と範囲を示す
CPU モジュールの状態	rspa1008	CPU モジュールの状態として Online または Idle を示す。CPU が COD によって使用不可にされている場合は CodDisabled
CPU モジュールのモデル		sparcv9 の CPU モジュールのモデルを示す
CPU モジュールの速度 (MHz)		メガヘルツ (MHz) 単位で CPU モジュールの速度を示す
CPU モジュールの I キャッシュサイズ (KB)		CPU モジュールの命令キャッシュ (I キャッシュ) のサイズをキロバイト (KB) 単位で示す
CPU モジュールの D キャッシュサイズ (KB)		CPU モジュールのデータキャッシュ (D キャッシュ) のサイズをキロバイト (KB) 単位で示す
CPU モジュールの E キャッシュサイズ (KB)		CPU モジュールの外部キャッシュ (E キャッシュ) のサイズをキロバイト (KB) 単位で示す
CPU モジュールの W キャッシュサイズ (KB)		CPU モジュールの書き込みキャッシュ (W キャッシュ) のサイズをキロバイト (KB) 単位で示す

表 3-23 プラットフォームの構成部品の CPU モジュール (続き)

属性	規則 (ある場合)	説明
CPU モジュールの最終変更		最終変更日時を示す
CPU モジュールのエラー		CPU モジュールの誤り訂正コード (ECC) エラー数を示す
ノード名		Solaris オペレーティング環境ノードの名前を示す

プラットフォームの DIMM

表 3-24 は、Sun Fire Midrange Systems の場合のドメインの DIMM (dual inline memory module) の属性を簡単にまとめています。

表 3-24 プラットフォームの構成部品の DIMM モジュール

属性	規則 (ある場合)	説明
DIMM の CPU ボードインデックス		DIMM の CPU ボードインデックスを示す
DIMM の CPU モジュールインデックス		DIMM の CPU モジュールインデックスを示す
DIMM インデックス		DIMM のインデックスを示す
DIMM の FRU インデックス		DIMM の現場交換可能ユニット (FRU) インデックスを示す
ノード名		Solaris オペレーティング環境ノードの名前を示す

プラットフォームの E キャッシュ

表 3-25 は、Sun Fire Midrange Systems の外部キャッシュ (E キャッシュ) の属性を簡単にまとめています。

表 3-25 プラットフォームの構成部品の E キャッシュ

属性	規則 (ある場合)	説明
E キャッシュの CPU ボードインデックス		E キャッシュの CPU ボードインデックスを示す
E キャッシュの CPU モジュールインデックス		E キャッシュの CPU モジュールインデックスを示す
E キャッシュのインデックス		E キャッシュのインデックスを示す
E キャッシュの FRU インデックス		E キャッシュの現場交換可能ユニット (FRU) インデックスを示す
ノード名		Solaris オペレーティング環境ノードの名前を示す

プラットフォームの WCI

表 3-26 は、Sun Fire Midrange Systems の Sun Fire Link インタフェース (WCI) の属性を簡単にまとめています。

表 3-26 プラットフォームの構成部品の WCI

属性	規則 (ある場合)	説明
WCI モジュールのボードインデックス		WCI モジュールのボードインデックスを示す
WCI モジュールのインデックス		WCI モジュールのインデックスを示す
WCI モジュールの説明		WCI モジュールの説明を示す
WCI モジュールの状態	rspa1008	WCI モジュールの状態として Online または Idle を示す
WCI モジュールのモード		WCI モジュールのモードとして SSM、RSM (遠隔共有メモリ)、Unknown を示す

表 3-26 プラットフォームの構成部品の WCI (続き)

属性	規則 (ある場合)	説明
WCI モジュールの温度		WCI モジュールの温度と範囲を示す
WCI モジュールの総 DIMM		WCI モジュール上の DIMM の合計サイズを示す
WCI モジュールの総メモリ		WCI モジュール上の合計メモリサイズを示す
WCI モジュールの総 ParoliDCA		この WCI モジュール上の並列光リンク (Paroli) カード、コンパクト PCI (cPCI) カード、およびドーターカード部品 (DCA) の合計数を示す
WCI モジュールの総ポート		WCI モジュールの合計ポート数を示す
WCI モジュールの最終変更		最終変更日時を示す
WCI モジュールのエラー		WCI モジュールの誤り訂正コード (ECC) エラー数を示す
ノード名		Solaris オペレーティング環境ノードの名前を示す

プラットフォームの WCI ポート

表 3-27 は、Sun Fire Midrange Systems の Sun Fire Link インタフェース (WCI) ポートの属性を簡単にまとめています。

表 3-27 プラットフォームの構成部品の WCI ポート

属性	規則 (ある場合)	説明
WCI ポートのボードインデックス		WCI ポートのボードインデックスを示す
WCI ポートのモジュールインデックス		WCI ポートのモジュールインデックスを示す
WCI ポートのインデックス		WCI ポートのインデックスを示す
WCI ポートの FRU インデックス		WCI ポートの現場交換可能ユニット (FRU) インデックスを示す
WCI ポートの状態		WCI ポートの状態として Unknown、Installed、Connected、Unconfigured、Error のどれかを示す

表 3-27 プラットフォームの構成部品の WCI ポート (続き)

属性	規則 (ある場合)	説明
WCI ポートの ParoliDCA		この WCI ポートを使用する並列光リンク (Paroli) カードとドーターカード部品の個数 (1 または 2) を示す
WCI ポートの遠隔位置		WCI ポートの遠隔位置を示す
ノード名		Solaris オペレーティング環境ノードの名前を示す

プラットフォームのドメイン

表 3-28 は、Sun Fire Midrange Systems のプラットフォームドメインの属性を簡単にまとめています。

表 3-28 プラットフォームのドメイン

属性	規則 (ある場合)	説明
ドメイン		このシステムのドメインとして DomainA ~ D を示す
ドメインの説明		ドメインの説明を示す
ドメインのログホスト	rspa1006	ドメインのログホスト名を示す
ドメインのトラップホスト	rspa1006	ドメインの SNMP トラップホストの名前または IP アドレスを示す。形式は「ホスト[:ポート]」
ドメインの ACL の説明		SB0 SB1 SB3 SB5 IB6 I... などの形式で、ドメインのアクセス制御リスト (ACL) に登録されているスロット情報を示す
ドメインの状態	rspa1002	ドメインの状態として、RunningSolaris、PoweredOff、Standby、Running POST、Active、Active - OpenBoot PROM、Active - Booting、Active - Halted、Active - Reset、Active - Panicking、Active - Debugger、Not Responding、Paused due to an error などを示す。
ドメインのノード名		Solaris オペレーティング環境ノードの名前を示す
ドメインの SSM モード		ドメインのスケラブル共有メモリ (SSM) モードとして Master、Slave、Local、Unknown のどれかを示す
ドメインの SSM マスター		スケラブル共有メモリ (SSM) のマスターノードのホスト名を示す

表 3-28 プラットフォームのドメイン (続き)

属性	規則 (ある場合)	説明
ドメインの SSM スレーブノード		スレーブのスケラブル共有メモリ (SSM) があるホストまたはノードのホスト名を示す
ドメインのキースイッチ	rspa1003	ドメインの仮想キースイッチ位置として、Unknown (デフォルト)、Off、Standby、On、Diagnostic、Secure、OffToStandby、OffToOn、OffToDiag、OffToSecure、StandbyToOff、ActiveToOff、ActiveToStandby、RebootToOn、RebootToDiag、RebootToSecure、standbyToOn、standbyToDiag、standbyToSecure、onToOff、onToStandby、onToDiag、onToSecure、diagToOff、diagToStandby、diagToOn、diagToSecure、secureToOff、secureToStandby、secureToOn、secureToDiag、offToOff、standbyToStandby、onToOn、diagToDiag、secureToSecure のどれかを示す
ドメインの連絡先		このドメインの担当者名を示す
ACL 未登録スロット		SB2 SB4 などの形式で、ドメインのアクセス制御リスト (ACL) に登録されていないスロットを示す

プラットフォームテーブルの操作

データテーブル内のエントリを右クリックすると、ポップアップメニューが表示されます。このメニューに表示される操作一覧の内容は、選択された行内の列値とエントリのタイプによって異なります。

表 3-29 は、メニューに表示されるエントリおよび行うことができる操作をまとめています。

表 3-29 プラットフォーム表示におけるテーブル操作メニューの項目

テーブル	操作
シャーシ	<ul style="list-style-type: none"> • ログホストの設定 • FRU 情報
「スロット」 > 「空きスロット」	<ul style="list-style-type: none"> • なし (ボードが使用不可能な場合) • 割り当てまたは割り当て解除 (ボードが使用可能な場合)
「スロット」 > 「CPU ボード」	<ul style="list-style-type: none"> • テスト • FRU 情報 • 電源の投入 / 切断 • 割り当てまたは割り当て解除 (ボードが使用可能な場合)
「スロット」 > 「入出力ボード」	<ul style="list-style-type: none"> • FRU 情報 • 電源の投入 / 切断 • 割り当てまたは割り当て解除 (ボードが使用可能な場合)
「スロット」 > 「L2 リピータ」	<ul style="list-style-type: none"> • FRU 情報
「スロット」 > 「ファントレイ」	<ul style="list-style-type: none"> • 電源の投入 / 切断 • FRU 情報
「スロット」 > 「電源装置」	<ul style="list-style-type: none"> • 電源の投入 / 切断 • FRU 情報
「スロット」 > 「SC」	<ul style="list-style-type: none"> • SC のネットワーク設定 • FRU 情報
「スロット」 > 「不明なボード」	<ul style="list-style-type: none"> • 電源の投入 / 切断 • 割り当てまたは割り当て解除 (ボードが使用可能な場合)
ドメイン	<ul style="list-style-type: none"> • ACL • ホスト詳細
「コンポーネント」 > 「すべてのテーブル」	なし

表 3-30 は、行うことができるすべての操作とその機能をまとめています。

表 3-30 プラットフォームテーブルの操作メニューの項目

操作	機能
割り当て.../ 割り当て解除	ボードを割り当てたり、割り当て解除したりできます。図 3-10 は、「割り当て...」メニュー項目を選択したときに表示されるパネルを示しています。図 3-11 は、「割り当て解除...」メニュー項目を選択したときに表示されるパネルを示しています。「割り当て...」または「割り当て解除」のどちらのメニュー項目が表示されるかは、ボードの状態によって異なります。ボードがすでに割り当て状態の場合、「割り当て...」は表示されません。ボードがアクティブな状態の場合、このオプションは表示されません。
電源オン / 電源オフ	ボードの電源を投入したり、切断したりできます。図 3-12 は、操作の確認を求めるときに表示されるパネルです。ボードがアクティブな状態の場合、このオプションは表示されません。
テスト...	ボードをテストできます。図 3-13 は、操作の確認を求めるときに表示されるパネルです。ボードがアクティブな状態の場合、このオプションは表示されません。
ホスト詳細	対応するドメインのホスト詳細ウィンドウを表示します。
システムコントローラの設定...	SC の設定情報を表示、変更できます。図 3-14 は、「システムコントローラの設定...」を選択したときに表示されるパネルを示しています。
ログホストの設定...	シャーシのログホストとトラップホストを設定できます。図 3-15 は、「ログホストの設定...」を選択したときに表示されるパネルを示しています。
FRU 情報...	選択したコンポーネントの FRU 情報を表示できます。図 3-16 は、「FRU 情報...」を選択したときに表示されるパネルを示しています。
アクセス制御リスト...	アクセス制御リスト (ACL) を操作できます。図 3-17 は、表示されるパネルを示しています。
テーブルのソート	テーブルの行をソートできます。この操作はテーブルの列だけに影響します。スロットテーブルの列の見出しを選択すると、その列の昇順に行がソートされます。たとえば、「電源」列を選択すると、電源がオフのボードから順にテーブルがソートされます。ソートの順序 (昇順と降順) は、同じ列見出しを再度クリックすることで、交互に切り替えることができます。現在のソート対象列の見出しは太字で表示されます。現在のソート順は下向きまたは上向き矢印で示されます。デフォルトでは、スロットテーブルはスロット番号を基準に昇順にソートされません。

エラーが発生した場合は、オブジェクト詳細の「モジュールブラウザ」ウィンドウの状態メッセージフィールドにエラーメッセージが表示されます。

▼ 使用可能なボードを割り当てる

1. データテーブル内のボードエントリを右クリックして、ポップアップメニューを表示します。
2. 「割り当て」を選択します。

注 – ボードは 1 つのドメインにのみ割り当てることができます。

「割り当て」パネル (図 3-10) が表示されます。

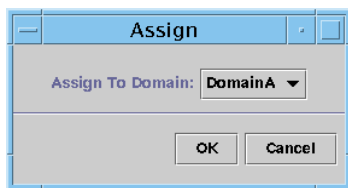


図 3-10 「割り当て」パネル

3. 「割り当て先のドメイン」ボタンを右クリックして、すべてのドメインのプルダウンリストを表示します。
4. ドメインリストからドメインを選択し、「了解」ボタンをクリックして、選択したドメインにボードを割り当てます。
5. 最後に、次のいずれかの操作をします。
 - 選択したボードをドメインに割り当ててウィンドウを閉じる場合は、「了解」をクリックします。
 - これまでの設定を適用しない場合は、「取消し」をクリックします。

この操作で問題が検出された場合は、「割り当て」パネルの状態メッセージフィールドにエラーメッセージが表示されます。

▼ ボードを割り当て解除する

1. データテーブル内のボードエントリを右クリックして、ポップアップメニューを表示します。

2. 「割り当て解除」を選択します。

「割り当て解除」パネル(図 3-11)が表示されます。

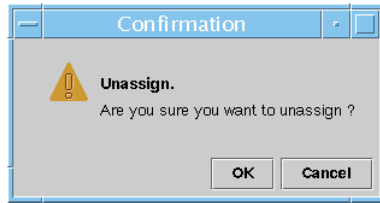


図 3-11 「割り当て解除」パネル

3. 最後に、次のいずれかの操作をします。

- 選択したボードをドメインから割り当て解除してウィンドウを閉じる場合は、「了解」をクリックします。
- これまでの設定を適用しない場合は、「取消し」をクリックします。

この操作で問題が検出された場合は、「割り当て解除」パネルの状態メッセージフィールドにエラーメッセージが表示されます。

▼ ボードの電源をオンまたはオフにする

1. データテーブル内のボードエントリを右クリックして、ポップアップメニューを表示します。

ボードの電源の状態は「電源オン」または「電源オフ」で、交互に切り替えることができます。

2. 「電源オフ」(または「電源オン」)を選択します。

適切なパネルが表示されます。図 3-12 は「電源オフ」パネルです。



図 3-12 「電源オフ」パネル

3. 最後に、次のいずれかの操作をします。

- 選択したボードの電源をオンまたはオフにしてウィンドウを閉じる場合は、「了解」をクリックします。

- これまでの設定を適用しない場合は、「取消し」をクリックします。

この操作で問題が検出された場合は、「電源オフ (または電源オン)」パネルの状態メッセージフィールドにエラーメッセージが表示されます。

▼ ボードをテストする

1. データテーブル内を右クリックして、ポップアップメニューを表示します。
2. 「テスト」を選択します。

「テスト」パネルが表示されます。図 3-13 は、テスト時間に関するメッセージを含む、選択されたボードの「ボードのテスト」パネルを示しています。

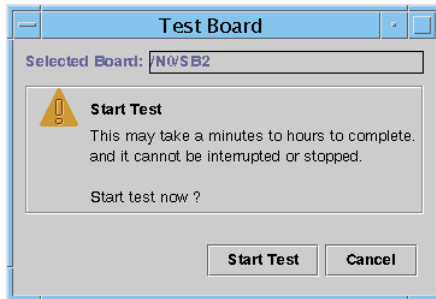


図 3-13 「ボードのテスト」パネル

注 – このパネルは、割り当てられてはいるが切断されているボード、または使用可能なボードに対してのみ表示されます。

3. テストを開始するには、「テストを開始」ボタンをクリックします。「取消し」ボタンがクリックされた場合は、何の処理も行わずにパネルが閉じます。

パネルの最下部の状態メッセージフィールドに、テストの状態が表示されます。テストには、長い時間がかかることがあります。テスト中、パネルにはビジーカーソルが表示されます。

エラーが発生した場合は、状態メッセージフィールドにエラーメッセージが表示されます。

▼ システムコントローラを設定する

1. データテーブル内を右クリックして、ポップアップメニューを表示します。

2. 「システムコントローラの設定」を選択します。

「システムコントローラのネットワーク設定」パネル (図 3-14) が表示されます。

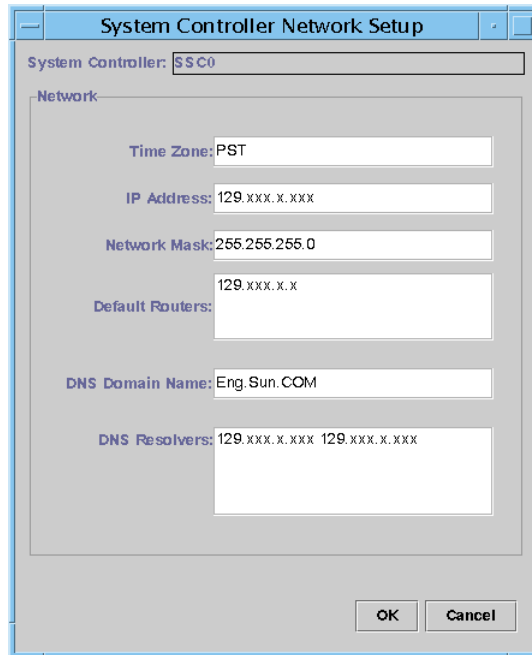


図 3-14 「システムコントローラのネットワーク設定」パネル

3. 必要に応じて個々のフィールドを編集します。

注 – 加えられた変更に対する妥当性の検査は行われません。

4. 次のいずれかの操作をします。

- これまでの設定を適用してウィンドウを閉じる場合は、「了解」をクリックします。
- これまでの設定を適用しない場合は、「取消し」をクリックします。

情報の読み出し中にエラーが検出された場合は、状態メッセージフィールドにエラーメッセージが表示されます。

5. IP アドレスを変更した場合は、次の操作を行います。

a. システムコントローラを再起動します。

システムコントローラを再起動しないかぎり、IP アドレスの変更は有効になりません。

- b. エージェントマシン上で Sun Fire Midrange Systems 用プラットフォーム管理モジュールの設定手順を再実行します。

30 ページの「セットアップウィザードを使用してプラットフォームエージェントをセットアップする」を参照してください。

▼ ログホストを設定する

「ログホストの設定」パネルを使用して、システムの SNMP トラップと syslog ホストを設定できます。

1. データテーブル内を右クリックして、ポップアップメニューを表示します。
2. 「ログホストの設定」を選択します。

「ログホストの設定」パネル (図 3-15) が表示されます。

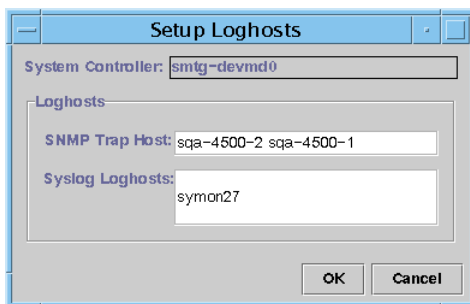


図 3-15 「ログホストの設定」パネル

3. 「システムコントローラ」ボタンを右クリックして、システムコントローラの一覧を表示します。
4. システムコントローラを選択します。
選択されたシステムコントローラの SNMP トラップホストと syslog ホストの情報が表示されます。
5. ここで、syslog ログホストを追加したり変更したりできます。
1 行に 1 つ入力することにより、複数の syslog ホストを指定できます。
6. 最後に、次のいずれかの操作をします。
 - これまでの設定を適用してウィンドウを閉じる場合は、「了解」をクリックします。
 - これまでの設定を適用しない場合は、「取消し」をクリックします。

この操作で問題が検出された場合は、パネルの最下部の状態メッセージフィールドにエラーメッセージが表示されます。

▼ FRU 情報を表示する

「FRU 情報」パネルには、特定の構成部品の FRU 情報が表示されます。このパネルは読み取り専用で、内容を変更することはできません。

1. 「FRU 情報...」を選択します。

「FRU 情報」パネル (図 3-16) が表示されます。

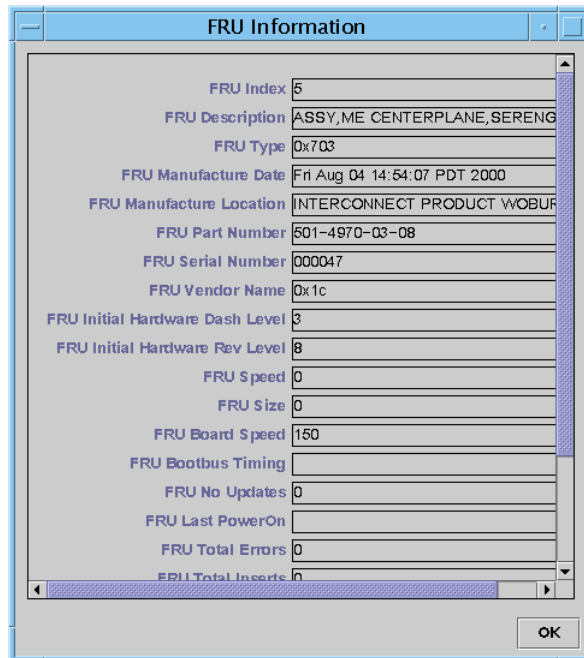


図 3-16 「FRU 情報」パネル

2. ウィンドウを閉じる場合は、「了解」をクリックします。

▼ ホストの詳細を表示する

1. データテーブル内を右クリックして、ポップアップメニューを表示します。
2. 「ホスト詳細」を選択します。
対応するハードウェアドメインのホスト詳細ウィンドウが表示されます。
3. ウィンドウを閉じる場合は、「了解」をクリックします。

▼ ドメインのアクセス制御リストを編集する

1. 「アクセス制御リスト...」を選択します。
「アクセス制御リスト」パネル (図 3-17) が表示されます。

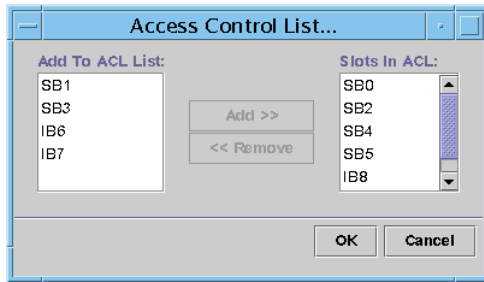


図 3-17 「アクセス制御リスト」パネル

「追加先の ACL リスト」区画は、選択されているドメインの ACL に登録されていないスロットの一覧です。「ACL 内のスロット」区画には、選択されているドメインの ACL に登録されているスロットの一覧が表示されます。

2. 「追加先の ACL リスト」区画からエントリを選択して (複数選択可)、「追加 >>」ボタンをクリックします。
「ACL 内のスロット」リストに、選択したボードが追加されます。
3. 「ACL 内のスロット」区画からエントリを選択して (複数選択可)、「<< 削除」ボタンをクリックします。
「ACL 内のスロット」リストから、選択したボードが削除されます。
4. 最後に、次のいずれかの操作をします。
 - これまでの設定を適用してウィンドウを閉じる場合は、「了解」をクリックします。
 - これまでの設定を適用しない場合は、「取消し」をクリックします。

処理で問題が発生した場合は、状態メッセージフィールドにエラーメッセージが表示されます。

Sun Fire Midrange Systems の物理表示 と論理表示

物理表示と論理表示には、プラットフォーム管理者とドメイン管理者のどちらもアクセスできます。物理表示と論理表示の属性と値は、構成リーダーによって生成されます。提供される属性と値のテーブルの表示については、130 ページの「ドメインの構成リーダーモジュールのテーブルへのアクセス」を参照してください。プラットフォーム管理のアラーム規則については、113 ページの「プラットフォーム管理のハードウェア規則」を参照してください。

物理表示と論理表示についての一般的な情報は、『Sun Management Center 3.5 ユーザガイド』を参照してください。

▼ 物理および論理表示する

1. Sun Management Center のコンソールで、Sun Fire Midrange Systems のアイコンをダブルクリックします。
「詳細」ウィンドウが表示されます (図 3-18)。

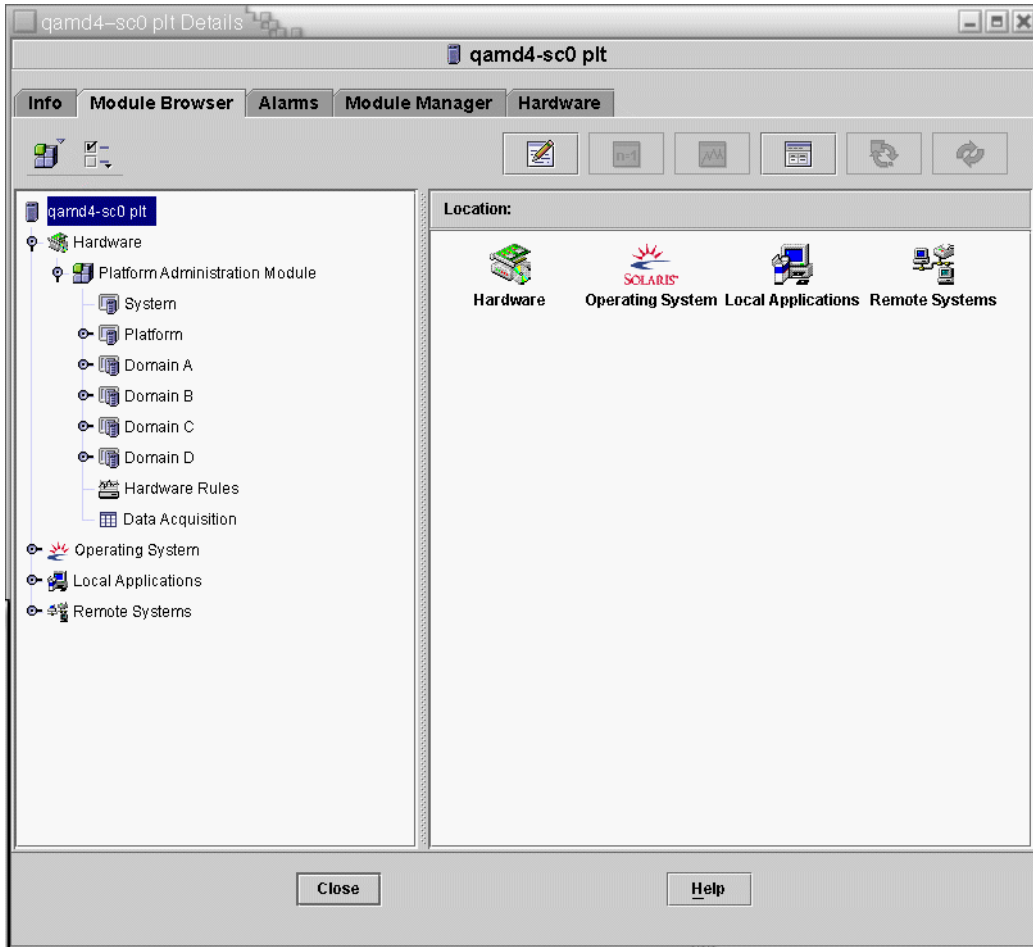


図 3-18 プラットフォームの「詳細」ウィンドウ

2. 「詳細」ウィンドウから「ハードウェア」タブを選択します。
次のウィンドウが表示されます (図 3-19)。

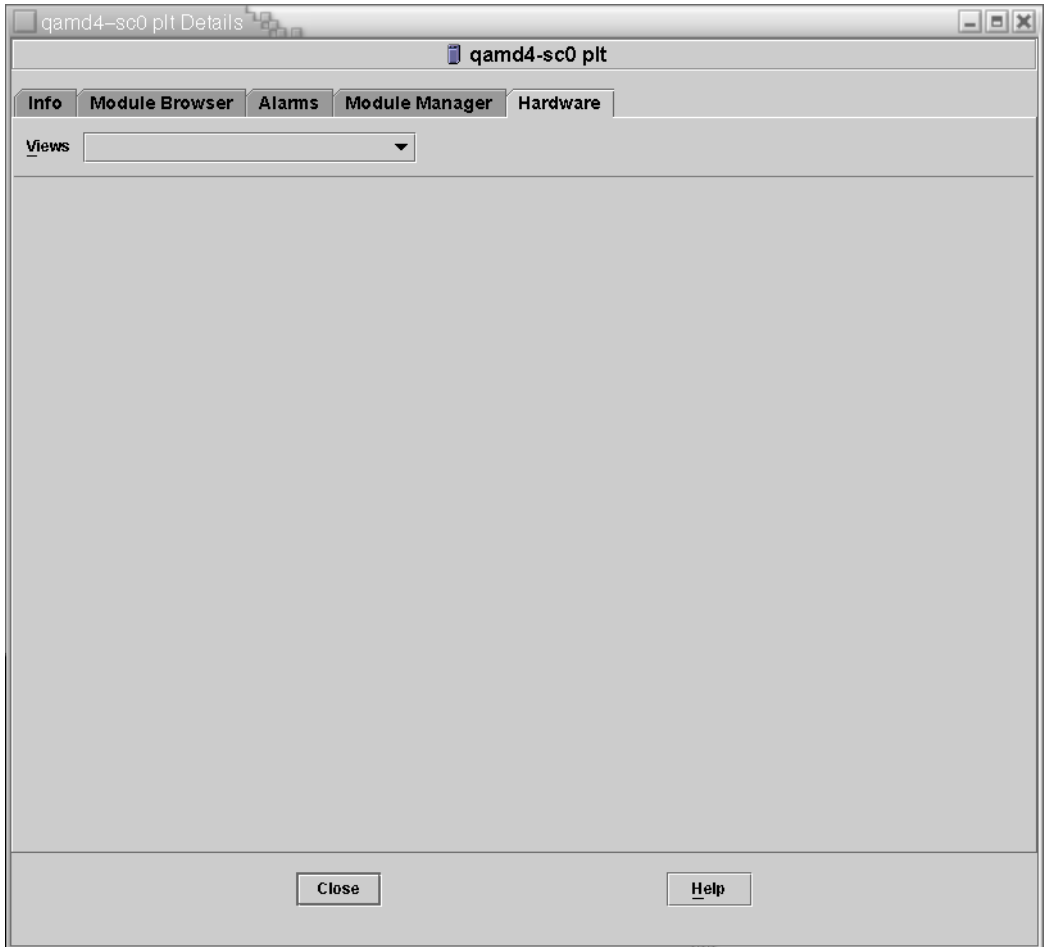


図 3-19 「ハードウェア」タブ

3. 「表示」プルダウンメニュー (図 3-20) の「物理表示」か「論理表示」にある「プラットフォーム」を選択します。

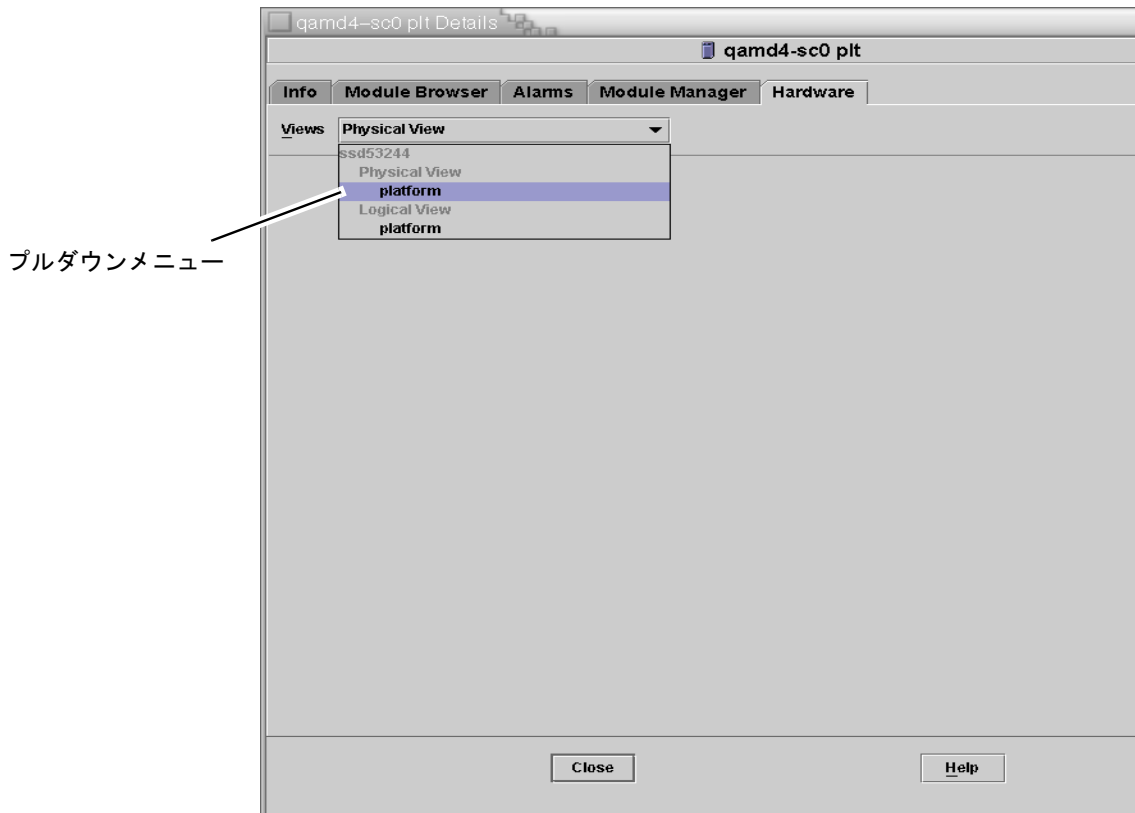


図 3-20 「表示」プルダウンメニュー

選択された形式でシステムが表示されます。

- 「物理表示」(図 3-21) を選択した場合は、システムの画像上でカーソルをゆっくりと動かしてみてください。現場交換可能ユニット (FRU) のところにカーソルが置かれ、その FRU が強調表示されます。数秒の間カーソルを停止したままにしておくと、「属性」ウィンドウに対応する属性と値が表示されます。

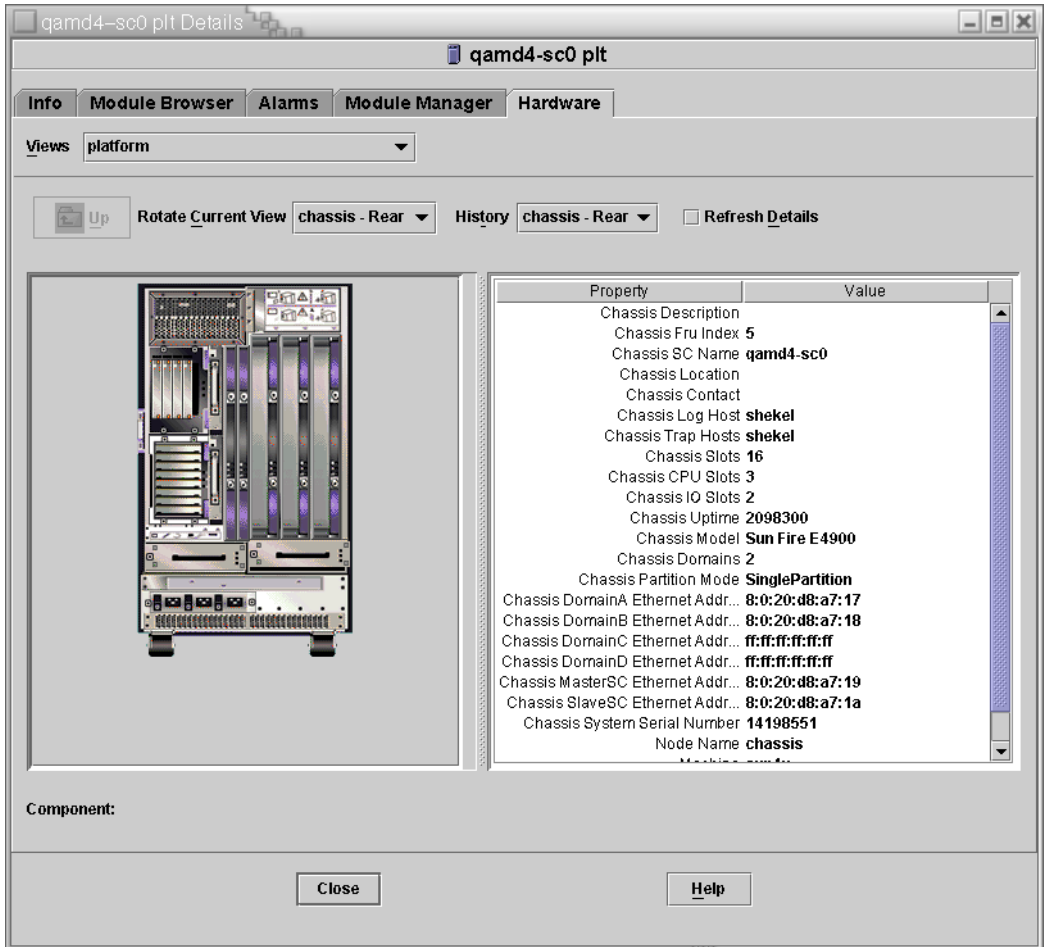


図 3-21 物理表示 (Sun Fire E4900 システムの背面図)

- 「論理表示」(図 3-22) を選択した場合は、アイコンをクリックすると、「属性」ウィンドウにその属性が表示されます。アイコンによっては、ダブルクリックすることで、さまざまなコンポーネントを表示できます。また、「すべて開く」をクリックすると、システム内のすべてのコンポーネントが表示されます。「属性」ウィンドウにはさまざまな属性とその値が表示されます。

階層表示全体を開くか閉じるには、このボタンをクリック。

セクションを開くか閉じるには、それぞれのキーマークをクリック。

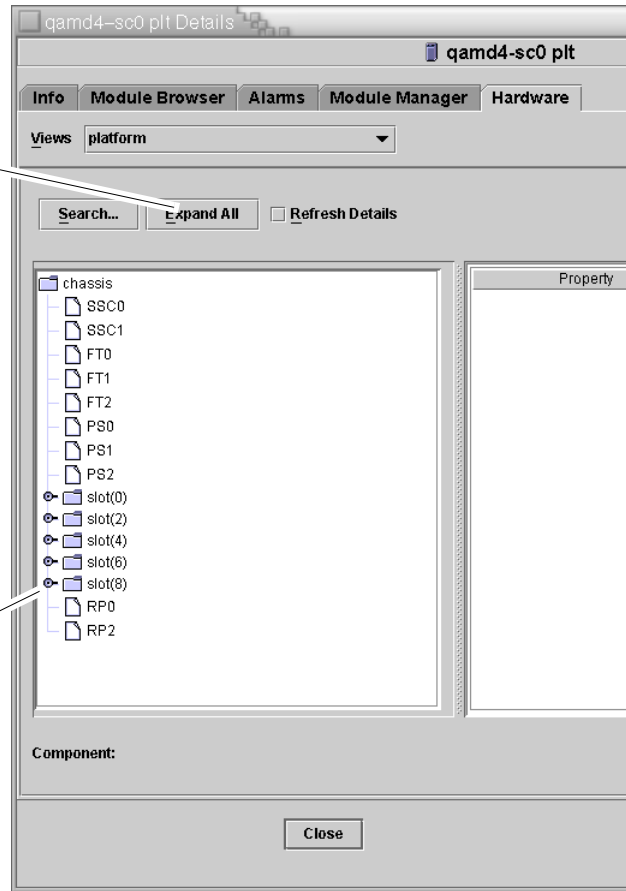


図 3-22 論理表示

論理表示には、表示の通常のボタンの他に、「検索」、「すべて開く」、「詳細を再表示」の3つのボタンがあります。

- 「検索」ボタンをクリックすると、ポップアップ式の「検索」ウィンドウが開きます(図 3-23)。「検索」ウィンドウでは、コンポーネント名またはパスを入力し、「検索」ボタンをクリックして、その用語に一致する項目を検出します。検索機能は必要に応じて論理表示の階層を開き、検出した用語を強調表示します。さらに一致する用語を検出するには、「次」ボタンをクリックします。「検索」ウィンドウを閉じるには、「取消し」ボタンをクリックします。

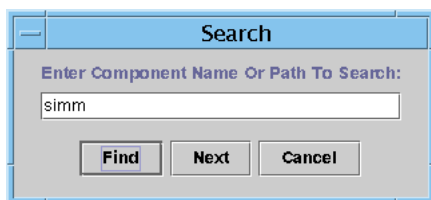


図 3-23 「詳細」ウィンドウの論理表示内の「検索」ボタン

参考 – 検索機能は、英大文字と小文字を区別します。システムから構成部品を見つけれなかった場合は、「詳細」ウィンドウの最下部に「ノードが見つかりません」というエラーメッセージが表示されます。

また、このメッセージは、検索機能が論理表示の最後に達したときにも表示されま

参考 – 「モジュールブラウザ」タブでは、類似するすべてのコンポーネントのデータを比較できます。「ハードウェア」タブの物理表示と論理表示では、システム内の個々のコンポーネントのデータを見ることができます。たとえば、「モジュールブラウザ」タブで DIMM テーブルのアイコンをダブルクリックすると、システム内のすべての DIMM の属性一覧からなるテーブルが表示されます。dim(0) の属性を見るには、論理表示の「検索」ボタンを使用します。

- 「すべて開く」ボタンは、論理表示に表示されているすべてのアイコンを開いて、システム内のすべてのコンポーネントとサブアセンブリなどが見えるようにします。このボタンをクリックすると、ボタン名が「デフォルトに戻す」に切り替わり、この状態でクリックすると、アイコンの階層を閉じることができます。
- 「詳細を再表示」ボタンは、表示ウィンドウの右側にある属性 / 値テーブルを更新します。

プラットフォーム管理のハードウェア規則

この節では、プラットフォーム管理モジュールのアラーム規則について説明します。システムは、現在の属性とそのしきい値を示すメッセージとともにアラームを提供します。

スロットの状態規則 (rspa1000)

スロットの状態規則は、ボードのスロット状態が OK、Unknown、null 以外の場合にアラームを生成します。現場交換可能 (FRU) 情報にアクセスできる場合、アラームメッセージにはその FRU 情報が含まれます。

表 3-31 プラットフォーム管理のスロットの状態規則

スロットの状態	アラームレベル	意味
OverTemp (異常高温)	情報	温度が上限より高い
UnderTemp (異常低温)	情報	温度が下限より低い
失敗	重大 / エラー	ボード不良

対策：

ハードウェアの交換が必要かどうかを調べてください。

システム周波数クロック規則 (rspa1001)

システム周波数クロック規則は、クロックが予備のシステムコントローラにフェイルオーバーした場合にアラームを生成します。

表 3-32 プラットフォーム管理のシステム周波数のクロック規則

アラームレベル	意味
情報	システム周波数クロックが予備のシステムコントローラにフェイルオーバーした

対策：

このアラームは、単に注意を促すことを目的にしています。元のクロック状態を調べてください。

ドメインの状態規則 (rspa1002)

ドメインの状態規則は、ドメインの状態が Active 、RunningSolaris 以外の場合に重大アラームを生成します。

表 3-33 プラットフォーム管理のシステムドメインの状態規則

アラームレベル	意味
重大 / エラー	ドメインが重大な状態

対策：

ドメインが電源投入時セルフテスト (POST) を実行して起動すると、アラームが生成されます。アラームが長時間消えない場合、ドメインはハングアップしている可能性があります。ドメインの状態と起動スライスを調べてください。

ドメインのキースイッチ規則 (rspa1003)

ドメインのキースイッチ規則は、ドメインのキースイッチの状態が変化した場合に情報アラームを生成します。

表 3-34 プラットフォーム管理のシステムドメインのキースイッチ規則

アラームレベル	意味
情報	ドメインのキースイッチの状態が変わった

対策：

このアラームは、単に注意を促すことを目的にしています。対策は必要ありません。

システムコントローラのフェイルオーバー規則 (rspa1004)

システムコントローラのフェイルオーバー規則は、SC がメイン SC から予備の SC にフェイルオーバーした場合に情報アラームを生成します。

表 3-35 プラットフォーム管理のシステムコントローラのフェイルオーバー規則

アラームレベル	意味
情報	システムコントローラがメイン SC から予備の SC にフェイルオーバーした

対策：

このアラームは、単に注意を促すことを目的にしています。対策は必要ありません。

システムコントローラの変化規則 (rspa1005)

システムコントローラの変化規則は、SC で何らかの変化があった場合に情報アラームを生成します。

表 3-36 プラットフォーム管理のシステムコントローラの変化規則

値	アラームレベル	意味
1	情報	システムコントローラが起動した
2	情報	システムコントローラの IP アドレスが変化した

対策：

このアラームは、単に注意を促すことを目的にしています。対策は必要ありません。

ログまたはトラップホストの変化規則 (rspa1006)

ログまたはトラップホスト変化規則は、プラットフォーム、ドメインのログ、またはトラップホストに変化があった場合に情報アラームを生成します。

表 3-37 プラットフォーム管理のログまたはトラップホストの変化規則

アラームレベル	意味
情報	ドメインのログホスト (domainloghost)、トラップホスト (domaintraphost)、プラットフォームのログホスト (chassisloghost)、またはトラップホスト (chassistraphost) に変化があった

対策：

このアラームは、単に注意を促すことを目的にしています。対策は必要ありません。

システムコントローラの応答なし規則 (rspa1007)

システムコントローラの応答なし規則は、SC から応答がないか、メイン SC の SNMP エージェントから応答がない場合に重大アラームを生成します。

表 3-38 プラットフォーム管理のシステムコントローラの応答なし規則

値	アラームレベル	意味
0	重大	システムコントローラから応答がない
1	重大	メイン SC の SNMP エージェントから応答がない

対策：

サンに連絡してください。

CPU モジュールの状態規則 (rspa1008)

CPU モジュールの状態規則は、任意の CPU モジュールが Idle または Online 以外の状態の場合に重大アラームを生成します。

表 3-39 プラットフォーム管理のログまたはトラップホストの変化規則

アラームレベル	意味
重大	CPU モジュールが重大な状態

対策：

サンに連絡してください。

システムコントローラのファームウェアのバージョン規則

システムコントローラのファームウェア (SCApp) のバージョン規則は、SC のファームウェアバージョンが 5.12.5 より古い場合に重大アラームを生成します。

表 3-40 プラットフォーム管理の SC ファームウェアのバージョン規則

アラームレベル	意味
重大	SCApp ファームウェアのバージョンが 5.12.5 より古い

対策：

システムコントローラのファームウェア (SCApp) を更新してください。

システムボードのテスト状態規則 (rspa1010)

システムボードのテスト状態規則は、テスト状態が Unknown、NoTested、または Passed 以外の場合にアラームを生成します (表 3-41)。

表 3-41 プラットフォーム管理のシステムボードのテスト状態規則

テストの状態	アラームレベル	意味
UnderTest	情報	POST によるボードのテスト中
StartTest	情報	POST がボードのテストを開始しようとしている
Degraded	警告	ボードが機能縮小モードで動作している
Failed	重大	ボードが POST テストで不合格になった
Unusable	重大	このシステムではボードは使用できない
--	重大	テストの状態が不定

対策：

- ボードのテスト状態が UnderTest または StartTest の場合、このアラームは、単に注意を促すことを目的にしています。対策は必要ありません。
- ボードのテスト状態が Degraded の場合は、機能縮小の根本的な原因が何か調べてください。たとえば、COD ライセンスが不十分である可能性もあります。
- ボードのテスト状態が Failed または Unusable の場合は、ボードを交換する必要があります。

ドメインまたはボードの電源状態規則 (rspa1011)

ドメインまたはボードの電源状態規則は、任意の構成部品の電源が切断 (PoweredOff) された場合に情報アラームを、または、コンポーネントの電源状態が unknown の場合に注意アラームを生成します。

表 3-42 プラットフォーム管理のドメインまたはボードの電源状態規則

アラームレベル	意味
情報	構成部品の電源が切断されている
注意	コンポーネントの電源状態が unknown である

対策：

このアラームは、単に注意を促すことを目的にしています。対策は必要ありません。

データ収集テーブル

データ収集テーブルでは、現在のデータの各プロパティを再表示させることができます。SC データベースの各データについて、以下の 15 のプロパティを 1 つの表として示します。

- シャーシ
- スロット
- CPU ボード
- 入出力ボード
- アドレスリピータボード
- CPU モジュール
- DIMM
- E キャッシュ
- WCI
- WCI ポート
- ドメイン
- ファン
- 電源装置
- システムコントローラ
- FRU

プロパティの上で右クリックし、再表示をクリックすると、そのプロパティの値は現在の値に更新されます。テーブルに表示されている各プロパティの値は、テーブル上の時刻表示時点のものです。最後に SC データベースからの値の収集に成功したときの現地時刻が表示されています (図 3-24)。これによって、表示されているデータが現時点のものであるかどうかを確認できます。

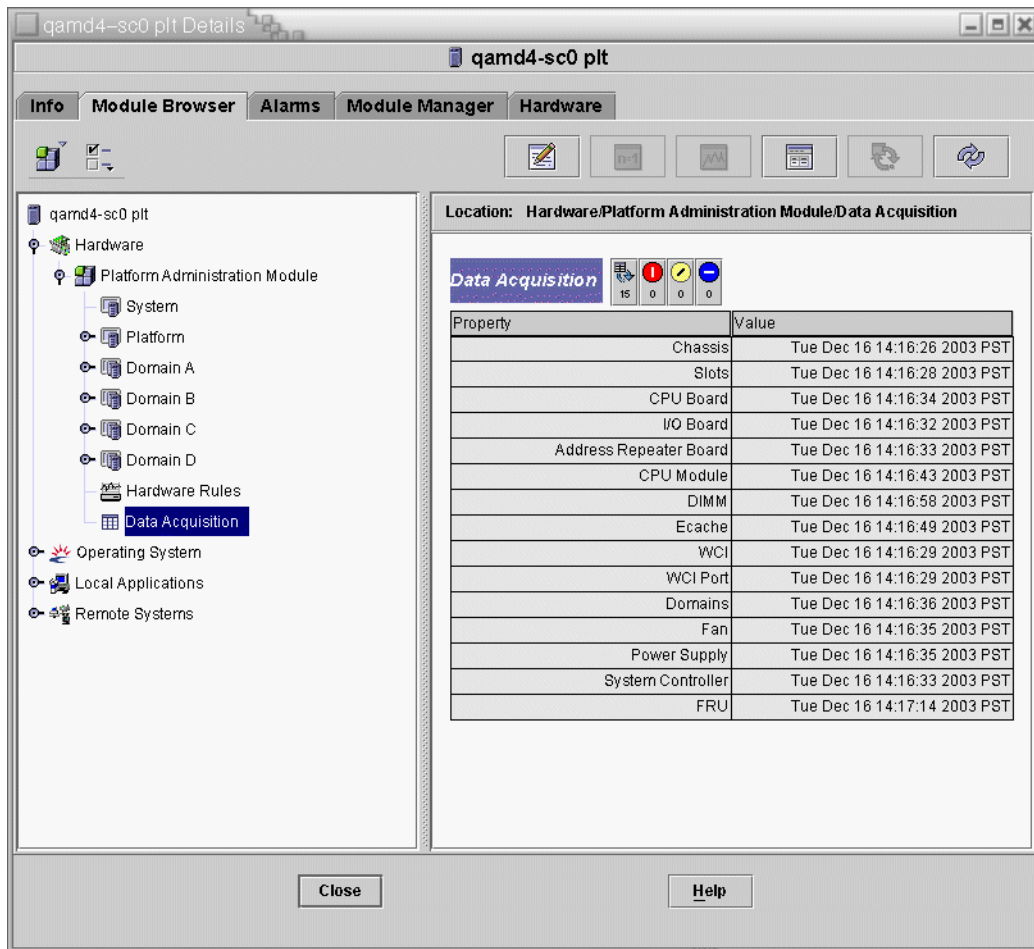


図 3-24 データ収集テーブル

以下のセキュリティーアクセスグループのメンバーは、データ収集テーブルの内容を参照できます。

- spltop
- spltadm
- sdaop
- sdaadm
- sdbop
- sdbadm
- sdcop
- sdcadm

- sddop
- sddadm

ユーザグループの定義については、表 2-3 を参照してください。

第4章

ドメインエージェントによるドメインの管理

この章では、Sun Fire Midrange Systems 用のドメインエージェントを使用した、Sun Management Center 3.5 ドメインの管理について説明します。

この章では、次のトピックを取り上げています。

- 123 ページの「管理ドメインの設定」
- 123 ページの「エージェントの起動と停止」
- 124 ページの「ノードの作成」
- 124 ページの「構成リーダーモジュール」
- 130 ページの「ドメインの構成リーダーモジュールのテーブルへのアクセス」
- 139 ページの「ドメインの構成リーダーの規則」
- 141 ページの「Sun Fire Midrange Systems の規則」
- 148 ページの「ドメインの物理表示と論理表示」

管理ドメインの設定

ここでは、一般的な手順を示します。具体的な手順については、『Sun Management Center 3.5 ユーザガイド』を参照してください。

エージェントの起動と停止

『Sun Management Center 3.5 ユーザガイド』を参照してください。

ノードの作成

ここでは、一般的な手順を示します。具体的な手順については、『Sun Management Center 3.5 ユーザガイド』を参照してください。

構成リーダーモジュール

構成リーダーモジュールの 1 つである Sun Fire (3600-6800) 構成リーダーは、インストール中に自動的に読み込まれます。この構成リーダーモジュールを使用して、ホストの物理表示や論理表示を行うことができます。

また、構成リーダーモジュールはハードウェアを監視し、問題が発生すると警告を發します。たとえば、構成リーダーモジュールは DIMM モジュールのエラーの有無を調べます。

「構成リーダー」アイコンは、「詳細」ウィンドウの「ハードウェア」アイコン内にあります (図 4-3)。

▼ 構成リーダーモジュールを使用する

1. Sun Management Center のコンソールで、Sun Fire Midrange Systems のアイコンをダブルクリックします。

「詳細」ウィンドウが表示されます (図 4-1)。

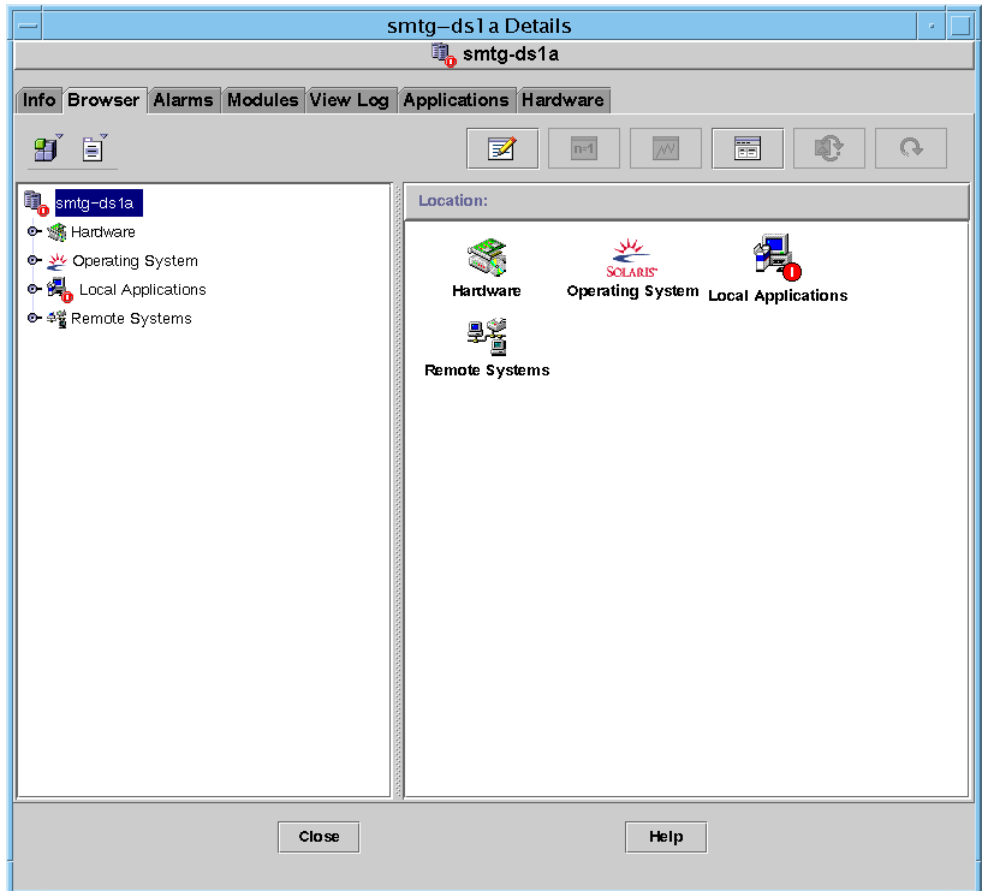


図 4-1 ドメインの「詳細」ウィンドウ

2. 「詳細」ウィンドウの「ハードウェア」アイコンをダブルクリックします。
「Sun Fire Midrange Systems の構成リーダー」アイコンと「Sun Fire Midrange Systems の規則」アイコンが表示されます (図 4-2)。

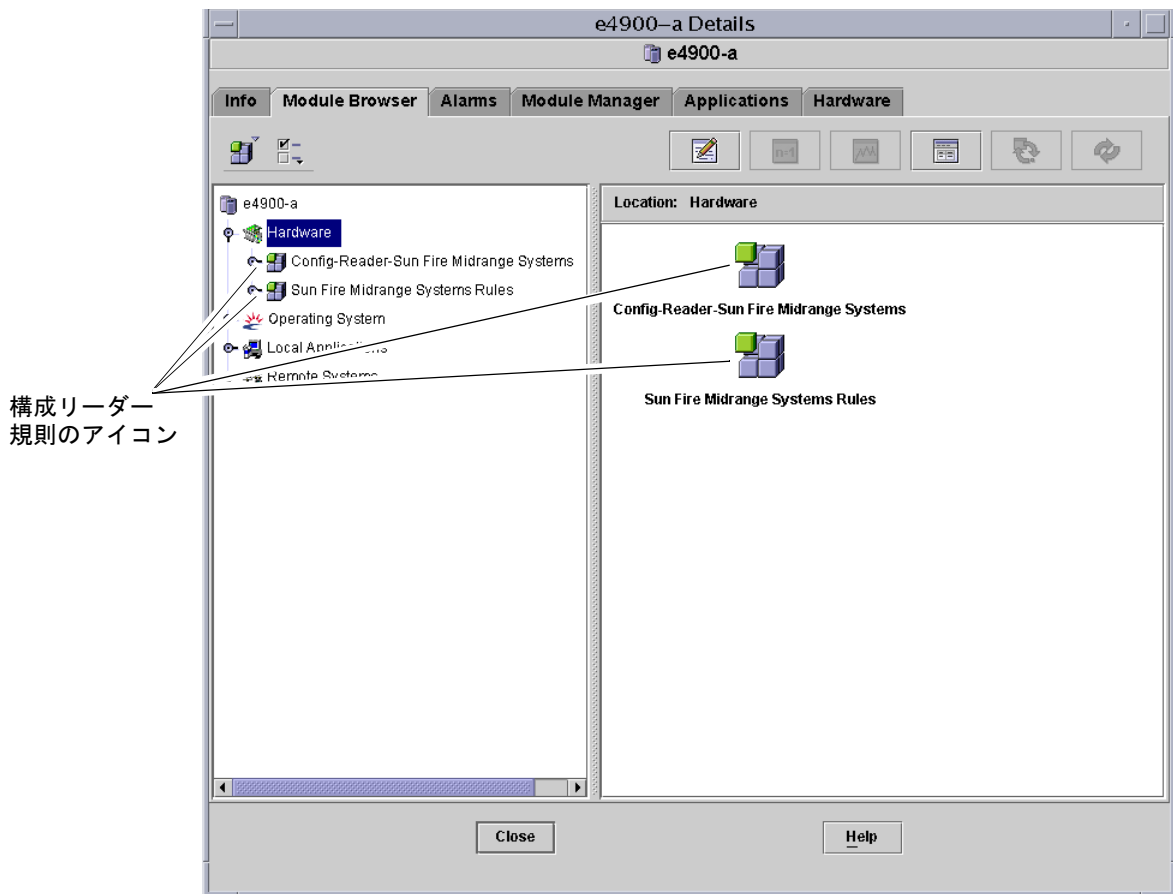


図 4-2 構成リーダーと規則のアイコン

3. これで、次のいずれかの操作を行うことができます。

- 「Sun Fire Midrange Systems の構成リーダー」アイコンをダブルクリックして、システム内のすべてのデバイスを表示し、デバイスのアイコンをダブルクリックして、その属性と値を表示できます (図 4-3)。
- 「Sun Fire Midrange Systems の規則」アイコンをダブルクリックして、規則のアイコンを表示し、規則のアイコンをダブルクリックしてその属性と値を表示できます (図 4-4)。

提供される属性と値の表示については、130 ページの「ドメインの構成リーダーモジュールのテーブルへのアクセス」を参照してください。構成リーダーのアラームが発生する障害については、141 ページの「Sun Fire Midrange Systems の規則」を参照してください。

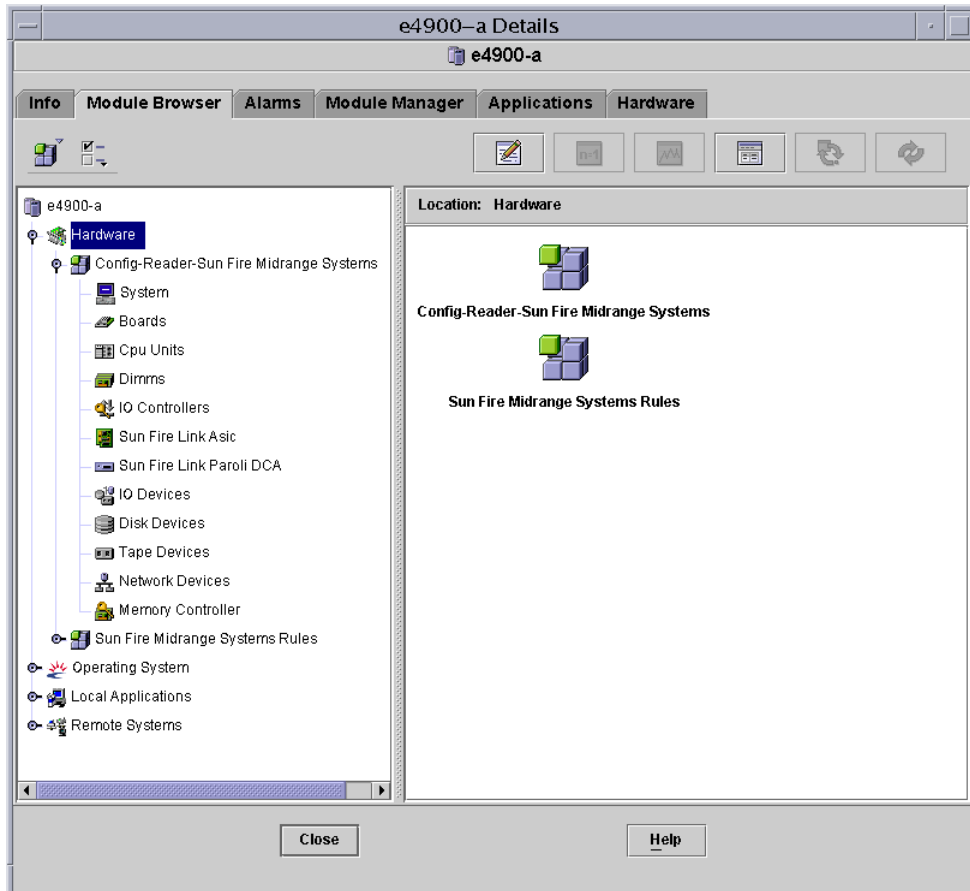


図 4-3 構成リーダーモジュール

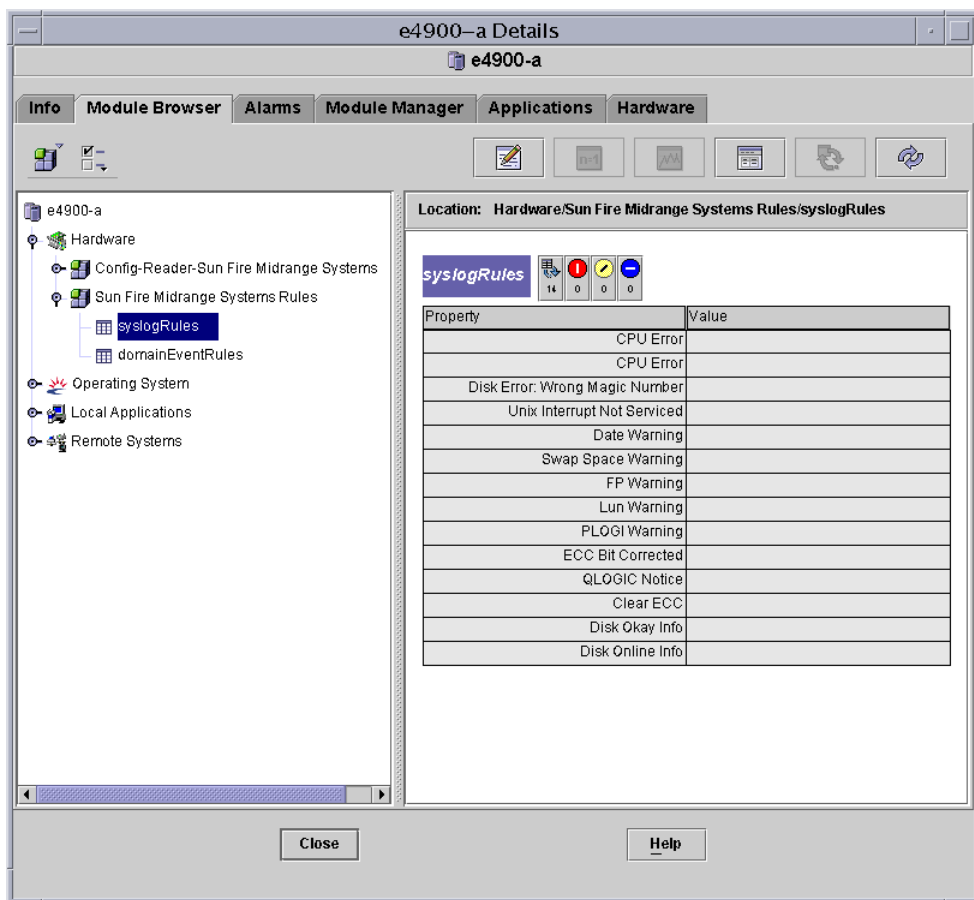


図 4-4 Sun Fire Midrange Systems の規則テーブル

構成リーダーモジュールの読み込み

Sun Fire Midrange Systems の「詳細」ウィンドウの「モジュールブラウザ」タブに、Sun Fire Midrange Systems の構成リーダーモジュールまたは Sun Fire Midrange Systems の規則モジュールのアイコンが表示されない場合は、対応するモジュールが読み込まれていません。その場合は、以下に示す手順で、どちらか一方または両方のモジュールを手動で読み込みます。

▼ モジュールを読み込む

1. Sun Management Center のコンソールで、Sun Fire Midrange Systems のアイコンをダブルクリックします。
「詳細」ウィンドウが表示されます (図 4-1)。
2. 「詳細」ウィンドウの「モジュールマネージャー」タブをクリックします。
モジュールマネージャーのデータが表示されます (図 4-5)。

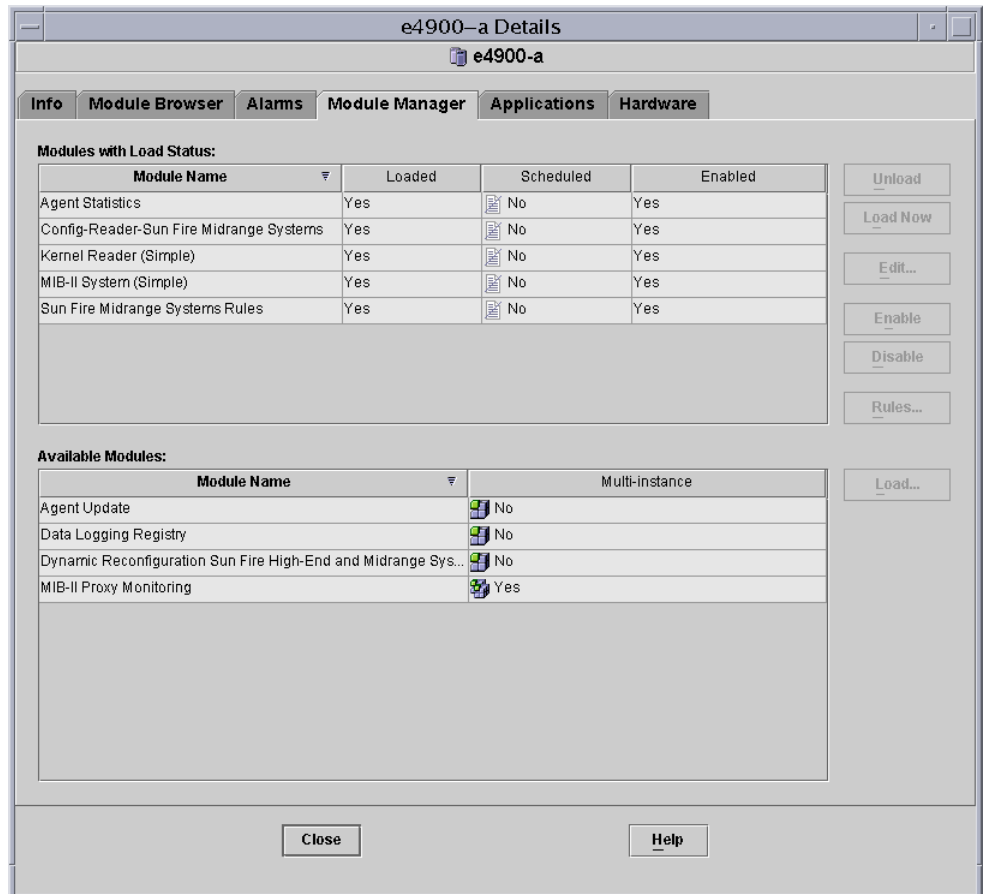


図 4-5 「詳細」ウィンドウの「モジュールマネージャー」タブ

3. 「使用可能なモジュール」一覧から Sun Fire Midrange Systems の構成リーダーまたは Sun Fire Midrange Systems の規則を選択して、「読み込み」をクリックします。
「モジュールローダー」ポップアップウィンドウが表示されます。

4. 「了解」ボタンをクリックします。

適切なアクセス権があると、ポップアップウィンドウが閉じ、選択したモジュールが「モジュールの読み込み状態」一覧に移動します。

適切なアクセス権がない場合は、ポップアップウィンドウにエラーメッセージが表示されます。アクセス権の詳細は、52 ページの「グループへのユーザの割り当て」を参照してください。

ドメインの構成リーダーモジュールのテーブルへのアクセス

この節では、構成リーダーモジュールの次のデータ属性テーブルをまとめています。

- 131 ページの「ドメインシステム」
- 132 ページの「ドメインのボード」
- 133 ページの「ドメインの CPU ユニット」
- 134 ページの「ドメインの DIMM」
- 134 ページの「ドメインの入出力コントローラ」
- 135 ページの「ドメインの Sun Fire Link ASIC」
- 135 ページの「ドメインの Sun Fire Link Paroli DCA」
- 136 ページの「ドメインの入出力デバイス」
- 137 ページの「ドメインのディスクデバイス」
- 137 ページの「ドメインのテープデバイス」
- 138 ページの「ドメインのネットワークデバイス」
- 139 ページの「ドメインのメモリコントローラ」

以下の表は、ドメインの構成リーダーの各データ属性テーブルに含まれるデータ属性をまとめています。構成リーダーのデータ属性を選択すると、「詳細」ウィンドウの「モジュールブラウザ」タブにデータ属性テーブルが表示されます。『Sun Management Center 3.5 ユーザガイド』の第 7 章「管理オブジェクト情報の表示」を参照してください。

▼ ドメイン構成リーダーのテーブルを再表示する

1. プラットフォームおよびドメインでトラップホストをすでに設定していることを確認します。トラップホストは、プラットフォームの管理元となる Sun Management Center サーバのホストです。詳細は、24 ページの「システムコントローラ上の SNMP の設定」を参照してください。
2. システムテーブルを再表示して、ドメイン構成リーダーモジュールのすべてのテーブルを再表示します (表 4-1 を参照)。

ドメインシステム

表 4-1 は、ドメインを含む Sun Fire Midrange Systems の属性を簡単にまとめています。

表 4-1 ドメインシステム

属性	規則 (ある場合)	説明
名前		インスタンス名を示す
オペレーティングシステム		マシンで動作しているオペレーティング環境を示す
オペレーティングシステムのバージョン		オペレーティング環境のバージョンを示す
システムクロック周波数		メガヘルツ (MHz) 単位でクロック周波数を示す
アーキテクチャー		マシンのアーキテクチャーを示す
システムのホスト名		システムのホスト名を示す
マシン名		マシンのタイプを示す
システムプラットフォーム		システムのハードウェアプラットフォームを示す
シリアル番号		マシンのシリアル番号を示す
タイムスタンプ		タイムスタンプ値を示す
Raw タイムスタンプ		raw タイムスタンプ値を示す
総ディスク数		システム全体の総ディスク数を示す
総メモリ容量		システム全体の総メモリ容量をメガバイト (MB) 単位で示す
総プロセッサ数		システム全体の総プロセッサ数を示す
総テープデバイス数		システム全体の総テープデバイス数を示す

ドメインのボード

表 4-2 は、Sun Fire Midrange Systems ドメインのボードの属性を簡単にまとめています。

表 4-2 ドメインのボード

属性	規則 (ある場合)	説明
名前		board(1)、board(3)、board(8) などの、このボードのシステム名とスロット番号を示す
ラベル名		このユニットのラベル名とスロット番号を示す。たとえば、システムボードならば SB1、SB3、入出力ボードならば IB8
ボード番号		1、3、8 などのボードのスロット番号を示す
FRU		現場交換可能ユニットであるかどうかを示す (yes または no)
ホットプラグ		ボードがシステムにホットプラグされたかどうかを示す (yes または no)
ホットプラグ可能		ボードがホットプラグ可能かどうかを示す (yes または no)
メモリサイズ		メガバイト (MB) 単位でメモリサイズを示す
状態	rcrse301	ボードの状態として OK、UNKNOWN、FAILED のどれかを示す
タイプ		ボードの種別として CPU、CPCI_I/O_Bo、PCI_I/O_Boa、PCI+_I/O_Bo を示す。CPU ボードが COD ボード (COD_CPU) かどうか、またボードが不明 (unknown) であるかどうかを示す。

ドメインの CPU ユニット

表 4-3 は、Sun Fire Midrange Systems ドメインの CPU ユニットの属性を簡単にまとめています。

表 4-3 ドメインの CPU ユニット

属性	規則 (ある場合)	説明
名前		cpu-unit (4)、cpu-unit (5) などの、このユニットのシステム名とスロット番号を示す
ボード番号		このプロセッサが装着されているボードの番号を示す
クロック周波数		メガヘルツ (MHz) 単位でタイマーの周波数を示す
CPU タイプ		プロセッサのマシントイプを示す
D キャッシュサイズ		データキャッシュ (D キャッシュ) のサイズをキロバイト (KB) 単位で示す
E キャッシュサイズ		外部キャッシュ (E キャッシュ) のサイズをメガバイト (MB) 単位で示す
FRU		現場交換可能ユニットであるかどうかを示す (yes または no)
I キャッシュサイズ		命令キャッシュ (I キャッシュ) のサイズをキロバイト (KB) 単位で示す
モデル		プロセッサのモデルを示す
プロセッサ ID		プロセッサの識別番号を示す。CMT プロセッサの場合は、コンマ区切りで各コアのプロセッサ ID が表示される。
状態	rcrse207	CPU ユニットの状態として OK (正常)、online (オンライン)、--、noncritical、offline のどれかを示す。CMT プロセッサの場合は、オンラインのコアがない場合は offline となる。また、プロセッサのコアがどれか 1 つでもオンラインの場合は、プロセッサ全体が online を示す。
ユニット		ユニットの識別番号を示す

ドメインの DIMM

表 4-4 は、Sun Fire Midrange Systems ドメインの DIMM (dual inline memory module) の属性を簡単にまとめています。

表 4-4 ドメインの DIMM

属性	規則 (ある場合)	説明
名前		dimmm(0)、dimmm(1) などの、このユニットのシステム名とスロット番号を示す
物理バンク番号		この DIMM が装着されている物理バンク番号を示す
バンクサイズ		メガバイト (MB) 単位でバンクサイズを示す
バンクの状態		動作状態として pass、unpopulated、fail のどれかを示す
FRU		現場交換可能ユニットであるかどうかを示す (yes または no)
DIMM サイズ		メガバイト (MB) 単位で DIMM のサイズを示す
メモリコントローラ		DIMM のメモリコントローラの名前のリスト (表 4-12 を参照)

ドメインの入出力コントローラ

表 4-5 は、Sun Fire Midrange Systems のドメインの入出力コントローラの属性を簡単にまとめています。

表 4-5 ドメインの入出力コントローラ

属性	説明
名前	pcisch(8)、pcisch(9) などの、このユニットのシステム名とスロット番号を示す
デバイスタイプ	デバイスタイプとして pci を示す
インスタンス番号	インスタンス番号を示す
モデル	デバイスのモデルを示す

表 4-5 ドメインの入出力コントローラ (続き)

属性	説明
Reg	登録アドレスを示す
ポート ID	ポート識別番号を示す
バージョン番号	バージョン番号を示す

ドメインの Sun Fire Link ASIC

表 4-6 は、Sun Fire Midrange Systems のドメインの Sun Fire Link ASIC (WCI) の属性を簡単にまとめています。Sun Fire Link システムの詳細は、『Sun Fire Link ファブリック管理者マニュアル』を参照してください。

表 4-6 ドメインの Sun Fire Link ASIC (WCI)

属性	説明
名前	wci(1d)、wci(1f) のような、このユニットのシステム名を示す
Paroli 数	Paroli ドーターカード集合部品 (DCA) カードの番号を示す

ドメインの Sun Fire Link Paroli DCA

表 4-7 は、Sun Fire Midrange Systems のドメインの Sun Fire Link ドーターカード組立部品 (DCA) の属性を簡単にまとめています。Sun Fire Link システムの詳細は、『Sun Fire Link ファブリック管理者マニュアル』を参照してください。

注 – Paroli カードの有無は、ドメインが Sun Fire Link クラスタの一部である場合にのみ判定することができます。ドメインが、Sun Fire Link クラスタの一部でない場合には、Paroli カードテーブルには何も表示されません。ドメインに Paroli カードがないという意味ではありません。

表 4-7 ドメインの Sun Fire Link Paroli DCA

属性	説明
名前	paroli (0)、paroli (1) のような Paroli カード名を示す
FRU	現場交換可能ユニットであるかどうかを示す (yes または no)
リンク番号	Paroli カードへの接続ポートの識別番号を示す (0 または 2)。
リンクの妥当性	Paroli カードへの接続が VALID または INVALID を示す
リンクの状態	リンクの現在の状態として LINK UP、LINK DOWN、LINK NOT PRESENT、WAIT FOR SC LINK TAKEDOWN、WAIT FOR SC LINK UP、SC ERROR WAIT FOR LINK DOWN、UNKNOWN のどれかを示す
遠隔リンク番号	遠隔 Paroli カードへのリンクの識別番号 (0 ~ 2) を示す
遠隔クラスタメンバー	遠隔リンクの最終のクラスタメンバーのホスト名を示す

ドメインの入出力デバイス

表 4-8 は、Sun Fire Midrange Systems のドメインの入出力デバイスの属性を簡単にまとめています。

表 4-8 ドメインの入出力デバイス

属性	説明
名前	このユニットのシステム名を示す
デバイスタイプ	デバイスのタイプを示す
ディスク数	このユニットに接続されているドライブ数を示す
インスタンス番号	インスタンス番号を示す
モデル	モデルを示す

表 4-8 ドメインの入出力デバイス (続き)

属性	説明
ネットワーク数	このユニットに接続されているネットワーク数を示す
Reg	登録アドレスを示す
テープ数	このユニットに接続されているドライブ数を示す

ドメインのディスクデバイス

表 4-9 は、Sun Fire Midrange Systems のドメインのディスクデバイスの属性を簡単にまとめています。

表 4-9 ドメインのディスクデバイス

属性	説明
名前	sd(x) などの形式でこのユニットのシステム名を示す。x はディスクデバイスの開発インデックス。
デバイスタイプ	disk、CD-ROM などのデバイスの種類を示す
ディスク名	c110d0、c210d0 などのコントローラ名を示す
FRU	現場交換可能ユニットであるかどうかを示す (yes または no)
インスタンス番号	インスタンス番号を示す
ディスクのターゲット	ディスクのターゲット番号を示す

ドメインのテープデバイス

表 4-10 は、Sun Fire Midrange Systems のドメインのテープデバイスの属性を簡単にまとめています。

表 4-10 ドメインのテープデバイス

属性	規則 (ある場合)	説明
名前		st(x) などの形式でこのユニットのシステム名を示す。x はテープデバイスの開発インデックス
デバイスタイプ		tape drive などの、デバイスの種類を示す
FRU		現場交換可能ユニットであるかどうかを示す (yes または no)

表 4-10 ドメインのテープデバイス (続き)

属性	規則 (ある場合)	説明
インスタンス番号		インスタンス番号を示す
モデル		モデルを示す
テープ名		テープ名を示す
状態	rcrse225	動作状態として OK、ok、drive present、but busy などを示す
テープターゲット		テープのターゲット番号を示す

ドメインのネットワークデバイス

表 4-11 は、Sun Fire Midrange Systems のドメインのネットワークデバイスの属性を簡単にまとめています。

表 4-11 ドメインのネットワークデバイス

属性	説明
名前	hme(5) などの形式でこのユニットのシステム名を示す
デバイスタイプ	デバイスタイプとして network を示す
Ethernet アドレス	Ethernet アドレスを示す
インターネットアドレス	インターネットアドレスを示す
インタフェース名	インタフェース名を示す
記号名	記号名を示す

ドメインのメモリコントローラ

表 4-12 は、Sun Fire Midrange Systems のドメインのメモリコントローラの属性を簡単にまとめています。

表 4-12 ドメインのメモリコントローラ

属性	説明
名前	memory-controller (14.400000) などのこのユニットのシステム名を示す
互換	互換性のあるソフトウェアパッケージを示す
デバイスタイプ	デバイスタイプとして memory-controller を示す
ポート ID	ポート識別番号を示す
Reg	登録アドレスを示す

ドメインの構成リーダーの規則

この節では、ドメイン構成リーダーモジュールのアラーム規則について説明します。システムは、現在の属性とそのしきい値を示すメッセージとともにアラームを提供します。

CPU ユニットの状態規則 (rcrse207)

CPU ユニットの状態規則は、CPU ユニットの状態が OK、online、--、noncritical 以外の場合、重大アラームを生成します。

表 4-13 ドメイン構成リーダーの CPU ユニットの状態規則

アラームレベル	意味
重大	CPU ユニットが重大な状態

対策：

サンに連絡してください。

テープの状態規則 (rcrse225)

テープの状態規則は、テープの状態が OK、ok、drive present、but busy 以外の場合に重大アラームを生成します。

表 4-14 ドメイン構成リーダーのテープの状態規則

アラームレベル	意味
重大	テープが重大な状態

対策：

サンに連絡してください。

システムボードの状態規則 (rcrse301)

システムボードの状態規則は、システムボードの状態が OK 以外の場合に情報アラームを生成します。

表 4-15 ドメイン構成リーダーのシステムボードの状態規則

アラームレベル	意味
情報	システムボードの状態が OK 以外

対策：

このアラームは、単に注意を促すことを目的にしています。対策は必要ありません。

接続点の状態規則 (rLnkVld)

接続点の状態規則は、状態が VALID 以外の場合に情報アラームを生成します。

表 4-16 ドメイン構成リーダーの接続点の状態規則

アラームレベル	意味
情報	接続点の状態が VALID 以外

対策：

このアラームは、単に注意を促すことを目的にしています。対策は必要ありません。

Sun Fire Midrange Systems の規則

この節では、Sun Fire Midrange Systems のアラーム規則について説明します。システムは、現在の属性とそのしきい値を示すメッセージとともにアラームを提供します。

CPU エラーメッセージ規則 - Solaris 8, 7/01 以降 (rsr1000)

CPU エラーメッセージ規則は、訂正可能な CPU エラーが検出された場合に重大アラームを生成します。このアラームは、Solaris 8, 7/01 以降のオペレーティング環境に適用されます。

表 4-17 CPU エラーメッセージ規則 - Solaris 8, 7/01

アラームレベル	意味
重大	<code>/var/adm/messages</code> ファイルで訂正可能な CPU エラーが検出された

対策：

サンに連絡してください。

CPU エラーメッセージ規則 - Solaris 8, 7/01 以前 (rsr1001)

CPU エラーメッセージ規則は、誤り訂正コード (ECC) メモリエラーが検出された場合に重大アラームを生成します。このアラームは、Solaris 8, 7/01 より前のオペレーティング環境に適用されます。

表 4-18 CPU エラーメッセージ規則 - Solaris 8, 7/01 以前

アラームレベル	意味
重大	<code>/var/adm/messages</code> ファイルで ECC メモリエラーが検出された

対策：

サンに連絡してください。

SCSI 警告メッセージ規則 (rsr1002)

SCSI (Small Computer System Interface) の警告メッセージ規則は、マジック番号不正を原因とする警告が検出された場合に警告アラームを生成します。

表 4-19 SCSI 警告メッセージ規則

アラームレベル	意味
警告	/var/adm/messages ファイルで、マジック番号が不正であることを原因とする SCSI 警告が検出された

対策：

サンに連絡してください。

UNIX 警告メッセージ規則 (rsr1003)

UNIX 警告メッセージ規則は、割り込みが処理されなかったことを原因とする警告が検出された場合に警告アラームを生成します。

表 4-20 UNIX 警告メッセージ規則

アラームレベル	意味
警告	/var/adm/messages ファイルで、割り込みが処理されなかったことを原因とする UNIX 警告が検出された

対策：

サンに連絡してください。

Genunix 日付の警告メッセージ規則 (rsr1004)

Genunix 日付の警告メッセージ規則は、最終停止時刻が TOD (time-of-day) チップの時刻より新しいことを原因とする警告が検出された場合に警告アラームを生成します。

表 4-21 Genunix 日付の警告メッセージ規則

アラームレベル	意味
警告	<code>/var/adm/messages</code> ファイルで、最終停止時刻が TOD チップの時刻より新しいことを原因とする Genunix 日付の警告が検出された

対策：

サンに連絡してください。

Genunix クロックの警告メッセージ規則 (rsr1004)

Genunix クロックの警告メッセージ規則は、最大スワップ空間のサイズが未使用空間を下回ったことを原因とする警告が検出された場合に警告アラームを生成します。

表 4-22 Genunix クロックの警告メッセージ規則

アラームレベル	意味
警告	<code>/var/adm/messages</code> ファイルで、最大スワップ空間のサイズが未使用空間を下回ったことを原因とする Genunix クロック警告が検出された

対策：

サンに連絡してください。

ファンブレーンの警告メッセージ規則 (rsr1006)

ファンブレーンの警告メッセージ規則は、警告が検出された場合に警告アラームを生成します。

表 4-23 ファンブレーンの警告メッセージ規則

アラームレベル	意味
警告	<code>/var/adm/messages</code> ファイルでファンブレーンの警告が検出された

対策：

サンに連絡してください。

LUN 障害規則 (rsr1007)

論理装置番号 (LUN) 障害規則は、LUN 障害が検出された場合に重大アラームを生成します。

表 4-24 LUN 障害規則

アラームレベル	意味
重大	<code>/var/adm/messages</code> ファイルで LUN 障害が検出された

対策：

サンに連絡してください。

PLOGI 障害規則 (rsr1008)

PLOGI 障害規則は、PLOGI 障害が検出された場合に重大アラームを生成します。

表 4-25 PRLOGI 障害規則

アラームレベル	意味
重大	<code>/var/adm/messages</code> ファイルで PLOGI 障害が検出された

対策：

サンに連絡してください。

ECC 訂正規則 (rsr1009)

ECC 訂正規則は、ECC エラーがあり、ECC データビットが訂正された場合に情報アラームを生成します。

表 4-26 システム ECC の訂正規則

アラームレベル	意味
情報	ECC データビットが訂正された

対策：

このアラームは、単に注意を促すことを目的にしています。対策は必要ありません。

Q ロジックエラー規則 (rsr1010)

Q ロジックエラー規則は、Q ロジックループエラーが検出された場合にアラームを生成します。

表 4-27 Q ロジックエラー規則

値	アラームレベル	意味
OFFLINE (オフライン)	警告	Q ロジックループがオフラインになった
上記以外	情報	Q ロジックループがオンラインになった

対策：

- 警告アラームの場合は、サンに連絡してください。
- 情報アラームは、単に注意を促すことを目的にしています。対策は必要ありません。

カーネル訂正規則 (rsr1011)

カーネル訂正規則は、ECC クリア警告が検出された場合に警告を生成します。

表 4-28 カーネル訂正規則

アラームレベル	意味
警告	<code>/var/adm/messages</code> ファイルで ECC クリア警告が検出され、カーネルによって ECC エラーがクリアされた

対策：

サンに連絡してください。

SCSI 情報イベント規則 (rsr1012)

SCSI 情報イベント規則は、SCSI 情報イベントが検出された場合に情報アラームを生成します。

表 4-29 SCSI 情報イベント規則

アラームレベル	意味
情報	<code>/var/adm/messages</code> ファイルで SCSI ディスク正常およびその関連メッセージが検出された

対策：

このアラームは、単に注意を促すことを目的にしています。対策は必要ありません。

SCSI ディスクオンライン規則 (rsr1013)

SCSI ディスクオンライン規則は、SCSI ディスクがオンラインになった場合に情報アラームを生成します。

表 4-30 SCSI ディスクオンライン規則

アラームレベル	意味
情報	SCSI ディスクがオンラインになった

対策：

このアラームは、単に注意を促すことを目的にしています。対策は必要ありません。

温度状態規則 (rsr1014)

温度状態規則は、温度の状態値が 1 以外になった場合にアラームを生成します。

表 4-31 温度状態規則

値	アラームレベル	意味
1		温度状態は正常
2	警告	構成部品の温度が警告レベルを超えた
上記以外	重大	構成部品の温度がエラーレベルを超えた

対策：

サンに連絡してください。

電源状態規則 (rsr1015)

電源状態規則は、電源の状態値が 1 以外になった場合にアラームを生成します。

表 4-32 システム電源状態規則

値	アラームレベル	意味
1		電源状態は正常
2	警告	電源装置が電圧の警告しきい値を超えた
上記以外	重大	電源装置不良

対策：

サンに連絡してください。

ドメインの物理表示と論理表示

「詳細」ウィンドウの「ハードウェア」タブでは、Sun Fire Midrange Systems のハードウェア構成を物理表示および論理表示することができます。詳細は、107 ページの「Sun Fire Midrange Systems の物理表示と論理表示」を参照してください。

システムが複数のドメインに分割されている場合、ドメイン管理者はアクセス可能なドメインの詳細情報のみ表示できます。アクセス権限のないドメインを表示しようとすると、コンソールウィンドウの最下部に「セキュリティー権限がないため、コンソール情報を読み込めません」というメッセージが表示されます。

図 4-6 はドメイン内の Paroli カードの物理表示です。「ハードウェア」タブをクリックし、「表示」リストボックスのドメインの下の「システム」をクリックすると、表示されます。「視点の変更」リストボックスの「背面」が選択されています。

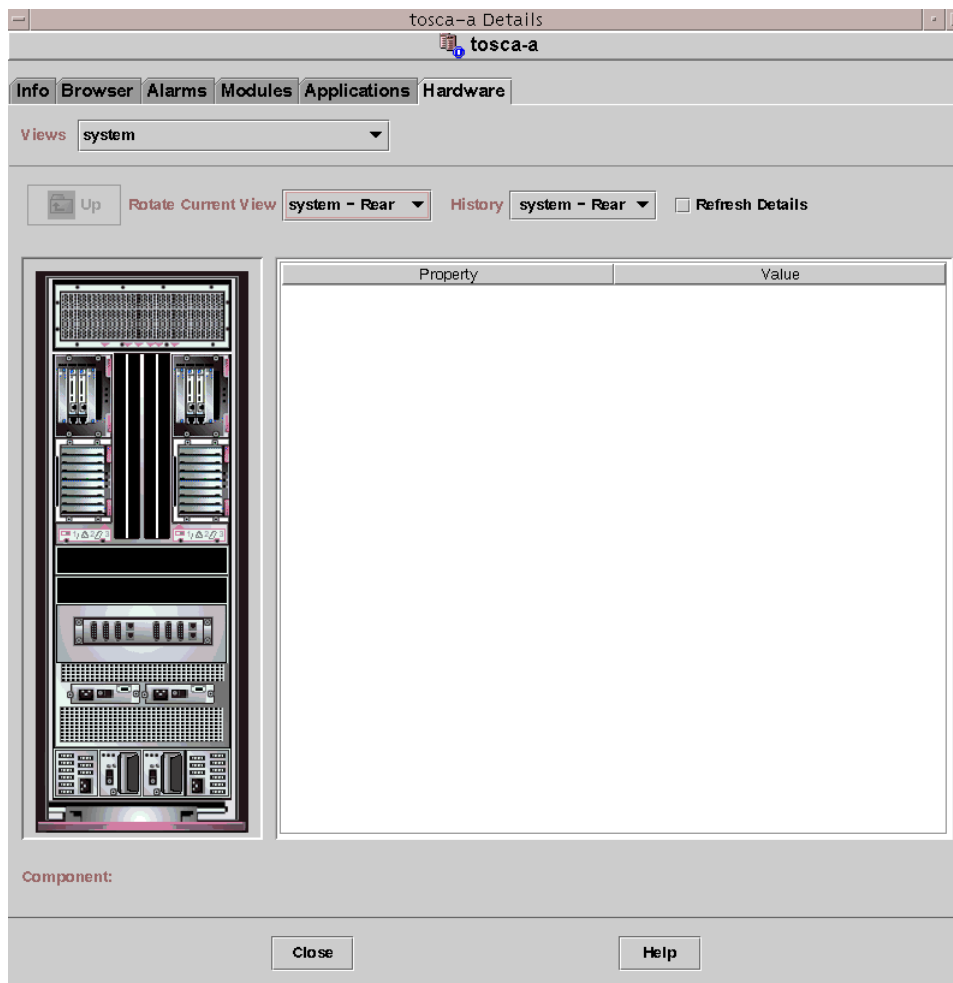


図 4-6 ドメインの Paroli カードの物理表示 (背面)

図 4-7 はドメイン内の Paroli カードの物理表示例です。「ハードウェア」タブをクリックし、「表示」リストボックスのドメインの下の「システム」をクリックすると、表示されます。「視点の変更」リストボックスの「背面」が選択されています。

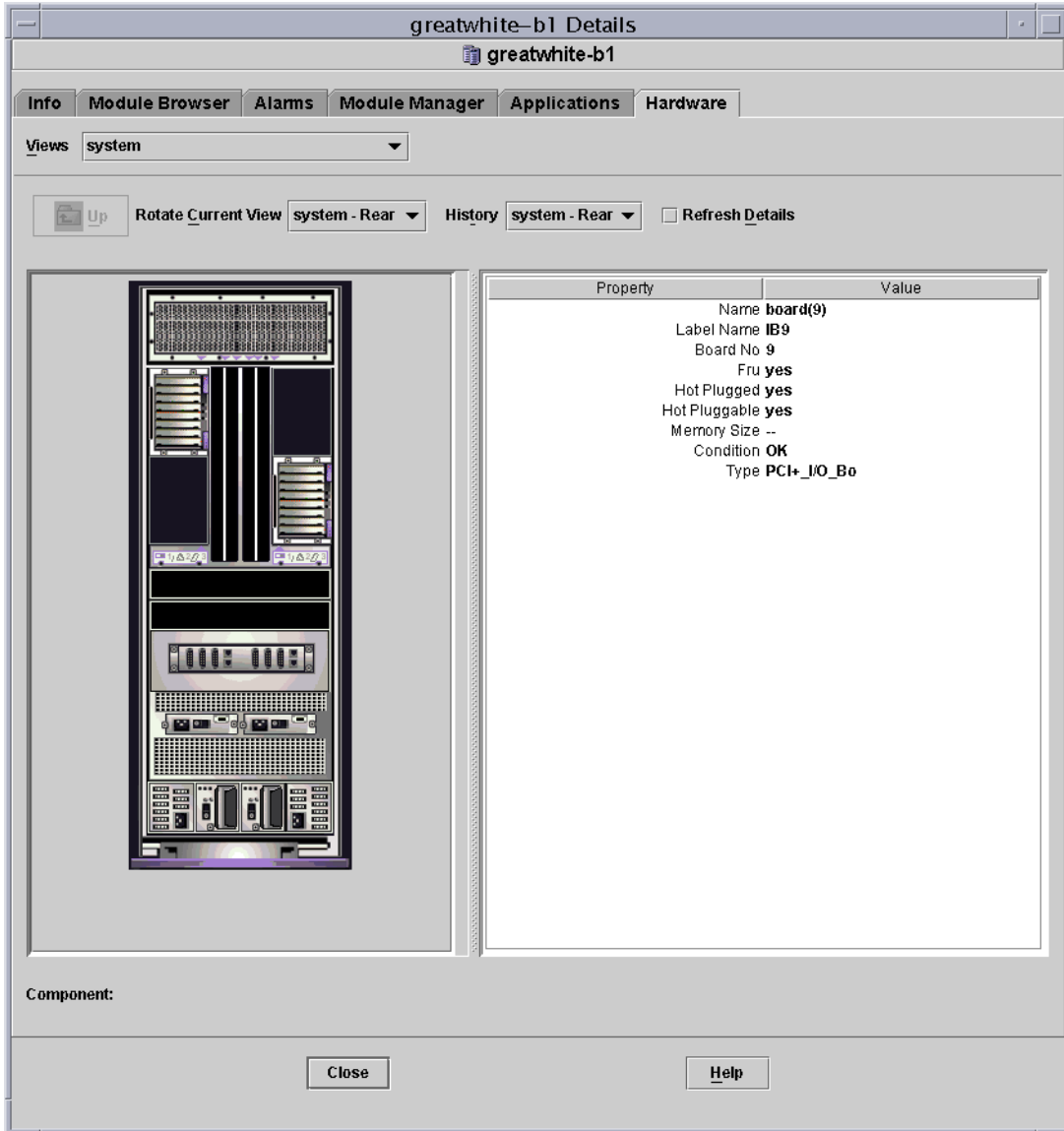


図 4-7 ドメインの PCI+ カードの物理表示 (背面)

第5章

ドメインからの動的再構成 (DR)

この章では、Sun Management Center 3.5 のコンソールと動的再構成モジュールを使って Sun Fire の High-End Systems および Midrange Systems のドメインから動的再構成 (DR) 操作を行う方法を説明します。DR 操作は、Sun Fire ドメインに対するボードのアタッチ、ドメインからのボードのデタッチ、Sun Fire ドメインへのボードの構成などの操作です。DR 操作やその他の操作の一部として、ボードのテスト、ボードの電源のオンまたはオフなどの、その他の管理操作を行うことができます。

前提条件

Sun Management Center 3.5 の GUI を使って DR 操作を行うには、DR 操作そのものを理解している必要があります。Sun Fire システムにおける DR 操作については、以下のマニュアルを参照してください。

- 『Sun Fire High-End Systems Dynamic Reconfiguration User Guide』 - Sun Fire の High-End Systems に対する DR モジュールの基礎となる操作について解説しています。Sun Fire の High-End Systems での DR 操作に関する一般的な注意事項、判明している制限事項および問題点については、System Management Services (SMS) 1.3 または 1.4 の『インストールマニュアル』および『ご使用にあたって』を参照してください。
- 『Sun Fire Midrange Systems Dynamic Reconfiguration User Guide』 - Sun Fire の Midrange Systems に対する DR モジュールの基礎となる操作について解説しています。
- `cfgadm(1M)` のマニュアルページ - DR モジュールの基礎となるコマンドについて解説しています。

DR モジュール

DR モジュールでは、ドメインからテーブル内の接続点に対する DR 操作を行うことができます。これらの操作は、**Sun Management Center 3.5** のコンソールを使用するのみ、`cfgadm(1M)` コマンドのときと同じ方法で行うことができます。このモジュールは、**Sun Fire** の **High-End Systems** および **Midrange Systems** で機能します。

このモジュールは、**Sun Management Center** ソフトウェアのインストール中に自動的にインストールされますが、初めて使用するときには、自分で読み込む必要があります。また、このモジュールは、必要に応じて読み込み解除することができます。**Sun Management Center** のモジュールの読み込みおよび読み込み解除の具体的な情報は、『**Sun Management Center 3.5 ユーザガイド**』を参照してください。

図 5-1 は、ドメインのホストの詳細ウィンドウの「モジュールブラウザ」タブと「ハードウェア」アイコンに表示される、このモジュールのアイコン (**DR Sun Fire** の **High-End Systems** および **Midrange Systems**) を表しています。図 5-1 はまた、DR データテーブル例と使用可能な DR コマンドも示しています。

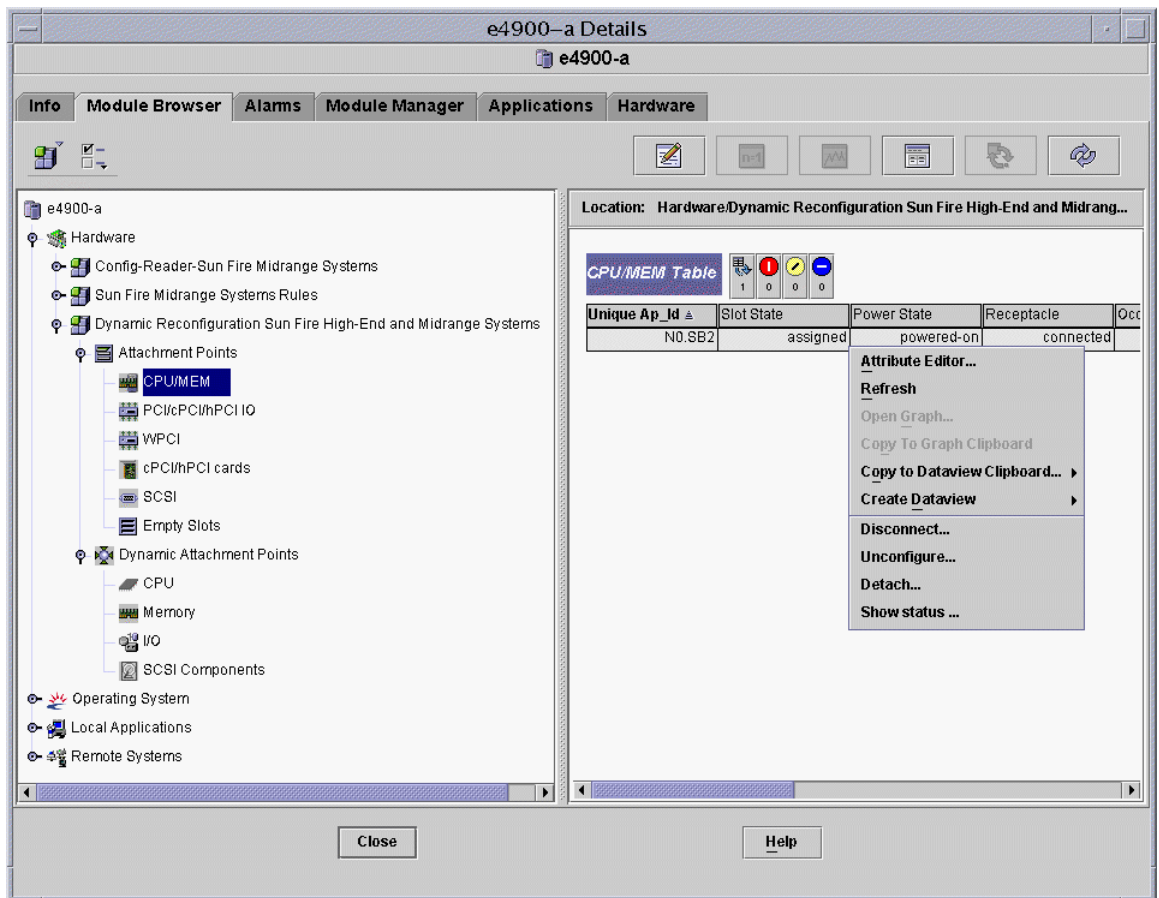


図 5-1 DR の機能

DR の属性

動的に再構成可能なボードまたはデバイスの最新の状態は、詳細ウィンドウの右側にある DR 関係のデータテーブルを使用して調べます。

DR モジュールが提供するテーブルは、以下の 2 つのセクションに分かれています。

- 接続点 - システムボードや入出力ボードなどの大きなコンポーネントの単一接続点
- 動的接続点 - CPU モジュール、DIMM、SCSI ドライブなどの、個別デバイスとコンポーネントの動的接続点

接続点

接続点はボードとそのスロットの総称です。接続点テーブルは、以下のタイプのボードスロットに関する情報を提供します。

- CPU/ メモリ
- PCI/PCI+/cPCI/hPCI 入出力ボード
- WPCI
- cPCI/hPCI カード
- SCSI
- 空きスロット
- MaxCPU (Sun Fire 上位システムのみ)

CPU/ メモリ

表 5-1 は、CPU/ メモリボードの接続点属性を簡単にまとめています。

表 5-1 CPU/ メモリボードの接続点属性

属性	規則 (ある場合)	説明
一意の接続点 ID		cfgadm から得られた一意の論理接続点 ID。SB x の形式で、 x はボードが装着されているセンタープレーンのスロットの番号 (0 ~ 17)
スロットの状態		スロットが使用可能かどうかの状態。assigned または unassigned
電源の状態		電源の状態。powered-on か powered-off
受容装置		受容装置の状態。connected、disconnected、empty のどれか
占有装置		占有装置 (ボードとその接続デバイス全体) の状態。configured または unconfigured
タイプ		ボードのタイプ。CPU
状態		ボードの状態。ok、unknown、failed、unusable のどれか
情報		このボードタイプの一般的な情報。 powered-on、assigned など

表 5-1 CPU/ メモリボードの接続点属性 (続き)

属性	規則 (ある場合)	説明
構成日時		このボードがドメインに構成された日時
ビジー		状態、可用性、条件の面で何らかの変化を伴う操作が進行中のときは y、そのような操作が進行中でないときは n
物理 ID		物理接続点 ID。 /devices/pseudo/dr@0:SBx の形式で、x はボードが装着されているセンタープレーンのスロットの番号 (0 ~ 17)

PCI/PCI+/cPCI/hPCI 入出力ボード

表 5-2 は、PCI/PCI+/cPCI/hPCI IO 入出力ボードの接続点属性を簡単にまとめています。Sun Fire Midrange Systems の場合、このテーブルには、PCI、PCI+、および cPCI 入出力ボードの属性のみ示されます。Sun Fire 上位システムの場合は、hPCI および hPCI+ 入出力カードの属性のみ表示されます。

表 5-2 PCI/PCI+/cPCI/hPCI/hPCI+ 入出力ボードの接続点属性

属性	規則 (ある場合)	説明
一意の接続点 ID		cfgadm から得られた一意の論理接続点 ID。IOx の形式で、x はボードが装着されているセンタープレーンのスロットの番号 (0 ~ 17)
スロットの状態		スロットが使用可能かどうかの状態。assigned または unassigned
電源の状態		電源の状態。powered-on か powered-off
受容装置		受容装置の状態。connected、disconnected、empty のどれか
占有装置		占有装置 (ボードとその接続デバイス全体) の状態。configured または unconfigured
タイプ		ボードの種別。PCI_I/O_Boa、PCI+_I/O_Bo、HPCI、HPCI+ など
状態		ボードの状態。ok、unknown、failed、unusable のどれか
情報		このボードタイプの一般的な情報。powered-on、assigned など

表 5-2 PCI/PCI+/cPCI/hPCI/hPCI+ 入出力ボードの接続点属性 (続き)

属性	規則 (ある場合)	説明
構成日時		このボードがドメインに構成された日時
ビジー		状態、可用性、条件の面で何らかの変化を伴う操作が進行中のときは y、そのような操作が進行中でないときは n
物理 ID		物理接続点 ID。 /devices/pseudo/dr/@0:IOx の形式で、 x はボードが装着されているセンタープレーンのスロットの番号 (0 ~ 17)

WPCI

表 5-3 は、WPCI ボードの接続点属性を簡単にまとめています。Sun Fire Link システムの詳細は、『Sun Fire Link ファブリック管理者マニュアル』を参照してください。

表 5-3 WPCI ボードの接続点属性

属性	規則 (ある場合)	説明
一意の接続点 ID		cfgadm から得られた一意の論理接続点 ID。 IOx の形式で、 x はボードが装着されているセンタープレーンのスロットの番号 (0 ~ 17)
スロットの状態		スロットが使用可能かどうかの状態。 assigned または unassigned
電源の状態		電源の状態。 powered-on か powered-off
受容装置		受容装置の状態。 connected、 disconnected、 empty のどれか
占有装置		占有装置 (ボードとその接続デバイス全体) の状態。 configured または unconfigured
タイプ		ボードのタイプ。 WPCI
状態		ボードの状態。 ok、 unknown、 failed、 unusable のどれか
情報		このボードタイプの一般的な情報。 powered-on、 assigned など

表 5-3 WPCI ボードの接続点属性 (続き)

属性	規則 (ある場合)	説明
構成日時		このボードがドメインに構成された日時
ビジー		状態、可用性、条件の面で何らかの変化を伴う操作が進行中のときは <i>y</i> 、そのような操作が進行中でないときは <i>n</i>
物理 ID		物理接続点 ID。 /devices/pseudo/dr/@0:IO <i>x</i> の形式で、 <i>x</i> はボードが装着されているセンターブレイクのスロットの番号 (0 ~ 17)

cPCI/hPCI カード

表 5-4 は、cPCI/hPCI カードの接続点属性を簡単にまとめています。Sun Fire Midrange Systems の場合は、hPCI カードの属性のみ表示されます。Sun Fire High-End Systems システムの場合は、hPCI カードの属性のみ表示されます。

表 5-4 cPCI/hPCI の接続点属性

属性	規則 (ある場合)	説明
一意の接続点 ID		cfgadm から得られた一意の論理接続点 ID。 pci_pci0:e05b1slot0、 pcisch2:e04b1slot3 など
スロットの状態		スロットが使用可能かどうかの状態。assigned または unassigned
電源の状態		電源の状態。powered-on か powered-off
受容装置		受容装置の状態。connected、 disconnected、empty のどれか
占有装置		占有装置 (ボードとその接続デバイス全体) の状態。configured または unconfigured
タイプ		タイプ。pci-pci/hp など
状態		ボードの状態。ok、unknown、failed、 unusable のどれか
情報		一般的な情報。unknown など

表 5-4 cPCI/hPCI の接続点属性 (続き)

属性	規則 (ある場合)	説明
構成日時		このボードがドメインに構成された日時
ビジー		状態、可用性、条件の面で何らかの変化を伴う操作が進行中のときは y、そのような操作が進行中でないときは n
物理 ID		物理接続点 ID。 /devices/pci@9d,7000000:e04b1slot3 など

SCSI

表 5-5 は、SCSI の接続点属性を簡単にまとめています。

表 5-5 SCSI の接続点属性

属性	規則 (ある場合)	説明
一意の接続点 ID		cfgadm から得られた一意の論理接続点 ID。 pcisch3:e04b1slot2
スロットの状態		スロットが使用可能かどうかの状態。assigned または unassigned
電源の状態		電源の状態。powered-on か powered-off
受容装置		受容装置の状態。connected、disconnected、empty のどれか
占有装置		占有装置 (ボードとその接続デバイス全体) の状態。configured または unconfigured
タイプ		タイプ。scsi/hp など
状態		コンポーネントの状態。ok、unknown、failed、unusable のどれか
情報		このコンポーネントの一般的な情報。unknown など
構成日時		このボードがドメインに構成された日時
ビジー		状態、可用性、条件の面で何らかの変化を伴う操作が進行中のときは y、そのような操作が進行中でないときは n
物理 ID		物理接続点 ID。 /devices/pci@9d,6000000:e04b1slot2 など

空きスロット

表 5-6 は、空きスロットの接続点属性を簡単にまとめています。

表 5-6 空きスロットの接続点属性

属性	規則 (ある場合)	説明
一意の接続点 ID		cfgadm から得られた一意の論理接続点 ID。 pcisch0:e17b1slot1 など
スロットの状態		スロットが使用可能かどうかの状態。assigned または unassigned
電源の状態		電源の状態。powered-on か powered-off
受容装置		受容装置の状態。connected、disconnected、 empty のどれか
占有装置		占有装置 (ボードとその接続デバイス全体) の状 態。configured または unconfigured
タイプ		ボードのタイプ。unknown
状態		コンポーネントの状態。ok、unknown、failed、 unusable のどれか
情報		このボードタイプの一般的な情報。assigned ま たは unknown
構成日時		このスロットがドメインに構成された日時
ビジジー		状態、可用性、条件の面で何らかの変化を伴う操 作が進行中でないときは n
物理 ID		物理接続点 ID。 /devices/pci@9d,6000000:e17b1slot1 など

MaxCPU

表 5-7 は、MaxCPU ボードの接続点属性を簡単にまとめています。この属性テーブルは、Sun Fire High-End Systems システムの場合にだけ表示されます。

表 5-7 Sun Fire High-End Systems システムの MaxCPU ボードの接続点属性

属性	規則 (ある場合)	説明
一意の接続点 ID		cfgadm から得られた MaxCPU ボードの一意の論理接続点 ID
スロットの状態		スロットが使用可能かどうかの状態。assigned または unassigned
電源の状態		電源の状態。powered-on か powered-off
受容装置		受容装置の状態。connected、disconnected、empty のどれか
占有装置		占有装置 (ボードとその接続デバイス全体) の状態。configured または unconfigured
タイプ		ボードのタイプ。MCPU
状態		ボードの状態。ok、unknown、failed、unusable のどれか
情報		このボードタイプの一般的な情報。powered-on、assigned など
構成日時		このボードがドメインに構成された日時
ビジー		状態、可用性、条件の面で何らかの変化を伴う操作が進行中のときは y、そのような操作が進行中でないときは n
物理 ID		MaxCPU ボードの物理的な接続点 ID

動的接続点

動的接続点とは、システムボード上の、CPU、メモリ、入出力デバイスなどのコンポーネントを意味します。こうした動的接続点は、DR ドライバによって作成されます。DR ドライバについての詳細は、『Sun Solaris 8 (または 9) Reference Manual Collection』の dr(7D) マニュアルページを参照してください。動的接続点テーブルは、以下のタイプのコンポーネントに関する情報を提供します。

- CPU
- メモリ
- 入出力
- SCSI コンポーネント

CPU コンポーネント

表 5-8 は、CPU コンポーネントの動的接続点属性を簡単にまとめています。

表 5-8 CPU コンポーネントの動的接続点属性

属性	規則 (ある場合)	説明
一意の接続点 ID		cfgadm から得られた一意の論理接続点 ID。 SBx::cpu y の形式で、 x はボードが装着されているセンタープレーンのスロット番号 (0 ~ 17)、 y は CPU 番号 (0 ~ 3)
スロットの状態		スロットが使用可能かどうかの状態。assigned または unassigned
電源の状態		電源の状態。powered-on か powered-off
受容装置		受容装置の状態。connected
占有装置		占有装置 (ボードとその接続デバイス全体) の状態。configured または unconfigured
タイプ		コンポーネントタイプ。CPU
状態		コンポーネントの状態。ok、unknown、 failed、unusable のどれか
情報		この CPU タイプの一般的な情報。cpuid 2、 speed 750 MHz、ecache 8 MBytes など。この フィールドについては、『Solaris 8 (または 9) Reference Manual Collection』の cfgadm_sbd(1M) のマニュアルページを参照
構成日時		このコンポーネントがドメインに構成された日時
ビジネ		状態、可用性、条件の面で何らかの変化を伴う操作が進行中のときは y 、そのような操作が進行中でないときは n
物理 ID		物理接続点 ID。 /devices/pseudo/dr@0:SBx::cpu y の形式 で、 x はボードが装着されているセンタープレーンの スロット番号 (0 ~ 17)、 y は CPU 番号 (0 ~ 3)

メモリコンポーネント

表 5-9 は、メモリコンポーネントの動的接続点属性を簡単にまとめています。

表 5-9 メモリコンポーネントの動的接続点属性

属性	規則 (ある場合)	説明
一意の接続点 ID		cfgadm から得られた一意の論理接続点 ID。 SBx::memory の形式で、x はボードが装着されているセンタープレーンスロットの番号 (0 ~ 17)
スロットの状態		スロットが使用可能かどうかの状態。assigned または unassigned
電源の状態		電源の状態。powered-on か powered-off
受容装置		受容装置の状態。connected
占有装置		占有装置 (ボードとその接続デバイス全体) の状態。configured または unconfigured
タイプ		コンポーネントタイプ。memory
状態		コンポーネントの状態。ok、unknown、 failed、unusable のどれか
情報		このメモリタイプの一般的な情報。base address 0x0、2097 152 KBytes total、 420920 KBytes permanent など。このフィールドについては、『Solaris 8 (または 9) Reference Manual Collection』の cfgadm_sbd(1M) のマ ニュアルページを参照
構成日時		このコンポーネントがドメインに構成された日時
ビジー		状態、可用性、条件の面で何らかの変化を伴う操 作が進行中のときは y、そのような操作が進行中 でないときは n
物理 ID		物理接続点 ID。 /devices/pseudo/dr@0:SBx::memory の形式 で、x はボードが装着されているセンタープレー ンスロットの番号 (0 ~ 17)

入出力コンポーネント

表 5-10 は、入出力コンポーネントの動的接続点属性を簡単にまとめています。

表 5-10 入出力コンポーネントの動的接続点属性

属性	規則 (ある場合)	説明
一意の接続点 ID		cfgadm から得られた一意の論理接続点 ID。 NO.IBx::pciy の形式で、x はボードが装着されているセンタープレーンのスロット番号 (0 ~ 17)、y は PCI 番号 (0 ~ 3)
スロットの状態		スロットが使用可能かどうかの状態。assigned または unassigned
電源の状態		電源の状態。powered-on か powered-off
受容装置		受容装置の状態。connected
占有装置		占有装置 (ボードとその接続デバイス全体) の状態。configured または unconfigured
タイプ		コンポーネントタイプ。io
状態		コンポーネントの状態。ok、unknown、 failed、unusable のどれか
情報		この io タイプの一般的な情報。 device/pci@23d,700000 referenced など。 このフィールドについては、『Solaris 8 (または 9) Reference Manual Collection』の cfgadm_sbd(1M) のマニュアルページを参照
構成日時		このコンポーネントがドメインに構成された日時
ビジー		状態、可用性、条件の面で何らかの変化を伴う操作が進行中のときは y、そのような操作が進行中でないときは n
物理 ID		物理接続点 ID。 /devices/pseudo/dr@0:IOx::pciy の形式 で、x はボードが装着されているセンタープレーンの スロット番号 (0 ~ 17)、y は PIC 番号 (0 ~ 3)

SCSI コンポーネント

表 5-11 は、SCSI コンポーネントの動的接続点属性を簡単にまとめています。

表 5-11 SCSI コンポーネントの動的接続点属性

属性	規則 (ある場合)	説明
一意の接続点 ID		cfgadm から得られた SCSI コンポーネントの一意の論理接続点 ID
スロットの状態		スロットが使用可能かどうかの状態。assigned または unassigned
電源の状態		電源の状態。powered-on か powered-off
受容装置		受容装置の状態。connected
占有装置		占有装置 (ボードとその接続デバイス全体) の状態。configured または unconfigured
タイプ		コンポーネントタイプ。disk、CD-ROM、tape のどれか
状態		コンポーネントの状態。ok、unknown、failed、unusable のどれか
情報		このタイプの一般的な情報
構成日時		このコンポーネントがドメインに構成された日時
ビジー		状態、可用性、条件の面で何らかの変化を伴う操作が進行中のときは y、そのような操作が進行中でないときは n
物理 ID		SCSI コンポーネントの物理的な接続点 ID

ドメインからの DR 操作

この節では、Sun Management Center 3.5 の DR モジュールを使って、Sun Fire ドメインから DR 操作を行う方法を説明します。ドメインからのすべての DR 操作は、cfgadm(1M) コマンドに依存しています。cfgadm(1M) コマンドのさまざまなオプションについては、『Sun Solaris 8 (または 9) Reference Manual Collection』のコマンドの説明を参照してください。

Sun Fire のドメインには、論理的な側面と物理的な側面の両方があります。

- 「論理」ドメインは、特定のドメインに所属するものとしてグループ化されたスロットの集まりです。スロットには、システムボードが存在することもあれば、存在しないものもあります。

- 「物理」ドメインは、物理的に相互接続された、論理ドメイン内のボードの集まりです。

占有されているか空いているかに関係なく、スロットは論理ドメインのメンバーになることができますが、物理ドメインの構成要素になることはありません。起動後、ボードまたは空きスロットは、論理ドメインに割り当てたり、論理ドメインから割り当て解除したりできます。Solaris オペレーティング環境からの要求があると、ボードは物理ドメインの構成要素になります。空きスロットが物理ドメインの構成要素になることはありません。

この節では、以下に挙げる、ドメインからの DR およびその他の管理操作について説明します。

- ボードの割り当て
- ボードの割り当て解除
- ボードのアタッチ
- ボードのデタッチ
- ボードの接続
- ボードの切断
- ボードまたはコンポーネントの構成
- ボード、コンポーネント、メモリの構成解除
- ボードの電源オン
- ボードの電源オフ
- ボードのテスト
- 状態の表示

サポートされている cfgadm のオプション

表 5-12 は、DR モジュールがサポートする `cfgadm(1M)` のオプションの一覧です。`cfgadm(1M)` コマンドのさまざまなオプションについては、『Sun Solaris 8 (または 9) Reference Manual Collection』のコマンドの説明を参照してください。

表 5-12 DR がサポートする `cfgadm` のオプション

cfgadm のオプション	Sun Management Center の GUI メニュー項目	説明
<code>-c configure</code>	アタッチ	ボードをアタッチ
<code>-c disconnect</code>	デタッチ	ボードをデタッチ
<code>-x assign</code>	割り当て	ボードを割り当て
<code>-c disconnect</code>	割り当て解除	ボードを割り当て解除
<code>-x unassign</code>		
<code>-c connect</code>	接続	ボードを接続
<code>-c disconnect</code>	切断	ボードを切断

表 5-12 DR がサポートする cfigadm のオプション (続き)

cfgadm のオプション	Sun Management Center の GUI メニュー項目	説明
-c configure	構成	ボードまたはコンポーネントを構成
-c unconfigure	構成解除	ボードまたはコンポーネントを構成解除
-x poweron	電源オン	ボードの電源をオンにする
-x poweroff	電源オフ	ボードの電源をオフにする
-t	テスト	ボードをテスト

ドメインからのドメイン情報の表示

Sun Fire のドメインから DR 操作を行うときは、「ハードウェア」タブにある DR モジュールの接続点と動的接続点テーブルを表示します。

ボードがドメインの ACL に登録されていることの確認

ドメインからシステムボードに対して DR 操作を行うには、そのボードがドメインの ACL リストに登録されている必要があります。

ボードの割り当て

この操作により、システムボードが論理ドメインに追加されます。

▼ ボードを割り当てる

1. esadm グループのメンバーとして、システムボードの割り当て先のドメインにログインします。
2. 適切なボードテーブル内の、割り当てるボードの一意的接続点 ID を右クリックします。

ボード操作のメニューが表示されます。

3. メニューから「割り当て」をクリックします。

次のメッセージの入った「割り当て」確認ボックスが表示されます。

```
Assign a slot.  
Are you sure you want to assign?
```

4. 選択したボードを割り当てる場合は、「了解」ボタンをクリックします。割り当てない場合は、「取消し」ボタンをクリックして、割り当て操作を取り消します。

ボードの割り当て解除

この操作により、システムボードが論理ドメインから削除されます。

▼ ボードを割り当て解除する

1. esadm グループのメンバーとして、割り当て解除するシステムボードが存在するドメインにログインします。
2. 適切なボードテーブル内の、割り当て解除するボードの一意の接続点 ID を右クリックします。
ボード操作のメニューが表示されます。
3. メニューから「割り当て解除」をクリックします。

次のメッセージの入った「割り当て解除」確認ボックスが表示されます。

```
Unassign.  
Are you sure you want to unassign?
```

4. 選択したボードを割り当て解除する場合は、「了解」ボタンをクリックします。割り当て解除しない場合は、「取消し」ボタンをクリックして、割り当て解除操作を取り消します。

システムボードのアタッチ

ボードのアタッチ機能は、特定のドメインで動作している Solaris オペレーティング環境に指定されたシステムボードをアタッチします。この操作では、DR モジュールによって一連の処理が自動的に行われます。

- 論理ドメインへのシステムボードの割り当て

- システムボードの電源オン
- システムボードのテスト
- システムコントローラ経由でのドメインへのシステムボードの物理的な接続
- ドメイン上で動作する Solaris オペレーティング環境でのシステムボード上のコンポーネントの構成。この処理によって、ドメイン上で動作するアプリケーションは、それらのコンポーネントを利用できるようになります。

システムボードとその他のコンポーネントの初期状態によっては、あるいはハードウェア上の問題によってアタッチ操作が正常終了しない場合、一部の自動処理は行われません。

▼ システムボードをアタッチする

1. esadm グループのメンバーとして、システムボードのアタッチ先のドメインにログインします。
2. 適切なボードテーブル内の、アタッチするシステムボードの一意的接続点 ID を右クリックします。
ボード操作のメニューが表示されます。
3. メニューから「アタッチ」をクリックします。
次のメッセージの入った「アタッチ」確認ボックスが表示されます。

```
Attach a board.
Attach will connect and configure the selected board.
Are you sure you want to attach?
```

4. 選択したボードをアタッチする場合は、「了解」ボタンをクリックします。アタッチしない場合は、「取消し」ボタンをクリックして、アタッチ操作を取り消します。

システムボードのデタッチ

ボードのデタッチ機能は、特定のドメインで動作している Solaris オペレーティング環境から指定されたシステムボードをデタッチします。この操作では、DR モジュールによって一連の処理が自動的に行われます。

- ドメイン上で動作する Solaris オペレーティング環境でのシステムボード上のコンポーネントの構成解除。この処理によって、ドメイン上で動作するアプリケーションは、それらのコンポーネントを利用できなくなります。
- システムコントローラとの通信を通じての、ドメインからのシステムボードの物理的な切断。これ以降、システムボードは論理ドメインの構成要素ではありませんが、物理ドメインの構成要素ではなくなります。
- システムボードの電源オフ

システムボードとその他のコンポーネントの初期状態によっては、あるいはハードウェア上の問題によってデタッチ操作が正常終了しない場合、一部の自動処理は行われません。

▼ システムボードをデタッチする

1. esadm グループのメンバーとして、デタッチするシステムボードが存在するドメインにログインします。
2. 適切なボードテーブル内の、デタッチするシステムボードの一意的接続点 ID を右クリックします。
ボード操作のメニューが表示されます。
3. メニューから「デタッチ」をクリックします。
「デタッチ」確認ボックス (図 5-2) が表示されます。

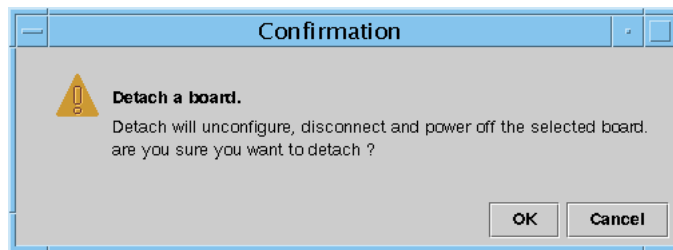


図 5-2 「デタッチ」確認ボックス

4. 選択したボードをデタッチする場合は、「了解」ボタンをクリックします。デタッチしない場合は、「取消し」ボタンをクリックして、デタッチ操作を取り消します。

ボードの接続

この操作により、以下の処理が行われます。

- 論理ドメインへのシステムボードの割り当て (ボードが使用可能で、論理ドメインの構成要素でない場合)
- システムボードの電源オン
- システムボードのテスト
- 物理ドメインへのシステムボードの接続

▼ システムボードを接続する

1. esadm グループのメンバーとして、システムボードの接続先のドメインにログインします。
2. 適切なボードテーブル内の、接続するシステムボードの一意の接続点 ID を右クリックします。
ボード操作のメニューが表示されます。
3. メニューから「接続」をクリックします。
次のメッセージの入った「接続」確認ボックスが表示されます。

Connect
Are you sure you want to connect?

4. 選択したボードを接続する場合は、「了解」ボタンをクリックします。接続しない場合は、「取消し」ボタンをクリックして、接続操作を取り消します。

注 – Sun Fire High-End Systems では、「中止」ボタンをクリックすると、完全に操作を中止できます。

ボードの切断

この操作により、以下の処理が行われます。

- システムボードの構成解除 (必要な場合)
- 物理ドメインからのシステムボードの切断

▼ SCSI ボード以外のシステムボードを切断する

1. esadm グループのメンバーとして、切断するシステムボードが存在するドメインにログインします。
2. 適切なボードテーブル内の、切断するシステムボードの一意の接続点 ID を右クリックします。
ボード操作のメニューが表示されます。
3. メニューから「切断」をクリックします。
「切断」パネル (図 5-3) が表示されます。

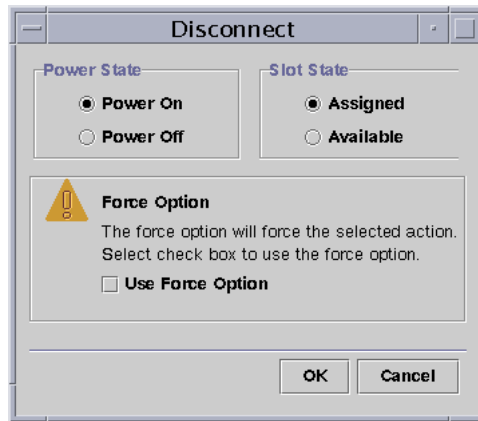


図 5-3 「切断」パネル

- 適切な「電源の状態」オプションのラジオボタンをクリックします。切断後、ボードは指定された電源状態になります。
- 適切な「スロットの状態」オプションのラジオボタンをクリックします。切断後、ボードは指定された電源状態になります。
- 切断操作を強制的に行う場合は、「強制オプションを使用する」チェックボックスをクリックします。強制的に行わない場合は、「強制オプションを使用する」チェックボックスを空白のままにしておきます。
- 選択したボードを切断する場合は、「了解」ボタンをクリックします。切断しない場合は、「取消し」ボタンをクリックして、切断操作を取り消します。

注 – Sun Fire High-End Systems では、「中止」ボタンをクリックすると、完全に操作を中止できます。

▼ SCSI ボードを切断する

esadm グループのメンバーとして、切断する SCSI ボードがあるドメインにログインします。

- 適切なボードテーブル内の、切断する SCSI ボードの一意の接続点 ID を右クリックします。
ボード操作のメニューが表示されます。

2. メニューから「切断」をクリックします。

次のメッセージの入った「切断」パネルが表示されます。

```
Disconnect
Are you sure you want to continue?
```

3. 選択した SCSI ボードを切断する場合は、「了解」ボタンをクリックします。切断しない場合は、「取消し」ボタンをクリックして、切断操作を取り消します。

ボード、コンポーネント、メモリの構成

この操作により、以下の処理が行われます。

- システムボードの接続 (必要な場合)
- ドメイン上で動作する Solaris オペレーティング環境でのシステムボードまたはボード上のコンポーネントかメモリの構成。この処理によって、ドメイン上で動作するアプリケーションがボード、ボード上のコンポーネント、またはボード上のメモリを利用できるようになります。

▼ システムボード、コンポーネント、またはメモリを構成する

1. esadm グループのメンバーとして、システムボードかコンポーネント、メモリの構成先のドメインにログインします。
2. 適切なボードテーブル内の、構成するシステムボード、コンポーネント、またはメモリの一意の接続点 ID を右クリックします。
ボード、コンポーネント、またはメモリ操作のメニューが表示されます。
3. メニューから「構成」をクリックします。
次のメッセージの入った「構成」確認ボックスが表示されます。

```
Configure
Are you sure you want to configure?
```

4. 選択したボード、コンポーネント、またはメモリを構成する場合は、「了解」ボタンをクリックします。構成しない場合は、「取消し」ボタンをクリックして、構成操作を取り消します。

注 – Sun Fire High-End Systems では、「中止」ボタンをクリックすると、完全に操作を中止できます。

ボード、コンポーネント、メモリの構成解除

構成解除機能は、システムコントローラ、またはボード上のコンポーネント、メモリを構成解除します。この処理により、ドメイン上で動作するアプリケーションは、ボード、コンポーネント、またはメモリを利用できなくなります。

▼ システムボードまたはコンポーネントを構成解除する

1. esadm グループのメンバーとして、構成解除するシステムボードまたはコンポーネントがあるドメインにログインします。
2. 適切なボードテーブル内の、構成解除するシステムボードまたはコンポーネントの一意の接続点 ID を右クリックします。
ボードまたはコンポーネントの操作メニューが表示されます。
3. メニューから「構成解除」をクリックします。
次のメッセージの入った「構成解除」パネルが表示されます。

```
Select Force Option
The force option will force the selected action.
Select check box to use the force option.
```

4. 構成解除操作を強制的に行う場合は、「強制オプションを使用する」チェックボックスを選択します。強制的に行わない場合は、「強制オプションを使用する」チェックボックスを空白のままにしておきます。
5. 選択したボードまたはコンポーネントを構成解除する場合は、「了解」ボタンをクリックします。構成解除しない場合は、「取消し」ボタンをクリックして、構成解除操作を取り消します。

注 – Sun Fire High-End Systems では、「中止」ボタンをクリックすると、完全に操作を中止できます。

▼ メモリを構成解除する

1. esadm グループのメンバーとして、構成解除するメモリがあるドメインにログインします。
2. 適切なボードテーブル内の、構成解除するメモリコンポーネントの一意的接続点 ID を右クリックします。
メモリコンポーネントの操作メニューが表示されます。
3. メニューから「構成解除」をクリックします。
「メモリの構成解除」パネル (図 5-4) が表示されます。

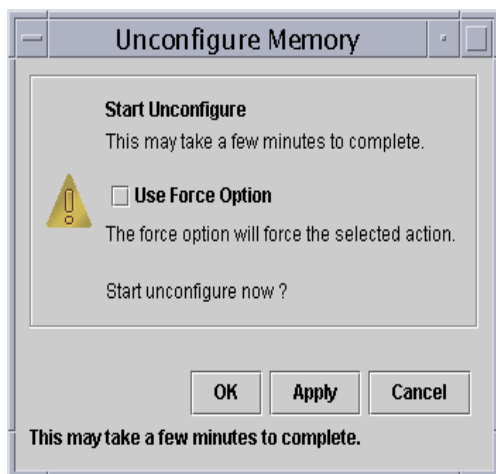


図 5-4 「メモリの構成解除」パネル

4. 構成解除操作を強制的に行う場合は、「強制オプションを使用する」チェックボックスを選択します。強制的に行わない場合は、「強制オプションを使用する」チェックボックスを空白のままにしておきます。
5. メモリの構成解除を開始する場合は、「了解」ボタンをクリックします。構成解除しない場合は、「取消し」ボタンをクリックして、構成解除操作を取り消します。

ボードの電源オン

ボードの電源オン機能は、システムボードの電源をオンにします。テストするシステムボードは、論理ドメインに割り当てられている必要がありますが、物理ドメインの構成要素である必要はありません。

▼ ボードの電源をオンにする

1. esadm グループのメンバーとして、電源をオンにするシステムボードがあるドメインにログインします。
2. 適切なボードテーブル内の、電源をオンにするシステムボードの一意の接続点 ID を右クリックします。
ボード操作のメニューが表示されます。
3. メニューから「電源オン」をクリックします。
次のメッセージの入った「電源オン」確認ボックスが表示されます。

```
Power On a board.  
Are you sure you want to power on?
```

4. システムボードの電源をオンにする場合は、「了解」ボタンをクリックします。オンにしない場合は、「取消し」ボタンをクリックして、電源オン操作を取り消します。

ボードの電源オフ

ボードの電源オフ機能は、システムボードの電源をオフにします。テストするシステムボードは、論理ドメインに割り当てられている必要がありますが、物理ドメインの構成要素である必要はありません。

▼ ボードの電源をオフにする

1. esadm グループのメンバーとして、電源をオフにするシステムボードがあるドメインにログインします。
2. 適切なボードテーブル内の、電源をオフにするシステムボードの一意の接続点 ID を右クリックします。
ボード操作のメニューが表示されます。
3. メニューから「電源オフ」をクリックします。
次のメッセージの入った「電源オフ」確認ボックスが表示されます。

```
Power Off a board.  
Are you sure you want to power off?
```

4. システムボードの電源をオフにする場合は、「了解」ボタンをクリックします。オフにしない場合は、「取消し」ボタンをクリックして、電源オフ操作を取り消します。

ボードのテスト

ボードのテスト機能は、システムボードをテストします。テストするシステムボードは、論理ドメインに割り当てられている必要がありますが、物理ドメインの構成要素である必要はありません。

▼ ボードをテストする

1. esadm グループのメンバーとして、テストするシステムボードが存在するドメインにログインします。
2. 適切なボードテーブル内の、テストするシステムボードの一意の接続点 ID を右クリックします。

ボード操作のメニューが表示されます。

3. メニューから「テスト」をクリックします。

「ボードのテスト」パネル (図 5-5) が表示されます。

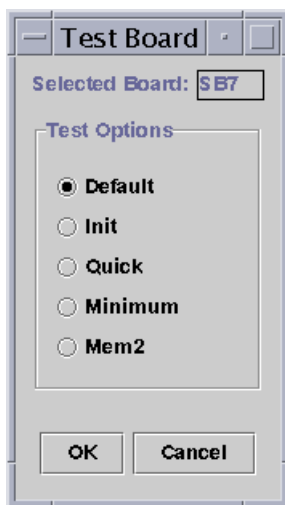


図 5-5 「ボードのテスト」パネル

4. テストオプション横のラジオボタンをクリックします。

5. 適切なボードと適切なオプションを選択したことを確認したら、「了解」ボタンをクリックして、テストを開始します。テストしない場合は、「取消し」ボタンをクリックして、テストを取り消します。

注 – Sun Fire High-End Systems では、「中止」ボタンをクリックすると、完全に操作を中止できます。

状態の表示

状態の表示機能は、ボードまたはスロットに対して最後に実行された DR 関係のコマンドの状態を表示します。この状態表示は、現在実行されているコマンドの状態に基づいて動的に更新されます。実行中のコマンドがエラーで停止した場合は、`cfgadm(1M)` プログラムからエラーメッセージが表示されます。ただし、コマンドが実行されていないか、コマンドがエラーなしで終了した場合は、「No status from the agent」というメッセージが表示されます。

▼ 状態を表示する

1. `esadm` グループのメンバーとして、状態を表示するシステムボードまたはスロットがあるドメインにログインします。
2. 適切なボードテーブル内の、状態を表示するシステムボードまたはスロットの一意的接続点 ID を右クリックします。
ボードまたはスロットの操作メニューが表示されます。
3. メニューにある「状態の表示」をクリックします。

「状態の表示」ダイアログボックスが表示され、最新の DR コマンドの実行状態が示されます (コマンドが実行されている場合)。

このとき、DR 処理で問題が発生した場合は、状態として、図 5-6 に示すようなメッセージが表示されます。



図 5-6 ドメインの DR 操作に関する状態の表示 (異常終了の場合)

構成処理が正常終了するか、コマンドが実行されていない場合は、図 5-7 に示すメッセージが表示されます。

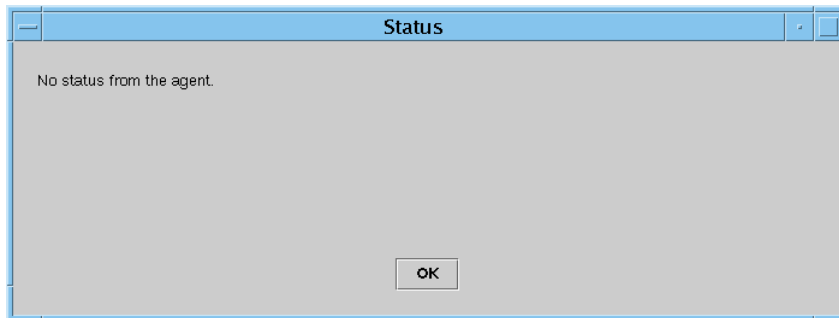


図 5-7 ドメインの DR 操作に関する状態の表示 (異常終了の場合)

4. 状態の表示を確認したら、「了解」ボタンをクリックします。

付録 A

CLI による Sun Management Center ソフトウェアのインストールとセットアップ、アンインストール、起動、停止

この付録では、CLI から Sun Management Center ソフトウェアをインストール、セットアップ、アンインストール、起動、停止する方法を説明します。詳細は、『Sun Management Center 3.5 インストールと構成ガイド』を参照してください。

ソフトウェアのインストール

まず、システムに Sun Management Center 3.5 ソフトウェアのインストールを行います。Sun Management Center 3.5 ソフトウェアのインストールについては、『Sun Management Center 3.5 インストールと構成ガイド』を参照してください。

また、システムには、必要なパッチがすべてインストールされている必要があります。

▼ CLI を使用して補助ソフトウェアをインストールする

1. Sun Fire 用の補助ソフトウェアだけインストールする場合は、Sun Fire Midrange Systems 用のアドオンソフトウェアがインストールされている `sbin` ディレクトリ内で `es-inst` コマンドを実行します。

`es-inst` スクリプトからソースディレクトリの入力が必要です。

2. ソースディレクトリを入力します。

es-inst コマンドとそのオプションについての詳細は、『Sun Management Center 3.5 インストールと構成ガイド』を参照してください。



注意 – ベース Sun Management Center 3.5 ソフトウェアパッケージがインストール済みで、Sun Fire 補助ソフトウェアだけインストールする場合は、セットアップの開始を促すメッセージが表示されたときに n (いいえ) を入力してください。y (はい) を入力すると、セキュリティーキーなどの、カスタマイズした設定情報が失われることがあります。

注 – Sun Management Center 3.5 ソフトウェアパッケージをフルインストールする場合は、インストール手順の最後でセットアップスクリプトを使用できます。そのとき、セットアップスクリプトを実行しないで、後で実行することもできます。セットアップスクリプト (es-setup) はパス/sbin ディレクトリ内にあります。パスは Sun Management Center がインストールされているディレクトリです。セットアップスクリプトによる設定では、プラットフォームエージェントをはじめとする、Sun Management Center のすべてのエージェントが設定されます。

3. Sun Fire Midrange Systems のプラットフォーム管理に使用するすべてのシステム (エージェントマシン) に Sun Management Center 3.5 ソフトウェアパッケージをインストールします。上記手順 1 の注意と注を参照してください。

以下のメッセージが表示されます。

```
-----  
Sun Management Center Product Selection  
-----
```

```
The following Add-On Products are available for your selection:  
-----
```

```
Sun Fire Domain Administration  
Dynamic Reconfiguration for Sun Fire High-End and Midrange platforms  
Sun Fire Platform Administration
```

```
Do you want to install the product: Sun Fire Domain Administration? [y|n|q]  
Do you want to install the product: Dynamic Reconfiguration for Sun Fire High-End  
and Midrange platforms? [y|n|q]  
Do you want to install the product: Sun Fire Platform Administration? [y|n|q]  
-----
```


4. インストールする製品ごとに **y** と入力します。

すべてのアドオンソフトウェアに対して **y** と入力した場合は、次のメッセージが表示されます。

```
-----  
The following Add-On Products will be installed:  
Sun Fire Domain Administration  
Dynamic Reconfiguration for Sun Fire High-End and Midrange platforms  
Sun Fire Platform Administration  
  
Do you want to proceed? [y|n|q]  
-----
```

5. **y** と入力して、アドオン製品のインストールに進みます。

CLI による Sun Fire Midrange Systems 用プラットフォーム管理モジュールの設 定

このソフトウェアを設定する前に、以下のことを行う必要があります。

- SC のフェイルオーバー機能を使用する場合は、その機能を有効にする - 23 ページの「SC のフェイルオーバー機能の有効化」を参照。
- システムコントローラ上の SNMP を設定する - 24 ページの「システムコントローラ上の SNMP の設定」を参照。

この設定作業は、以下の 3 つの作業で構成されます。

- システムコントローラの設定 - 181 ページの「CLI による Sun Fire Midrange Systems 用プラットフォーム管理モジュールの設定」を参照
- エージェント階層の設定 - 182 ページの「エージェントマシンで Sun Fire Midrange Systems 用プラットフォーム管理モジュールをセットアップする。」を参照
- サーバ階層の設定 - 183 ページの「サーバ上の Sun Fire Midrange Systems 用プラットフォーム管理モジュールのサーバ階層だけを設定する」を参照

エージェントとサーバ階層の設定

ここでは、エージェントとサーバ階層の設定の方法を説明しています。

▼ エージェントマシンで Sun Fire Midrange Systems 用プラットフォーム管理モジュールをセットアップする。

エージェントマシンにサーバとエージェントの両方の階層がインストールされている場合、以下の手順で自動的に両方の階層を設定します。

1. `su` コマンドでスーパーユーザになります。
2. `PUn_path/addons/SunFirePltAdmin/sbin` ディレクトリに移動します。この場合の `n` は、Platform Update の番号、`PUn_path` は、Sun Management Center ソフトウェアがインストールされているディレクトリです。

たとえば、`/opt/SUNwsymon` に Sun Management Center ソフトウェアがインストールされている場合は、`/opt/SUNwsymon/addons/SunFirePltAdmin/sbin` ディレクトリに移動します。

3. `es-setup.sh` スクリプトを実行します。

デフォルトのプラットフォームエージェントのインスタンスに対してこのモジュールの設定を行うには、以下を入力します。

```
# ./es-setup.sh
```

スクリプトから以下の情報の入力が必要です。

- Sun Fire Midrange Systems コントローラの IP アドレス
- システムコントローラとすべてのドメインに対する書き込みコミュニティ文字列。スクリプトがシステムコントローラからドメインのアドレスを取得できない場合は、すべてのドメインの IP アドレスの入力が必要です。
- すべてのドメインの Sun Management Center エージェントのポート番号

参考 – 上記の設定で提供した情報を変更するには、このスクリプトを再実行します。

Sun Management Center ソフトウェアには、`platform` という名前のプラットフォームエージェントが 1 つ用意されています。

モジュールの設定を完了すると、適切なエージェントを起動できます。起動方法についての詳細は、193 ページの「CLI による Sun Management Center ソフトウェアの起動」を参照してください。

▼ サーバ上の Sun Fire Midrange Systems 用プラットフォーム管理モジュールのサーバ階層だけを設定する

ここでは、サーバ階層だけを設定する手順を説明します。サーバ上のサーバ、エージェント、コンソール階層の設定については、182 ページの「エージェントマシンで Sun Fire Midrange Systems 用プラットフォーム管理モジュールをセットアップする。」を参照してください。

注 - コンソールやエージェント階層を設定せずに、サーバ階層だけを設定する場合は、以下の手順で示すように `-s` オプションを使用しないと、ユーザグループは自動的に `/etc/group` に追加されません。表 A-1 のユーザグループの一覧を参照してください。

1. `su` コマンドでスーパーユーザになります。
2. `PUn_path/addons/SunFirePltAdmin/sbin` ディレクトリに移動します。この場合の `n` は、Platform Update の番号、`PUn_path` は、Sun Management Center ソフトウェアがインストールされているディレクトリです。
たとえば、`/opt/SUNWsymon` に Sun Management Center ソフトウェアがインストールされている場合は、`/opt/SUNWsymon/addons/SunFirePltAdmin/sbin` ディレクトリに移動します。
3. `-s` オプションを付けて `es-setup.sh` スクリプトを実行します。

```
# ./es-setup.sh -s
```

モジュールの設定を完了すると、適切なエージェントを起動できます。Sun Management Center 3.0 ソフトウェアには、`platform` という名前のプラットフォームエージェントが 1 つ用意されています。起動方法についての詳細は、193 ページの「CLI による Sun Management Center ソフトウェアの起動」を参照してください。

Sun Fire Midrange Systems のプラットフォームエージェントインスタンスの作成と設定

デフォルトのプラットフォーム管理モジュールは、1 つの Sun Fire Midrange Systems を監視できます。複数の Sun Fire Midrange Systems を監視するには、追加のシステムごとにプラットフォームエージェントのインスタンスを 1 つ作成する必要があります。

▼ プラットフォームエージェントのインスタンスを作成する

1. su コマンドでスーパーユーザになります。
2. Sun Management Center ソフトウェアがインストールされているディレクトリに移動します。

たとえば、`/opt/SUNWsymon` に Sun Management Center ソフトウェアがインストールされている場合は、`/opt/SUNWsymon/sbin` ディレクトリに移動します。

3. `es-platform` スクリプトを実行します。

```
# ./es-platform -a instanceName
```

`instanceName` は、新しいプラットフォームエージェントのインスタンスの名前です。

このスクリプトにより、新しいプラットフォームのポート番号とセキュリティーシードの入力が求められます。Sun Management Center サーバの設定でデフォルト以外のシードを使用した場合は、このエージェントに対して、そのシードを指定してください。

▼ 新しいプラットフォームエージェントのインスタンスに対する Sun Fire Midrange Systems 用プラットフォーム管理モジュールを設定する

1. `su` コマンドでスーパーユーザになります。
2. Sun Management Center ソフトウェアがインストールされているディレクトリに移動します。

たとえば、`/opt/SUNWsymon` に Sun Management Center ソフトウェアがインストールされている場合は、`/opt/SUNWsymon/addons/SunFirePltAdmin/sbin` ディレクトリに移動します。

3. 以下を入力します。

```
# ./es-setup.sh -I instanceName
```

`instanceName` は、新しいプラットフォームエージェントのインスタンスの名前です。

`es-setup.sh` スクリプトから以下の情報の入力が必要です。

- Sun Fire Midrange Systems コントローラの IP アドレス
- システムコントローラとすべてのドメインに対する書き込みコミュニティ文字列。スクリプトがシステムコントローラからドメインのアドレスを取得できない場合は、すべてのドメインの IP アドレスの入力が必要です。
- すべてのドメインの Sun Management Center エージェントのポート番号

注 – 上記の設定で提供した情報を変更するには、このスクリプトを再実行します。

モジュールの設定を完了すると、適切なエージェントを起動できます。起動方法についての詳細は、193 ページの「CLI による Sun Management Center ソフトウェアの起動」を参照してください。

▼ 管理者およびオペレータグループにユーザを割り当てる

ユーザのユーザ名が `esusers` ファイルに登録されていない場合は、Sun Fire Midrange Systems にログオンし、ドメイン管理エージェントに対して読み取り専用でアクセスできます。プラットフォームエージェントの下でプラットフォームまたはドメイン情報の読み取りと書き込みを行うには、サーバ上の `group` にもユーザ名が登録されている必要があります。

この設定手順では、Sun Fire Midrange Systems のサーバ上に最大 10 個のグループを作成できます。それらのグループは次のとおりです。

表 A-1 ユーザグループ

グループ名	ユーザカテゴリ	アクセスのタイプ
spltadm	管理者	プラットフォーム
sdaadm	管理者	ドメイン A
sdbaadm	管理者	ドメイン B
sdcadm	管理者	ドメイン C
sddaadm	管理者	ドメイン D
spltop	オペレータ	プラットフォーム
sdaop	オペレータ	ドメイン A
sdbop	オペレータ	ドメイン B
sdcop	オペレータ	ドメイン C
sddop	オペレータ	ドメイン D

1. su コマンドでスーパーユーザになります。
2. /etc/group ファイル内の適切なグループに各ユーザを追加します。
 - Sun Fire Midrange Systems のプラットフォームの管理者がプラットフォームエージェントのプラットフォーム表示を使用してプラットフォームを管理できるようにするには、その管理者を spltadm に追加します。
 - Sun Fire Midrange Systems のドメインの管理者を適切なドメイン管理者グループに追加します。たとえば、sdaadm にドメイン管理者を追加すると、プラットフォームを使用してドメインを管理できるようになります。
3. /var/opt/SUNWsymon/cfg/esusers ファイルに各ユーザを追加します。

CLIによるソフトウェアのセットアップ

▼ Sun Management Center サーバでドメイン管理モジュールをセットアップする

- スーパーユーザで以下を入力します。

```
# ./es-setup -p SunFireDomAdmin
```

以下が表示されます。

```
-----  
This script will help you to setup Sun (TM) Management Center 3.5.  
-----  
  
Setting up Addon[s]
```

▼ プラットフォームでプラットフォーム管理モジュールをセットアップする

1. スーパーユーザで以下を入力します。

```
# ./es-setup -p SunFirePltAdmin
```

以下が表示されます。

```
-----  
This script will help you to setup Sun (TM) Management Center 3.5.  
-----
```

```
Setting up Addon[s]
```

```
For setting up Sun Fire Midrange Systems platform administration module  
you need to provide SC IP address, community strings, port numbers for domain  
agent etc.
```

```
Do you want to setup Sun Fire Midrange Systems platform administration module  
[y|n|q]
```

2. ここで、プラットフォーム管理モジュールを設定する場合は **y**、設定しない場合は **n** と入力します。

以下のいずれかが起こります。

- **n** を入力した場合は、設定スクリプトが終了します。
- **y** を入力した場合は、以下が表示されます。

```
Enter the IP address of System Controller
```

3. システムコントローラの IP アドレスを入力します (例 : 10.8.28.209)。

以下が表示されます。

```
Enter the read community for platform
```

4. プラットフォームの読み取りコミュニティ文字列を入力します (例 : P-public)。

以下が表示されます。

```
Enter the write community for platform
```

5. プラットフォームの書き込みコミュニティ文字列を入力します (例 : P-private)。

以下が表示されます。

```
Enter the write community for domainX
```

X はドメイン名を表す英字 1 字 (A ~ R) です。

6. 各ドメインについて書き込みコミュニティ文字列を入力します。たとえば、ドメイン A であれば、A-private を使用します。

すべてのドメインについて書き込みコミュニティ文字列の入力を完了すると、たとえば以下のように表示されます。

```
Please wait, Pinging the host 10.8.23.209.  
Host 10.8.38.209 is networked.  
Please wait, getting domain info from system controller  
Enter the Sun Management Center agent Port for domainX
```

X はドメイン名を表す英字 1 字 (A ~ R) です。

7. 各ドメインについてポート番号を入力します。たとえば、すべてのドメインに対して 161 を使用します。

すべてのドメインについてポート番号の入力を完了すると、以下のように表示されます。

```
Updating the configuration, Please Wait...  
Done.  
....  
....  
....  
Do you want to start Sun Management Center agent and server  
components now? [y|n|q]
```

CLI によるソフトウェアのアンインストール

CLI を使用して以下をアンインストールすることができます。

- Sun Management Center ソフトウェア全体 (190 ページの「Sun Management Center ソフトウェア全体をアンインストールする」を参照)

- Sun Fire Midrange Systems 用のアドオンソフトウェア (191 ページの「Sun Fire Midrange Systems 用アドオンソフトウェアをアンインストールする」を参照)

▼ Sun Management Center ソフトウェア全体をアンインストールする

1. スーパーユーザで以下を入力します。

```
# ./es-uninst
```

以下のメッセージが表示されます。

```
This script will help you to uninstall the Sun Management Center software.

Following Sun Management Center Products are installed:
-----

PRODUCT                                DEPENDENT PRODUCTS
-----

Production Environment                  All Addons
Sun Fire Domain Administration          None
Dynamic Reconfiguration for Sun Fire High-End and Midrange Sys  None
Sun Fire Platform Administration        None

Do you want to uninstall Production Environment? [y|n|q]
```

2. 本稼働環境をアンインストールしてもよい場合は `y` を入力します。これで、Sun Management Center ソフトウェア全体がアンインストールされます。

以下のメッセージが表示されます。

```
This will uninstall ALL Sun Management Center Products. !!!

Do you want to change selection? [y|n|q]
```

3. 以下のいずれかの操作をします。

- a. 選択内容を変更する場合は、`y` と入力します。
選択内容が表示され、手順 2 の先頭に戻ります。

- b. 選択内容を変更しない場合は、n と入力します。

以下のメッセージが表示されます。

```
Do you want to preserve database? [y|n|q]
```

注 - **y** (yes) と応答すると、開および閉状態のアラーム、読み込み済みのモジュールとその設定、検出情報、管理対象オブジェクト、規則しきい値などの、データベース内のあらゆるデータが残されます。

4. 現在のトポロジやイベントデータを残す場合は **y**、廃棄する場合は **n** を入力します。
以下のメッセージが表示されます。

```
Proceed with uninstall? [y|n|q]
```

5. アンインストールしてもよい場合は **y**、そうでない場合は **n** を入力します。

y を入力した場合は、アンインストールするパッケージの一覧が表示され、アンインストールされたパッケージ、アンインストール状況、ログファイルの場所が表示されます。

▼ Sun Fire Midrange Systems 用アドオンソフトウェアをアンインストールする

1. スーパーユーザで以下を入力します。

```
# ./es-uninst
```

以下のメッセージが表示されます。

```
This script will help you to uninstall the Sun Management Center software.

Following Sun Management Center Products are installed:
-----

PRODUCT                                DEPENDENT PRODUCTS
-----

Production Environment                    All Addons
Sun Fire Domain Administration            None
Dynamic Reconfiguration for Sun Fire High-End and Midrange Sys  None
Sun Fire Platform Administration          None

Do you want to uninstall Production Environment? [y|n|q]
```

2. 本稼働環境をアンインストールしない場合は、n と入力します。

以下のメッセージが表示されます。

```
Do you want to uninstall Sun Fire Domain Administration? [y|n|q]
Do you want to uninstall Dynamic Reconfiguration for Sun Fire High-End and
Midrange Systems? [y|n|q]
Do you want to uninstall Sun Fire Platform Administration? [y|n|q]
```

3. モジュールをアンインストールする場合は y、アンインストールしない場合は n と入力します。

アンインストールされるモジュールと以下のメッセージが表示されます。

```
Do you want to change selection? [y|n|q]
```

4. 以下のいずれかの操作をします。

a. 選択内容を変更する場合は、y を入力します。

選択内容が表示され、手順 2 の先頭に戻ります。

b. 選択内容を変更しない場合は、n と入力します。

以下のメッセージが表示されます。

```
Proceed with uninstall? [y|n|q]
```

5. アンインストールしてもよい場合は `y`、そうでない場合は `n` を入力します。

`y` を入力した場合は、アンインストールするパッケージの一覧が表示され、アンインストールされたパッケージ、アンインストール状況、ログファイルの場所が表示されます。

CLI による Sun Management Center ソフトウェアの起動

`es-start` コマンドに指定する引数は、起動するコンポーネントによって異なります。『Sun Management Center 3.5 インストールと構成ガイド』の `es-start` のオプション一覧を参照してください。この一覧は、`es-start` の `-h` オプションを使って表示することもできます。よく使われる `es-start` のオプションは、以下の手順に示すとおりです。

▼ デフォルトのプラットフォームエージェントを起動する

1. `su` コマンドでスーパーユーザになります。
2. `/sbin` ディレクトリに移動します。パスは、Sun Management Center ソフトウェアがインストールされているディレクトリです。
3. 以下を入力して、デフォルトのプラットフォームエージェントを起動します。

```
# ./es-start -l
```

▼ プラットフォームエージェントのインスタンスを起動する

1. `su` コマンドでスーパーユーザになります。
2. `/sbin` ディレクトリに移動します。パスは、Sun Management Center ソフトウェアがインストールされているディレクトリです。

3. 以下を入力して、特定のプラットフォームエージェントのインスタンスを起動します。

```
# ./es-start -y instanceName
```

たとえば、プラットフォームエージェントのインスタンスの名前が P1 の場合は、以下を入力します。

```
# ./es-start -y P1
```

▼ すべての Sun Management Center コンポーネントを起動する

1. su コマンドでスーパーユーザになります。
2. パス/sbin ディレクトリに移動します。パスは、Sun Management Center ソフトウェアがインストールされているディレクトリです。
3. 以下を入力して、コンソール以外のすべての Sun Management Center コンポーネントを起動します。

```
# ./es-start -A
```

Sun Management Center コンポーネントの停止

es-stop コマンドは停止するコンポーネントによって使用するオプションが異なります。『Sun Management Center 3.5 インストールと構成ガイド』の es-stop のオプションのリストを参照してください。-h オプションを使用するとすべてのオプションの説明が表示されます。以降で説明する手順では、いくつかの一般的なオプションを使用しています。

▼ デフォルトのプラットフォームエージェントを停止する

1. su コマンドでスーパーユーザになります。
2. パス/sbin ディレクトリに移動します。パスは、Sun Management Center ソフトウェアがインストールされているディレクトリです。
3. 以下を入力して、デフォルトのプラットフォームエージェントを停止します。

```
# ./es-stop -l
```

▼ プラットフォームエージェントのインスタンスを停止する

1. su コマンドでスーパーユーザになります。
2. パス/sbin ディレクトリに移動します。パスは、Sun Management Center ソフトウェアがインストールされているディレクトリです。
3. 以下を入力して、特定のプラットフォームエージェントのインスタンスを停止します。

```
# ./es-stop -y instanceName
```

たとえば、プラットフォームエージェントのインスタンスの名前が P1 の場合は、以下を入力します。

```
# ./es-stop -y P1
```

▼ すべての Sun Management Center コンポーネントを停止する

1. su コマンドでスーパーユーザになります。
2. パス/sbin ディレクトリに移動します。パスは、Sun Management Center ソフトウェアがインストールされているディレクトリです。

3. 以下を入力して、コンソール以外のすべての Sun Management Center コンポーネントを停止します。

```
# ./es-stop -A
```


用語集

- ACL 「アクセス制御リスト」を参照してください。
- ASIC Application-specific integrated circuit の略語です。
- CLI command-line interface (コマンド行インタフェース) の略語です。
- COD Capacity on Demand オプションのことです。
- DCA Paroli のための Daughter Card Assembly です。
- DIMM dual inline memory module の略語です。
- DR 「動的再構成 (DR)」を参照してください。
- D キャッシュ データキャッシュのことです。
- E キャッシュ 外部キャッシュのことです。
- ECC Error-Correcting Code (誤り訂正コード) の略語です。
- FRU field-replaceable unit (現場交換可能ユニット) の略語です。
- FT Fan tray (ファントレイ) の略語です。
- GUI graphical user interface (グラフィカルユーザインタフェース) の略語です。
- HPCI、hPCI、hsPCI Hot-swap PCI (ホットスワップ PCI) 集合部品のことです。
- HPCI+、hPCI+、hsPCI+ Hot-swap PCI (ホットスワップ PCI) プラス組立部品のことです。
- IB6 ~ IB9 入出力アセンブリのことです。
- IP Internet Protocol (インターネットプロトコル) の略語です。
- I キャッシュ 内部キャッシュのことです。
- LUN logical unit number (論理装置番号) の略語です。
- Paroli 並列光リンクのことです。

PCI /PCI+ それぞれ Peripheral Component Interconnect と PCI plus の略語です。

POST Power-On Self-Test (電源投入時セルフテスト) の略語です。

PS power supply (電源装置) の略語です。

RP0 ~ RP3 リピータボードのことです。

RSM remote shared memory (遠隔共有メモリ) の略語です。

SB0 ~ SB5 CPU / メモリボードのことです。

SC system controller (システムコントローラ) の略語です。

SCSI small computer system interface の略語です。

SNMP Simple Network Management Protocol の略語です。

SSC Sun Fire Midrange Systems コントローラのことです。

SSM scalable shared memory (スケーラブル共有メモリ) の略語です。

V Volts (ボルト) または Voltage (電圧) の略語です。

WCI Sun Fire Link Interface ASIC のことです。

WPCI Sun Fire Link PCI のことです。

W キャッシュ 書き込みキャッシュのことです。

アクセス制御リスト ドメインに割り当てることのできる、使用可能なボードのリストです。

管理ドメイン Sun Management Center 管理ドメインは、1 つ以上のホストシステムで構成されます。「ドメイン」という用語のその他の使用法と混同しないようにしてください。「ハードウェアドメイン」も参照してください。

デフォルトのプラットフォームエージェント

Sun Management Center 3.5 補助ソフトウェアをインストールすると、プラットフォーム管理モジュールエージェントが作成されます。デフォルトのプラットフォーム管理モジュールは、1 つの Sun Fire Midrange Systems を監視できます。複数の Sun Fire Midrange Systems を監視するには、追加のシステムごとにプラットフォームエージェントのインスタンスを 1 つ作成する必要があります。

動的再構成 (DR) 動的再構成ソフトウェアは、Solaris オペレーティング環境の一部で、この環境が稼働している間に、システムボードやコンパクト PCI I/O カードを安全に取り外し、取り付けることを可能にします。さらに、Solaris オペレーティング環境のもとで、システムボードやコンパクト PCI 入出力カードを別のドメインへ移すこともできます。

ドメイン 「管理ドメイン」と「ハードウェアドメイン」を参照してください。

ドメインの管理	このマニュアルでは、「ドメインの管理」はハードウェアドメインの管理を意味します（「ハードウェアドメイン」を参照）。ドメインの管理では、手順に従って、ホストシステム内のハードウェアリソース上で動作するソフトウェアやアプリケーションだけでなく、ハードウェアリソースそのものを管理します。『Sun Management Center 3.5 ユーザガイド』などの他のマニュアルでは、「ドメインの管理」は、複数のホストシステムからなるグループの管理を意味することがあります。「管理ドメイン」を参照してください。
パス	Sun Management Center ソフトウェアがインストールされているディレクトリです。たとえば、/opt/SUNWsymon に Sun Management Center がインストールされている場合、このディレクトリは /opt/SUNWsymon/addons/SunFirePltAdmin/sbin になります。
ハードウェアドメイン	Sun Fire Midrange Systems のドメインは、1つのホストシステム内に内蔵されているシステムボードなどの装置を論理的なグループにまとめたものです。このマニュアルでは、この種のドメインを「ハードウェアドメイン」と呼び、「管理ドメイン」と区別しています。
開く	アイコンの階層の下に隠れている下位項目を展開して表示させることです。
プラットフォーム管理	Sun Fire Midrange Systems 全体を管理、監視することです。プラットフォームの管理では、Sun Fire Midrange Systems を複数のハードウェアドメインに分割できます。ドメイン管理者は各ハードウェアドメインを個別に管理、監視できますが、プラットフォーム管理者は、プラットフォーム全体に加えて、個々のハードウェアドメインのすべてを管理、監視できます。
プラットフォームエージェントのインスタンス	デフォルトのプラットフォーム管理モジュールは、1つの Sun Fire Midrange Systems を監視できます。複数の Sun Fire Midrange Systems を監視するには、追加のシステムごとにプラットフォームエージェントのインスタンスを1つ作成する必要があります。
プロキシ	デフォルトのプラットフォームエージェントのコピーを「プロキシ」といいます。デフォルトのプラットフォーム管理モジュールは、1つの Sun Fire Midrange Systems を監視できます。複数の Sun Fire Midrange Systems を監視するには、追加のシステムごとにプラットフォームエージェントのインスタンスまたはプロキシを1つ作成する必要があります。

索引

A

ACL、「アクセス制御リスト」を参照

C

CPU コンポーネント、属性
動的接続点, 161

CPU/ メモリボード、属性
接続点, 154

E

es-platform 手順, 49, 184
es-setup 手順, 182, 183
es-start のオプション, 193
es-stop のオプション, 194

F

FRU 情報の表示, 105

H

hPCI、属性
カード
接続点, 157
ボード
入出力, 155

M

MaxCPU ボード、属性
接続点, 160

P

"platform"、プラットフォームエージェントのデ
フォルト名, 182, 183

PU_n_path、SunMC ソフトウェアの場所, 182, 183

S

SCSI コンポーネント、属性
動的接続点, 164

SCSI、属性
接続点, 158

setupdomain コマンド, 27

setupplatform コマンド, 25

SNMP、設定
ドメイン, 26
プラットフォーム, 25

SNMP の設定
ドメイン, 26
プラットフォーム, 25

Sun Fire オブジェクト, 58

Sun Fire システムのアイコン (絵), 6

Sun Fire システムのノード表示, 62

Sun Fire システムの複合表示, 63

Sun Fire 補助ソフトウェア
定義, 1

T

telnet コマンド, 25, 26

W

WPCI ボード、属性
ドメインの DR, 156

あ

空きスロット、属性
接続点, 159

アクセス権限, 58

アクセス制御リスト、編集, 106

アクセス制御 (ACL)

ボードがドメインの ACL に登録されていること
の確認, 166

アラームの生成規則, 141

い

インストール

概要, 22

図, 23

インストールと設定

エージェントのインスタンス、設定の取り消し
, 54

管理ドメイン、作成, 56

デフォルトのプラットフォーム管理モジュール、
設定の取り消し, 54

特定のプラットフォームエージェント、削除
, 55

ハードウェアドメイン、作成, 56

プラットフォームエージェントのインスタ
ンス、設定, 51

プラットフォームエージェントのインスタ
ンス、追加作成, 49

ユーザ、グループへの割り当て, 53

インストールとセットアップ

プラットフォームエージェントのインスタ
ンス、設定, 185

プラットフォームエージェントのインスタ
ンス、追加作成, 184

補助ソフトウェアのインストール, 179

ユーザ、グループへの割り当て, 185

お

オブジェクトの作成, 59

か

仮想キースイッチ, 76

仮想キースイッチのモード

オフ, 77

オン, 77

診断, 77

スタンバイ, 77

保護, 77

管理ドメインの定義, 3

管理者

ドメイン管理者とプラットフォーム管理者の比
較, 2

き

キースイッチ、「仮想キースイッチ」を参照
規則、アラームの生成, 141

起動

すべてのプラットフォームエージェント, 194

デフォルトのプラットフォームエージェント
, 193

特定のプラットフォームエージェントのイン
スタンス, 193

く

グループへのユーザの割り当て, 53, 185

こ

- 構成解除、ドメインからの
 - コンポーネント, 173
 - ボード, 173
 - メモリ, 174
- 構成、ドメインからの
 - コンポーネント, 172
 - ボード, 172
 - メモリ, 172
- 構成リーダーモジュール
 - アイコンの位置, 124
 - システムの物理表示と論理表示, 124
- 構成リーダーモジュールによる物理表示, 124
- 構成リーダーモジュールによる論理表示, 124
- 構成リーダーの属性テーブル, 131
- コンソール
 - セットアップ, 30, 31, 32, 36, 37, 38, 39, 40, 41, 42

し

- システムアラームの生成, 141
- システムコントローラの設定, 102, 189
- シャーン情報テーブル
 - FRU 情報, 99
 - 移動, 99
 - システムコントローラの設定, 99
 - テーブルのソート, 99
 - テスト, 99
 - 電源の投入と切断, 99
 - ログホストの設定, 99
 - 割り当て、割り当て解除, 99
- 使用可能なボードの割り当て, 100
- 状態の表示、ドメインからの, 177

す

- スロット、定義, 165

せ

- 切断、ドメインからの
 - ボード, 170
 - SCSI, 171
- セットアップ
 - ワークステーション, 31
 - 概要, 22
 - 図, 23
 - ネットワーク上の共通の場所, 30, 32, 36, 37, 38, 39, 40, 41, 42
 - ワークステーション, 30, 32, 36, 37, 38, 39, 40, 41, 42
 - ネットワーク上の共通の場所, 31
- 前提条件, xxi, 151

そ

- ソフトウェアの起動, 193

て

- 停止
 - すべてのプラットフォームエージェント, 195
 - デフォルトのプラットフォームエージェント, 195
 - 特定のプラットフォームエージェント, 195
- データ収集テーブル, 119
- 電源オフ
 - ボード
 - ドメインからの, 175
- 電源オン
 - ボード
 - ドメインからの, 174

と

- ドメインアクセス, 63
- ドメイン管理者のアクセス, 2
- ドメインテーブルの操作
 - アクセス制御リスト..., 76
 - キースイッチ..., 76
 - テーブルのソート, 76

- ドメインの管理, 76
 - ログホストの設定..., 76
- ドメインのアクセス制御リスト (ACL) の編集, 106
- ドメインの仮想キースイッチ設定の変更, 76
- ドメインのタイプの定義, 3
- ドメインの定義, 198
- ドメインの動的再構成 (DR)
 - SCSI の切断, 171
 - アイコン, 152
 - サポートされている cfgadm のオプション, 165
 - 状態の表示, 177
 - 接続点, 153
 - 属性
 - CPU コンポーネント, 161
 - CPU/ メモリ, 154
 - hPCI カード, 157
 - hPCI 入出力ボード, 155
 - MaxCPU, 160
 - SCSI, 158
 - SCSI コンポーネント, 164
 - WPCI, 156
 - 空きスロット, 159
 - 入出力コンポーネント, 163
 - メモリコンポーネント, 162
- 動的接続点, 153, 160
- 物理、定義, 165
- ボードのアタッチ, 167
- ボードの構成、コンポーネント、メモリ, 172
- ボードの接続, 169
- ボードの切断, 170
- ボードのテスト, 176
- ボードのデタッチ, 168
- ボードの電源オフ, 175
- ボードの電源オン, 174
- ボードの割り当て, 166
- ボードの割り当て解除, 167
- ボードまたはコンポーネントの構成解除, 173
 - メモリの構成解除, 174
- 論理、定義, 164

ドメインのログホストの設定, 78

に

- 入出力コンポーネント、属性

- 動的接続点, 163

は

- ハードウェア
 - 関連モジュール, 124
- パス、SunMC ソフトウェアの場所, 54

ひ

- 表示
 - アラーム規則, 126
 - システム内のすべてのデバイス, 126
 - システムの物理表示, 107
 - システムの論理表示, 107
 - ノード表示, 62
 - 複合表示, 63
- 表示、システムの表示, 107

ふ

- プラットフォームエージェント
 - すべてのエージェント、起動, 194
 - すべてのプラットフォームエージェント、停止, 195
 - デフォルトのプラットフォームエージェント、起動, 193
 - デフォルトのプラットフォームエージェント、停止, 195
 - 特定のエージェントのインスタンス、起動, 193
 - 特定のプラットフォームエージェント、停止, 195
- プラットフォーム管理者のアクセス, 2
- プラットフォーム管理の属性テーブル, 64
- プラットフォーム管理モジュール, 57

ほ

- ボードのアタッチ、ドメインからの, 167
- ボードの接続、ドメインからの, 169
- ボードのテスト, 102

ドメインからの, 176
ボードのデタッチ、ドメインからの, 168
ボードの割り当て解除, 100
ボードの割り当て解除、ドメインからの, 167
ボードの割り当て、ドメインからの, 166
ボードは1つのドメインにのみ割り当て可能, 100

め

メモリコンポーネント、属性
動的接続点, 162

も

モジュール
ドメインの動的再構成 (DR), 152
ハードウェア, 124
読み込み, 129
モジュールの読み込み, 129

ゆ

有用なヒント
検索機能における英大文字と小文字の区別, 113
ユーザ
アクセス権の付与, 53, 185
グループへの割り当て, 53, 185
ユーザのアクセス権, 53, 185
ユーザのマシンアクセス権, 53, 185
ユーザへのマシンアクセス権の付与, 53, 185

ろ

ログホスト
設定, 78
複数のログホストの指定, 78
ログホストの設定, 104

